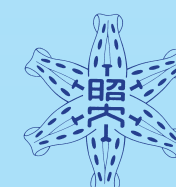


病院年報

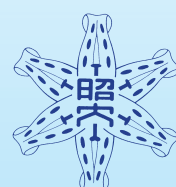
平成 27 年度



昭 和 大 学 病 院
昭和大学病院附属東病院

病院年報 平成27年度

昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院



昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院 年報

目 次

I 病院概要

1) 病院理念	7
2) 施設概要	11
3) 沿 革	13
4) 組 織	16
5) 医療機関の承認・指定状況等	18
6) 届出施設基準	19

II 診療統計及び臨床評価指標

1) 病院運営委員会に報告している統計資料	25
2) 診療科別・疾病分類別（入院）順位表	31
3) 診療科別 外来・入院診療実績	41

III 各部門活動状況

1 昭和大学病院

〈診療部門〉

1) 呼吸器・アレルギー内科	49
2) リウマチ・膠原病内科	51
3) 腎臓内科	53
4) 消化器内科	55
5) 血液内科	57
6) 循環器内科	59
7) 腫瘍内科	62
8) 総合内科（ER）	64
9) 感染症内科	66
10) 心臓血管外科	68
11) 呼吸器外科	70
12) 消化器・一般外科	72
13) 乳腺外科	75
14) 小児外科	77
15) 脳神経外科	79
16) 整形外科	82
17) リハビリテーション科	84
18) 形成外科	86
19) 美容外科	89

20) 産婦人科	91
21) 小児科	94
22) 泌尿器科	97
23) 耳鼻咽喉科	99
24) 放射線科	101
25) 放射線治療科	103
26) 麻酔科	105
27) 救急医学科	107
28) 臨床病理診断科	110
29) 歯科・口腔外科	112

〈中央診療部門〉

1) 総合周産期母子医療センター	
1－1) 産科部門	113
1－2) 新生児部門	115
2) 血液浄化センター	117
3) 救命救急センター	119
4) ICU	121
5) CCU	122
6) リハビリテーションセンター	124
7) 中央手術室	126
8) 緩和ケアセンター	127
9) 褥瘡ケアセンター	130
10) 腫瘍センター	131
11) ブレストセンター	133
12) 輸血センター	135
13) 超音波センター	137
14) 内視鏡センター	138

〈診療・患者支援部門〉

1) 看護部	140
2) 薬 局	143
3) 放射線室	146
4) 臨床病理検査室	149
5) 栄養科	151
6) 臨床工学室	153

〈診療運営部門〉

1) 臨床試験支援センター	155
2) 診療録管理室	157
3) 医療情報室	158

4) 管理第一課・管理第二課	159
5) 医事第一課・医事第二課	161
〈医療安全管理部門〉	
1) 医療安全管理部門	163
〈感染管理部門〉	
1) 感染管理部門	168
〈ベッドコントロール管理室〉	
1) ベッドコントロール管理室	170
〈総合相談センター〉	
1) 総合相談センター	171
 2 昭和大学病院附属東病院	
〈診療部門〉	
1) 糖尿病・代謝・内分泌内科	177
2) 神経内科	179
3) 精神・神経科	181
4) 眼 科	183
5) 皮膚科	185
6) 麻酔科（ペインクリニック）	187
〈中央診療部門〉	
1) 手術室	189
〈診療・患者支援部門〉	
1) 看護部（大学病院看護部に収蔵 P140参照）	
2) 薬 局	190
3) 臨床病理検査室（大学病院臨床検査部に収蔵 P149参照）	
4) 放射線室	193
5) 栄養科	194
〈診療運営部門〉	
1) 臨床試験支援室（大学病院臨床試験支援センターに収蔵 P155参照）	
2) 管理課	196
〈医療安全管理部門〉	
1) 医療安全管理部門	198
〈感染管理部門〉	
1) 感染管理部門	203
〈総合相談センター〉	
1) 総合相談センター（大学病院総合相談センターに収蔵 P171参照）	

〈本文のデータはすべて平成28年3月時点のものを記載しております。〉

I 病院概要

1) 病院理念

昭和大学の理念

本学は、創設者である上條秀介博士の「国民の健康に親身になって尽せる臨床医家を養成する」という願いのもとに設立された。その後、医学部・歯学部・薬学部および保健医療学部の四学部からなる医系総合大学に発展し、人々の健康の回復・維持・増進に貢献すべく、医療に携わる多くの専門家を輩出してきた。価値観が多様化し、社会構造の変化が地球規模で進む現代では、人々の医療に対する要求は多様かつ高度になり、医療のあり方もそれぞれの専門領域で深化するとともに分化してきた。その一方で、多種の医療専門職が互いに連携して克服すべき課題も生じ、専門領域の新たな統合も模索されてきている。このような時代の要請に対して、本学こそ、医系総合大学という特長を生かして、専門領域の深化と連携をはかり、知の新たな創造をめざすにふさわしく、またその達成が可能であると自ら信じるものである。これまでも増して、建学以来受け継がれてきた「至誠一貫」の精神を体現し、真心を持って国民一人一人の健康を守るために孜孜として尽力することを本学の使命とする。

昭和大学病院の理念

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| ● 患者本位の医療 | ● 高度医療の推進 | ● 医療人の育成 |
|-----------|-----------|----------|

昭和大学病院が目標とする医療

1. 患者さんの目線で考える医療
2. 職種・職域を越えたチーム医療
3. 先進的な医療の実践

昭和大学病院の基本方針

1. 患者さんにとって安心・安全で質の高い医療を提供する。
2. 地域との連携を推進し、特定機能病院としての医療を担う。
3. 教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
4. 生命倫理を尊び、科学的根拠に基づいた臨床研究を実施する。

昭和大学病院職員の倫理指針

1. 安全で良質な医療の提供に努める
2. 患者さんの生命及び人間としての尊厳、権利を尊重する
3. 患者さんに対して全て平等に接する
4. 患者さんに対し治療について解りやすい言葉と方法で納得されるまで説明する

患者さんの権利

医療は患者さんと医療従事者（医療機関）との十分な信頼関係の上で成り立っています。昭和大学病院は、すべての患者さんの下記の権利を尊重した医療を行います。

1. 安全で良質な医療を受ける権利
2. 各人の人格が尊重された医療を受ける権利
3. 個人の希望や意見を述べる権利とともに、希望しない医療を拒否する権利
4. 解りやすい言葉と方法で、納得できるまで説明と情報を受ける権利
5. 十分な説明と情報を受けた上で、治療方法などを自らの意思で選択する権利

当病院は医学教育のための施設でもあります。そのため、医学生・薬学生や看護学生などの教育実習が行われております。また、当病院は教育とともに医学研究を行っておりますので、患者さんの医学的な記録を研究に使用させていただくことがあります。この場合、患者さんの人権は保護された上で行いますので、あわせて皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

昭和大学病院を受診される患者の皆様へ

－医療安全に関するメッセージ－

病院の中で行われる手術や注射、検査などを診療行為と言います。その診療行為の多くは、皮膚を切ったり、体に針を刺したりするため、身体にとって負担となるわけです。通常、その負担よりも診療行為による治療効果等の「利益」の方が大きいので、病院では診療行為が行われるわけです。しかし、今までの医療の発展の歴史や、今後とも発展させて行かねばならないことを考えますと、現在も医療とは本質的に不確実なものであることをご理解下さい。つまり、私たち医療に携る者が、例えば、不注意によって起こしてしまうような「過失」がなくても、重大な合併症や偶発症が起こり得ます。加齢に伴う、またはひそかに進行していた病気が診療行為の前や後に発症する可能性もあります。ですからそれらが起こった場合は、治療に最善を尽くすことはもちろんですが、最悪の事態もあり得ます。生命の仕組みを解明する努力は日進月歩でなされていますが、私ども医学の専門家からみても、生命は複雑でかつ神秘的でさえあります。重要な合併症で予想できるものについては十分に説明することができます。しかし、極めて稀なものや予想のつかないものもありますので、全ての可能性を説明することはできません。つまり、このように医療は必ずしも確実ではないということです。医療の進歩により確実に説明できる範囲が増えていることは確かですが、全てにわたって説明できるということはこれからも不可能と思わねばなりません。今後皆様には、私どもが医療行為を行うにあたり、同意書などを求めることがあると思います。その場合には、こうした不確実なことが医療には存在することをご承知いただいた上で同意書に署名して下さい。疑問があるときには、納得できるまで質問して下さい。納得できない場合には、無理に結論を出さずに、他の医師の意見（セカンド・オピニオン）をお聞きになるようお勧めします。何かお困りのことが生じましたら『総合相談センター（中央棟 1 階正面入口から入って右隣り）』に遠慮なくご相談下さい。今後とも、皆様とともに協働して質の高い医療を実践していく所存です。ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

迷惑行為について

次のような迷惑行為は、診療をお断りするとともに、所轄警察に届ける場合があります。

- ・ 他の患者さんや職員にセクシャルハラスメントや暴力行為があった場合、もしくはその恐れが強い場合。
- ・ 大声、暴言または脅迫的な言動により、他の患者さんに迷惑を及ぼし、あるいは職員の業務を妨げた場合。
- ・ 解決しがたい要求を繰り返し行い、病院業務を妨げた場合。
- ・ 建物設備等を故意に破損した場合。
- ・ 受診に必要なのない危険な物品を院内に持ち込んだ場合。

これからの医療にあたって

「新しい医療の考え方 当病院ではこのように考えております。」今日の医療環境では、一つの診療所や病院のみで患者さんの診断から治療、経過観察が終了するまでのすべてを行うことは難しくなっております。（これを院内完結医療といいます。）一方、近隣の医療機関と連携・協力して医療にあたることを地域内完結医療といい、国の医療政策でもあります。当病院は、地域内完結医療を目指し、病診連携を積極的に行っており「かかりつけ医」の推進をしております。病状が安定され、お薬のみで来院されている方や退院後などに往診が必要な患者さんにおかれましては、紹介元の先生方のところに戻っていただき、「かかりつけ医」が決まっていない患者さんにおかれましては、ご希望に応じて患者さんのご自宅に近い診療所・病院をご紹介します。また、かかりつけ医の先生方の診療において専門治療が必要と判断されたときや、定期的に検査が必要な患者さんにつきましては、従来通り安心して当病院で診察を行えます。詳細につきましては、主治医または医療連携窓口（中央棟1階正面入口奥）へご相談下さい。

患者さんの個人情報について

当病院は、個人の権利・利益を保護するために、個人情報を適切に管理することを社会的責務と考えます。また、取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録を、医療機関としてだけでなく教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 個人情報の利用目的

個人情報は、各種法令に基づいた院内規定を守ったうえで下記の目的に利用されます。

（1）当病院での利用

患者さんがお受けになる医療サービス

医療保険事務

患者さんに関係する管理運営業務

（入退院等の病棟管理、会計・経理、医療事故の報告、医療サービスの向上）

医療サービスや業務の維持・改善のための基礎資料

（2）当病院および学校法人昭和大学での利用

医学系教育

症例に基づく研究

外部監査機関への情報提供

この利用に当たりましては、匿名化するよう努力します。

(3) 他の事業者等への情報提供

他の病院、診療所、助産所、薬局、訪問看護ステーション、介護サービス事業者等との医療サービス等に関する連携

他の医療機関等からの医療サービス等に関する照会への回答

患者さんの診療等にあたり外部の医師等の意見・助言を求める場合

検体検査業務の委託その他の業務委託

ご家族への病状説明

医療保険事務（保険事務の委託、審査支払機関へのレセプトの提出）

審査支払機関又は保険者からの照会への回答

関係法令等に基づく行政機関及び司法機関等への提出等

関係法令に基づいて事業者等からの委託を受けて健康診断を行った場合における、事業者等へのその結果通知

医師賠償責任保険などに係る医療に関する専門の団体、保険会社等への相談又は届出等

(4) その他の利用

上記利用目的以外に個人情報を利用する場合は、書面により同意をいただくことといたします。

2. 個人情報開示請求

所定の手続きのうえ、自己の個人情報の開示を請求することができます。

(1) 開示相談窓口：総合相談センター患者相談担当（03-3784-8775）

(2) 請求手数料：患者さんが個人情報の開示を請求する場合は、当病院が定めた手数料を納めていただきます。

手数料 5,400 円（税込） コピー代 1 ページ 43 円（税込）

※詳細は窓口にご確認ください。

3. 個人情報についての相談他

当病院での個人情報の取扱い等に関して、ご不明な点・ご異義等がございましたら、下記にご連絡下さい。

総合相談センター患者相談担当（03-3784-8775）

4. 付記

・上記のうち、他の医療機関等への情報提供について同意しがたい事項がある場合には、その旨を担当医にご相談下さい。

・お申し出がないものについては、同意していただけたものとして取り扱わせていただきます。

・これらのお申し出は、いつでも撤回、変更することが可能です。

診療録について

当病院の診療録は、院内、院外の施設に保存しており、運用管理においては、日常の診療に不都合が生じることの無いよう万全の体制を整えております。また、主に院外の保存につきましては、患者さんの個人情報の保護に努めた運用を行っておりますのでご了承下さい。

2) 施設概要

■昭和大学病院 (平成28年3月現在)

規模	中央棟 入院棟	S R C造 S R C造	地上 1 1 階 地上 1 8 階	地下 3 階 地下 3 階	
面積	(延床面積)	中央棟 入院棟	39,907.15 m ² 28,497.01 m ²		
電気設備	特別高圧 S N W方式3回線 22 K V (3,000 K V A×3) 設備容量 中央棟 変圧器25台 9,950 K V A、 入院棟 変圧器23台 5,000 K V A、 計 14,950 K V A 自家用発電機 中央棟 ガスタービン発電機(空冷式) 1,500 K V A×1台 入院棟 ディーゼル発電機(水冷式) 1,250 K V A×1台 C V C F設備 中央棟 2組・100 V 出力 100 K V A 入院棟 1組・100 V 出力 100 K V A				
空調設備	中央棟 入院棟	空調機 F C U P A C 送排風機 空調機 F C U P A C 送排風機	53台 521台 20台 192台 21台 400台 24台 60台		
給排水設備	給水設備 給湯設備 排水設備 R I 排水設備	中央棟 入院棟 中央棟 入院棟 中央棟	上水受水槽217m ³ 、 上水高架水槽43m ³ 雑用水受水槽145m ³ 、雑用水高架水槽27m ³ 上水受水槽500m ³ 、 上水高架水槽30m ³ ×2台 9.5m ³ ×2台 7.9m ³ ×2台、 2.2m ³ ×2台、 2.9m ³ ×2台 汚水排水調整槽130m ³ 、 雑排水調整槽190m ³ 、 雨水貯留槽204m ³ 汚水槽20m ³ 、雑排水槽20m ³ 、グリストラップ20m ³ ×2槽 貯留槽20m ³ ×3基(排水量1m ³ ／日)		
ガス設備	都市ガス(中圧・低圧)				
昇降機設備	中央棟 入院棟	乗用(展望用) 人荷用(非常用) 寝台用 乗用 荷物用(クリーンタイプ) 乗用(油圧) ダムウェーター エスカレーター 乗用(非常用) 寝台用(非常用) 寝台用 人荷用(非常用) 人荷用(厨房用) ダムウェーター	120m／m i n 120m／m i n 120m／m i n 120m／m i n 60m／m i n 45m／m i n 30m／m i n 30m／m i n 150m／m i n 150m／m i n 105m／m i n 105m／m i n 150m／m i n 60m／m i n	15人用 26人用 15人用 15人用 600 k g 9人用 100 k g 1200形 17人用 14人用 14人用 17人用 17人用 100 k g	3基 (No.1～3) 2基 (No.4・9) 2基 (No.5・6) 2基 (No.7・8) 1基 (No.10) 1基 (No.11) 2基 (DW No.1・2) 8基 2基 (No.1・2) 1基 (No.3) 1基 (No.4) 1基 (No.5) 1基 (No.6) 1基 (故障中)
エネルギー設備	中央棟 入院棟	電動ターボ冷凍機×2台(289 U S R T) 冷温水発生機×2台(564 U S R T) 貫流ボイラー×4台(換算蒸発量2,000 k g／h) 真空温水ボイラー×2台(1000 M C a l／h、400 M C a l／h)×1台 冷温水発生機×2台(450 U S R T) 貫流ボイラー×3台(換算蒸発量2,000 k g／h)	燃料：都市ガス13 Aおよび非常用灯油 燃料：都市ガス13 A及び灯油 燃料：非常用灯油 燃料：都市ガス13 A 燃料：都市ガス13 A		

■昭和大学病院附属東病院（平成28年3月現在）

規模	SRC造 地上7階 地下2階		
面積	（延床面積）東病院 13,047㎡ 12,955㎡		
電気設備	地中方式1回線6.6kV 設備容量 Tr8台 2,600KVA 自家発電機 ガスタービン発電機（空冷式）500KVA CVC設備 1組・100V 15KVA		
空調設備	AC 8台 AHE 3台 FCU 66台 PMモジュラックユニット 144台 73台 （ピーマック、60台） 131台 PAC 5台 エアコン 12台 （CT室、X線室、DR、監視室、栄養科、清掃室、霊安室、守衛室、診療録） 給排気ファン 計84台 シロッコ型 20台 ライン型 43台 換気扇 21台		
給排水設備	給水設備 上水受水槽 60㎡ 1基 （加圧ポンプ式） 消火水槽 給湯設備 ストレージタンク 4.2㎡×2台 排水設備 ・機械排水槽×1 ・雨水槽×2 ・汚水槽（86㎡）×1 ・雑排水槽（80㎡）×1 ・湧水槽×3 ・グリストラップ（1㎡）×1 グリストラップ ・栄養科（1㎡）×1 ・2階食堂×1		
ガス設備	都市ガス（低圧）		
昇降機設備	寝台用 (No.1, 2) 90m/min 14名 乗用 (No.3, 4) 90m/min 11名 ダムウェーター (No.5, 6) 30m/min 200kg		
エネルギー設備	水冷チラー×3台 207KW×3 燃料：電気 ボイラー×2台 350kg/h（換算蒸発量） 燃料：ガス ボイラー×1台 400kg/h（換算蒸発量） 燃料：灯油 バコティンヒーター×2台 679kw（最大燃焼量） 燃料：ガス バコティンヒーター×1台 40,600KJ/㎡（低発熱量） 燃料：ガス・灯油（併用）		

3) 沿革

昭和大学病院沿革

年 号	西 暦	年 譜
大正14	1925	医学博士上條秀介、医学専門学校設立の必要を提唱し石井吉五郎らと同志を募る。 学校設立地を東京府荏原郡平塚大字中延に決める。
大正15	1926	第1回創立委員会開催、創立の方針を決める。創立委員長に鎗木忠正。 上條秀介宅を創立事務所とし、上條秀介常務委員となる。
昭和2	1927	東京府荏原郡荏原町の敷地に講堂及び附属医院を建築着工。
昭和3	1928	財団法人昭和医学専門学校を設立し、昭和医学専門学校設置。講堂及び附属医院竣工。
昭和21	1946	学校法人昭和医科大学設立。昭和医科大学病院に名称変更。
昭和39	1964	昭和医科大学病院を昭和大学病院に名称変更。
昭和55	1980	昭和大学病院入院棟竣工。
昭和62	1987	東棟（現、昭和大学病院附属東病院）開設。
平成6	1994	昭和大学病院、特定機能病院に認可される。
平成7	1995	阪神淡路大震災で昭和大学医療救援隊1か月間医療奉仕。 エイズ拠点病院となる。
平成8	1996	昭和大学病院中央棟第一期工事竣工、診療開始。 （地域）災害拠点病院に選定される。
平成9	1997	東京都災害時後方医療施設の指定を受ける。
平成10	1998	昭和大学病院中央棟二期工事竣工。
平成11	1999	昭和大学病院中央棟二期工事竣工。東棟分離・独立。 （昭和大学病院附属東病院開設） 救命救急センターの認定を受ける。 日本医療機能評価機構により病院機能評価の認定を受ける。
平成15	2003	東京都総合周産期母子医療センターとして指定を受ける。 DPC対象病院となる。 東京都CCUネットワークに加盟する。
平成16	2004	臨床研修指定病院となる。 日本医療機能評価機構により病院機能評価の更新認定を受ける。
平成17	2005	東京DMAT指定医療機関として指定を受ける
平成18	2006	特定機能病院入院基本料（7:1入院基本料）届け出。
平成20	2008	東京都認定がん診療病院として認定を受ける。
平成21	2009	東京都母体救命対応総合周産期母子医療センターとして指定される。 日本医療機能評価機構により病院機能評価の更新認定を受ける。
平成22	2010	がん診療連携拠点病院として認定を受ける。 プレストセンターの新設。
平成23	2011	臓器別のセンターの新設。 総合診療部の新設。
平成24	2012	東京都よりDMATカーが配備。 卒後臨床研修評価機構により臨床研修評価の認定を受ける。
平成25	2013	内視鏡下手術支援ロボット「ダヴィンチ」導入。 内視鏡センター改修工事
平成26	2014	日本医療機能評価機構により病院機能評価の更新認定を受ける。 がん診療連携拠点病院としての更新認定を受ける。 卒後臨床研修評価機構により臨床研修評価の更新認定を受ける。 頭頸部腫瘍センターの新設。 優良防火対象物の認定を受ける。
平成27	2015	ハイブリッド手術室の新設。

昭和大学附属東病院沿革

年号	西暦	年譜
大正 14	1925	医学博士上條秀介、医学専門学校設立の必要を提唱し石井吉五郎らと同志を募る。 学校設立地を東京府荏原郡平塚大字中延に決める。
大正 15	1926	第1回創立委員会開催、創立の方針を決める。創立委員長に鐺木忠正。 上條秀介宅を創立事務所とし、上條秀介常務委員となる。
昭和 2	1927	東京府荏原郡荏原町の敷地に講堂及び附属医院を建築着工。
昭和 3	1928	財団法人昭和医学専門学校を設立し、昭和医学専門学校設置。 講堂および附属医院竣工。
昭和 21	1946	学校法人昭和医科大学設立。 昭和医科大学病院に名称変更。
昭和 39	1964	昭和医科大学病院を昭和大学病院に名称変更。
昭和 62	1987	東棟(現、昭和大学病院附属東病院)開設。
平成 11	1999	昭和大学病院より分離・独立。 昭和大学病院附属東病院開設。
平成 19	2007	7 対 1 入院基本料届出。
平成 21	2009	DPC対象病院となる。

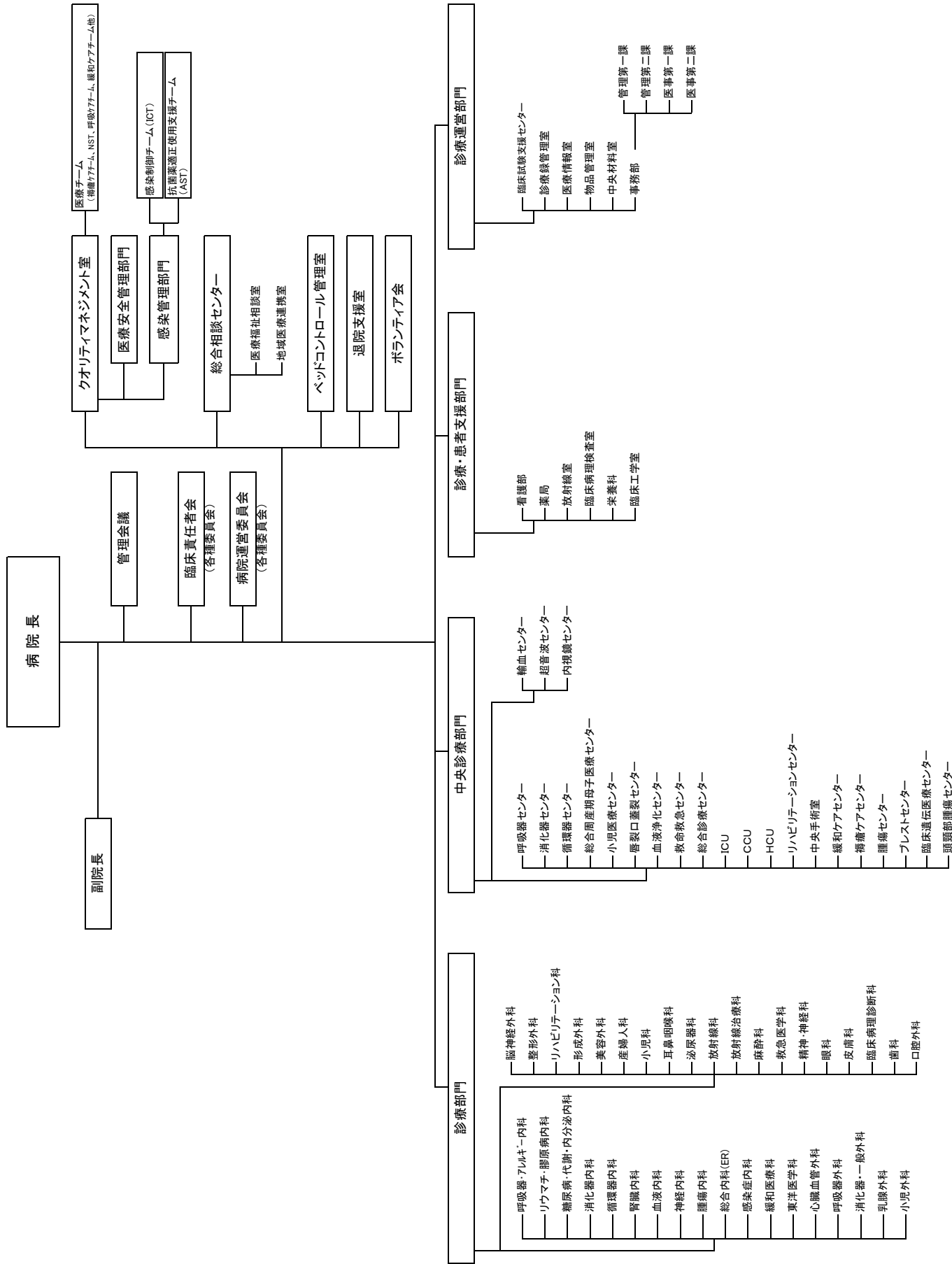
病床種別病床数の推移
施設名 昭和大学病院、昭和大学附属東病院

平成28年3月31日現在

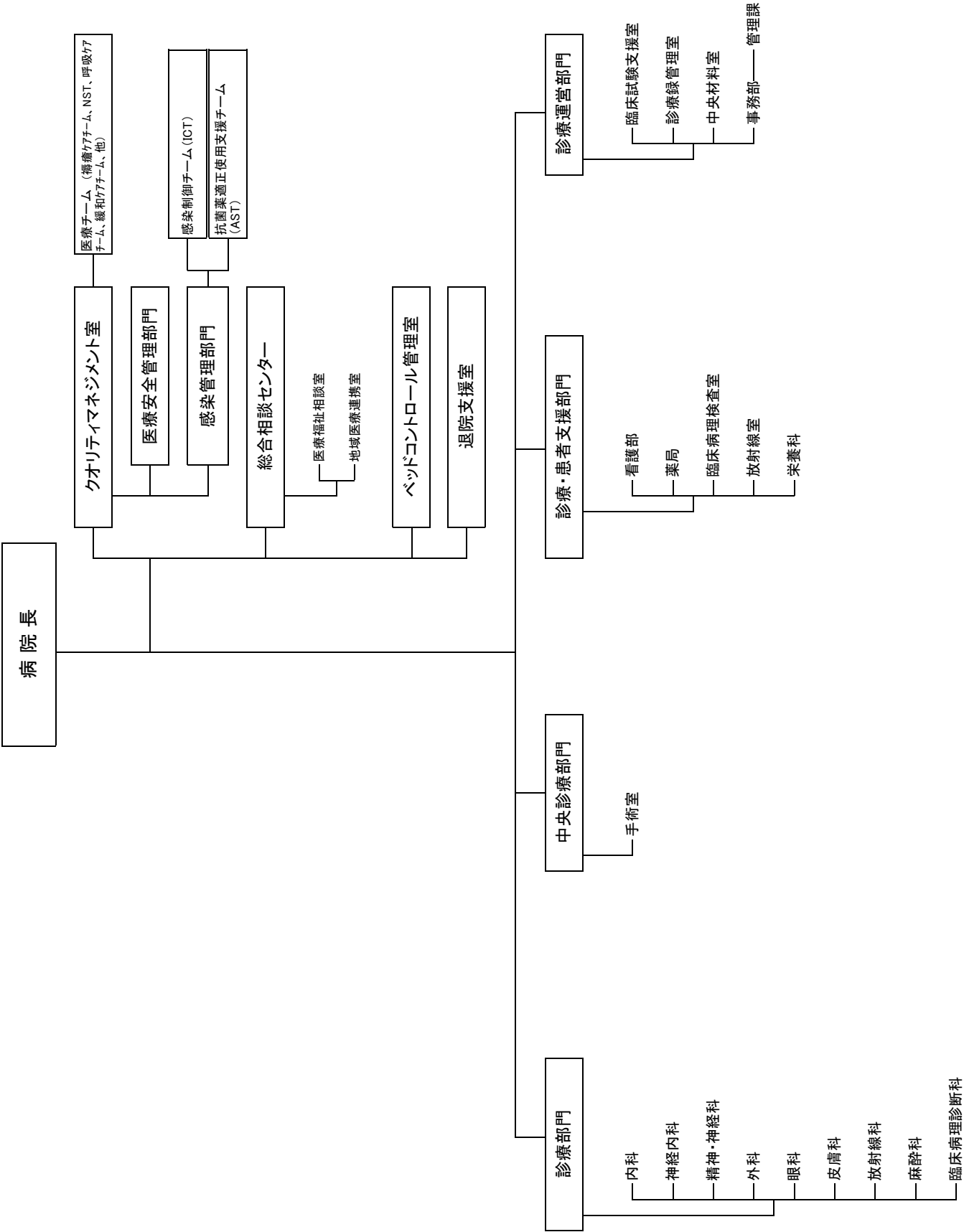
年月日	病床数					備考
	総数	一般	精神	結核	伝染	
昭和4年4月1日	92	65			27	昭和医学専門学校附属医院 入院棟開棟
昭和6年4月1日	104	77			27	
昭和13年4月1日	324	252		45	27	
昭和24年9月1日	309	224		57	28	
昭和25年1月1日	264	221	3	38	2	
昭和24年12月31日	264	261	3			
昭和26年7月1日	158	158				
昭和28年3月1日	309	178		125	6	
昭和29年6月1日	309	184		125		
昭和31年9月1日	463	338		125		
昭和32年2月1日	467	342		125		
昭和32年12月1日	467	399		68		
昭和34年6月1日	600	532		68		
昭和39年3月1日	696	631		65		昭和大学病院と改称
昭和43年7月1日	806	806				
昭和44年10月1日	749	749				
昭和47年7月1日	753	753				
昭和48年6月1日	767	767				
昭和49年8月9日	727	727				
昭和55年2月5日	723	723				
昭和55年12月4日	1,343	1,343				入院棟開棟
昭和56年1月23日	826	826				入院棟へ移転した病棟を閉鎖
昭和61年5月1日	890	890				
昭和56年6月9日	843	843				
昭和57年4月12日	990	990				西病棟開棟
昭和57年7月5日	943	943				
昭和60年8月7日	936	936				N4階改修
昭和61年4月18日	946	946				旧本館4-2病棟改修
昭和61年12月17日	947	947				N15階改修
昭和62年4月28日	1,118	1,068	50			東病棟開棟
昭和62年7月7日	1,123	1,073	50			N9階改修
昭和63年12月28日	1,131	1,081	50			救急センター改修
平成1年3月23日	1,140	1,090	50			入院棟改修
平成1年4月4日	1,148	1,098	50			〃
平成1年7月28日	1,180	1,130	50			旧4-2病棟改修
平成5年3月23日	1,176	1,126	50			本館改修
平成6年2月22日	1,142	1,092	50			本館B1、1、2、3階改修
平成9年4月22日	1,373	1,323	50			N5、6、8、9階、C1、6、8、9階改修
平成9年7月8日	1,027	977	50			N2階、旧病棟(本館、西病棟)改修
平成9年9月10日	1,031	981	50			N7、10階改修
平成9年9月29日	1,044	994	50			N2、11階改修
平成9年10月20日	1,047	997	50			N11階改修
平成10年4月2日	1,053	1,003	50			N11、14、15階改修
平成10年6月8日	1,061	1,011	50			N12、13階改修
平成10年8月12日	1,070	1,020	50			N9、10階改修
平成10年10月1日	1,094	1,044	50			N5、東棟2、4階改修
平成10年10月7日	1,100	1,050	50			N4-1、6、7階改修
平成11年2月16日	大学病院 東病院	1,050 215	1,050 165			東棟が東病院として独立して開設
平成11年4月1日	大学病院 東病院	885 215	885 165			中央棟改修
平成14年10月23日	大学病院 東病院	873 215	873 165			N5階改修(MFICU、LDR、新生児室の設置)
平成15年4月1日	大学病院 東病院	879 215	879 165			〃
平成18年5月10日	大学病院 東病院	879 199	879 199			E3～5階改修
平成18年6月6日	大学病院 東病院	853 199	853 199			N3、4、6～9、12、13、16階改修
平成22年12月1日	大学病院 東病院	844 199	844 199			・ N6階の3室(15床)を新生児室へ改修 ・ NICUとMFICUを3床ずつ増床
平成23年2月28日	大学病院 東病院	815 199	815 199			・ 臓器別のセンターの新設 ・ 総合診療部の新設

昭和大学病院組織図

4) 組織



昭和大学病院附属東病院組織図



5) 医療機関の承認・指定状況等

法令等の名称		承認(指定)等の年月日
医療法による病院開設承認		昭和 3年 5月 15日
特定機能病院		平成 6年 3月 1日
消防法による救急医療機関		昭和 40年 3月 18日
労働者災害補償保険法による医療機関		昭和 26年 7月 1日
地方公務員災害補償法による医療機関		昭和 26年 7月 1日
原爆援護法	一般医療	昭和 35年 10月 1日
	認定医療	—
	健康医療	—
戦傷病者特別援護法による医療機関		昭和 28年 2月 12日
母子保健法	妊娠中毒	昭和 45年 4月 1日
	妊娠乳児健康診査	昭和 45年 4月 1日
	養育医療	昭和 35年 2月 15日
生活保護法による医療機関		昭和 30年 10月 1日
障害者自立支援法	育成医療・更正医療機関	平成 19年 1月 1日
	精神通院医療機関	平成 19年 2月 1日
臨床修練指定病院(外国医師・外国歯科医師)		昭和 63年 3月 29日
指定小児慢性特定疾病医療機関		平成 27年 1月 1日
難病医療費助成指定医療機関		平成 27年 1月 1日

小児慢性特定疾患治療研究事業	
悪性新生物	昭和 48年 4月 1日
慢性腎疾患	昭和 48年 4月 1日
慢性呼吸器疾患	昭和 48年 4月 1日
慢性心疾患	昭和 48年 4月 1日
内分泌疾患	昭和 48年 4月 1日
膠原病	昭和 48年 4月 1日
糖尿病	昭和 48年 4月 1日
先天性代謝異常	昭和 48年 4月 1日
血友病等血液疾患・免疫疾患	昭和 48年 4月 1日
神経・筋疾患	昭和 48年 4月 1日
慢性消化器疾患	昭和 48年 4月 1日
先天性血液凝固因子障害等治療研究事業	
先天性血液凝固因子欠乏症	平成 元年 4月 1日

6) 届出施設基準

基本診療料に係る施設基準
歯科外来診療環境体制加算
特定機能病院入院基本料（7対1）
臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算1
急性期看護補助体制加算（50対1）
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算1・2
緩和ケア診療加算
がん診療連携拠点病院加算
医療安全対策加算1
感染防止対策加算1
患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊婦管理加算
ハイリスク分娩管理加算 ※平成26年取扱分娩件数1,135件
※医師数29名/助産師数52名（平成26年4月1日現在）
退院調整加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
呼吸ケアチーム加算
病棟薬剤業務実施加算
データ提出加算2
救命救急入院料1
特定集中治療室管理料3（小児加算）
ハイケアユニット入院医療管理料1
総合周産期特定集中治療室管理料1・2
新生児治療回復室入院医療管理料
小児入院医療管理料1

特掲診療料に係る施設基準
ウイルス疾患指導料
心臓ペースメーカー指導管理料（植込型除細動器移行加算）
高度難聴指導管理料
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料1・2・3
外来緩和ケア管理料
移植後患者指導管理料（臓器移植後）
糖尿病透析予防指導管理料
地域連携小児夜間・休日診療料2
地域連携夜間・休日診療料
院内トリートメント実施料
外来リハビリテーション診療料
外来放射線照射診療料
ニコチン依存症管理料
地域連携診療計画管理料
がん治療連携計画策定料
がん治療連携管理料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2
歯科治療総合医療管理料
持続血糖測定器加算
造血器腫瘍遺伝子検査
HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
検体検査管理加算（Ⅰ）
検体検査管理加算（Ⅱ）
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
植込型心電図検査
時間内歩行試験
胎児心エコー法
ヘッドアップディスプレイ試験
神経学的検査
補聴器適合検査
小児食物アレルギー負荷検査
センチネルリンパ節生検（乳がんに係るものに限る。）（併用法・単独法）
画像診断管理加算1
画像診断管理加算2
遠隔画像診断
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算

外傷全身ＣＴ加算
大腸ＣＴ撮影加算
心臓ＭＲＩ撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション料
イノールの局所注入（甲状腺に対するもの）
イノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）
透析液水質確保加算 2
一酸化窒素吸入療法
組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）
骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、青髄刺激装置植込術及び青髄刺激装置交換術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅴ型（拡大副鼻腔手術）
上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）
乳がんセンチネルリンパ節加算 1、乳がんセンチネルリンパ節加算 2
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈形成術（特殊ゲージによるもの）
経皮的冠動脈ステント留置術
経皮的大動脈弁置換術
磁気ナビゲーション加算
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術（レーザーシースを用いるもの）
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
大動脈バルーンポンピング法（IABP法）
経皮的大動脈遮断術
腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
ダメージコントロール手術
腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
体外衝撃波胆石破碎術
腹腔鏡下肝切除術
生体部分肝移植術
体外衝撃波膵石破碎術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
腹腔鏡下小切開副腎摘出術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術
腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
同種死体腎移植術
生体腎移植術
腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
胎児胸腔・羊水腔シャント術
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）に掲げる手術
輸血管理料Ⅰ
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
内視鏡手術用支援機器加算
麻酔管理料（Ⅰ）
麻酔管理料（Ⅱ）
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算
強度変調放射線治療（IMRT）
画像誘導放射線治療加算（IGRT）
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算
保険医療機関間の連携による病理診断
病理診断管理加算 2
クラウン・ブリッジ維持管理料

昭和大学病院附属東病院

基本診療科に係る施設基準

一般病棟入院基本料（7対1）

臨床研修病院入院診療加算

診療録管理体制加算2

重症皮膚潰瘍管理加算

医療安全対策加算1

感染防止対策加算2

データ提出加算2

特掲診療科に係る施設基準

糖尿病合併症管理料

がん性疼痛緩和指導管理料

糖尿病透析予防指導管理料

地域連携診療計画退院時指導料（I）

薬剤管理指導料

持続血糖測定器加算

皮下連続式グルコース測定

神経学的検査

ロービジョン検査判断料

内服・点滴誘発試験

遠隔画像診断

CT撮影及びMRI撮影

脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術

緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））

網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）

網膜再建術

医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む）に掲げる手術

Ⅱ 診療統計及び臨床評価指標

1) 病院運営委員会に報告している統計資料

平成27年度 昭和大学病院 診療統計表 -1

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
		診療日数	診療日数	診療日数	診療日数	診療日数	診療日数	診療日数	診療日数	診療日数	診療日数	診療日数	診療日数	平均	合計
診療実績	入院	30	31	30	31	31	30	30	31	30	31	29	31	31	366
	外来	25	23	26	26	26	23	23	23	23	23	24	26	25	294
病床利用率		82.6%	78.4%	79.1%	80.4%	81.9%	78.1%	81.9%	80.5%	83.9%	81.7%	85.6%	85.4%	81.6%	
入院平均在院日数		12	12	11	11	11	11	11	12	12	12	12	11	12	
医療収入額 (千円)	入院	1,575,391,668	1,440,358,695	1,523,721,243	1,603,707,948	1,583,012,929	1,451,260,813	1,581,843,597	1,514,740,517	1,608,158,895	1,576,219,964	1,580,260,218	1,634,105,810	1,556,065,191	18,672,782,297
	外来	626,140,929	586,995,623	643,532,366	655,432,144	600,545,903	616,600,012	673,370,749	627,293,79	649,846,933	641,107,793	653,379,464	711,582,001	640,485,591	7,685,827,096
分娩件数		93	101	100	109	86	114	115	93	93	106	85	101	100	1,186
時間外患者数(延患)		1,455	1,742	1,537	1,588	1,624	1,685	1,596	1,617	1,802	1,666	1,358	1,479	1,596	19,149
		1,193	1,402	1,234	1,315	1,273	1,329	1,280	1,299	1,439	1,333	1,090	1,194	1,282	15,381
時間外患者数(新患)		336	354	304	342	355	353	386	349	408	368	328	326	351	4,209
		472	506	439	543	538	559	537	506	587	504	490	532	518	6,213
救急車件数		78	85	87	99	80	79	73	73	106	86	70	86	102	1,027
三次救急		126	97	156	185	117	117	135	111	119	106	145	109	127	1,523
品川区子ども夜間救急室		13,313	12,525	13,344	13,432	13,021	12,716	13,932	12,815	13,344	13,176	13,009	13,918	13,212	158,545
		245	241	240	261	228	210	266	255	253	213	269	289	245	2,936
心臓血管患者数		992	931	924	988	1,067	787	884	899	933	865	868	996	929	11,144
		2,079	2,016	2,297	2,200	2,128	1,996	2,087	2,162	2,223	2,203	2,137	2,307	2,153	25,835
放射線部		313	266	312	288	285	281	310	269	252	268	306	271	283	3,401
		874	760	915	858	877	769	880	729	781	751	798	902	823	9,874
MRI		705	641	835	835	806	712	821	711	718	726	747	808	754	9,045
		556,830	533,626	564,379	573,755	543,446	527,712	565,092	518,040	546,185	557,482	551,560	574,026	551,011	6,612,133
臨床病理検査室		15,726,094	14,936,608	16,138,223	16,279,370	15,482,973	14,505,588	15,898,655	14,615,556	15,388,990	15,518,883	15,464,594	16,153,613	15,509,004	186,108,047
		5,615	5,564	5,862	6,111	5,859	5,744	6,002	5,777	6,222	6,227	5,959	6,023	5,914	70,965
輸血センター		495,202	449,115	498,330	512,768	452,213	440,296	436,687	433,332	472,177	510,307	495,748	513,506	475,810	5,709,724
		11,335	10,544	11,053	11,343	11,215	10,527	11,185	10,527	11,421	10,875	10,431	11,543	11,000	131,999
入院		23,363	21,365	22,808	23,303	22,513	20,882	23,509	21,725	23,540	21,569	21,113	23,215	22,409	268,905
注射薬		11,160	10,597	10,565	10,727	11,077	10,169	10,864	10,291	11,306	11,443	10,770	11,143	10,843	130,112
外来		114	90	104	121	109	140	124	129	134	128	125	167	125	1,495
		326	275	334	349	330	442	421	333	392	373	412	491	373	4,478
院外処方		17,182	15,732	17,915	17,149	15,824	16,050	18,177	19,204	16,930	15,660	16,978	17,688	16,791	201,489
		3,188	2,928	3,191	3,184	3,357	3,110	3,510	3,070	3,369	3,051	3,365	3,649	3,387	38,972
リハビリテーションセンター		842,051	818,483	913,382	926,193	895,629	834,114	927,453	863,290	925,895	874,003	944,601	1,019,024	898,677	10,784,118
		1,810	1,762	2,009	1,993	1,983	1,842	1,882	1,846	1,703	1,554	1,733	1,858	1,839	22,065
内科センター		492,895	502,942	596,043	589,457	534,102	505,375	503,951	494,227	474,959	425,512	485,767	502,406	507,303	6,087,636
		992	895	1,141	1,111	1,078	947	996	1,040	1,109	1,089	1,137	1,047	1,047	12,564
超音波センター		3,442	3,007	3,764	3,699	3,425	3,387	3,860	3,635	3,592	3,594	3,695	4,086	3,599	43,186
		407	407	401	462	368	299	495	184	480	433	367	436	407	4,880
血液浄化センター		548	552	651	639	583	647	660	625	622	645	645	726	641	7,691
		683	639	675	884	853	871	899	864	601	752	990	874	814	9,763
腫瘍センター		627	509	653	668	626	601	574	559	603	615	589	709	611	7,333
		72	69	61	62	56	65	62	59	70	76	59	70	65	781
手術室		8	6	5	3	8	6	1	4	5	3	5	3	5	56
		25	34	32	43	26	39	42	42	52	60	57	67	43	519
診療録情報開示件数		164	173	194	186	179	164	200	5	182	162	157	146	159	1,912
		1,684	1,542	1,901	1,826	1,809	1,588	1,804	1,747	1,870	1,765	1,776	2,082	1,783	21,394
総合栄養センター		1,408,310	1,253,810	1,579,640	1,519,190	1,489,280	1,295,260	1,499,550	1,433,480	1,535,720	1,460,730	1,467,140	1,716,500	1,471,548	17,658,570
		1,024	990	1,164	1,164	945	914	1,107	921	1,018	1,005	997	1,044	1,016	12,190
臨床病理検査室(病理)		173,200	166,560	188,680	180,890	163,810	156,280	187,850	158,490	174,020	172,210	171,250	178,340	173,465	2,081,580
		75	53	93	83	72	61	82	65	74	74	81	71	74	884
総合相談センター		330	339	366	383	387	317	369	438	354	351	401	406	370	4,441
		77	86	84	70	78	79	80	87	91	92	83	85	83	992
死亡数		49	55	44	53	63	62	69	64	69	75	76	74	63	753
		1	3	1	2	3	0	1	1	2	2	4	2	2	21
24時間以上剖検		18	13	19	21	21	21	22	22	28	24	36	28	23	273
		3.3%	2.6%	20.8%	16.7%	33.3%	22.0%	17.4%	19.5%	30.8%	22.0%	33.3%	20.5%	20.5%	
入院診療計画		1	1	5	5	13	9	8	8	12	11	12	9	8	94
		1,411	1,453	1,705	1,856	1,617	1,451	1,668	1,421	1,642	1,479	1,593	1,800	1,591	19,096
初診患者数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		3,144	3,122	3,421	3,351	3,315	3,189	3,565	3,308	3,289	2,980	3,095	3,420	3,267	39,199
紹介率		8.8%	9.4%	9.1%	9.0%	9.5%	9.2%	9.5%	9.8%	9.1%	8.8%	8.9%	9.1%	9.2%	
		71.7%	67.0%	67.9%	70.3%	68.7%	73.8%	69.1%	69.1%	70.6%	72.4%	74.8%	73.5%	70.7%	
逆紹介率		54.9%	55.9%	49.4%	53.6%	51.7%	54.8%	47.3%	49.2%	56.4%	55.1%	56.3%	59.0%	53.6%	

平成27年度 昭和大学病院 診療統計表 -2-

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
許可病床数		199													
診療実日数	入院	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	31	366
	外来	25	23	26	26	26	23	26	23	23	23	24	26	25	294
病床利用率		74.4%	70.6%	76.7%	77.1%	77.2%	72.2%	70.2%	70.3%	66.9%	71.0%	73.7%	75.7%	73.1%	
入院平均在院日数		9.2	9.7	8.6	8.8	9.8	9.5	9.6	9.0	8.7	8.8	8.5	8.8	9.1	
医療収入額 (千円)	入院	205,444,566	200,856,408	223,620,225	224,568,211	218,124,404	208,716,242	207,308,066	197,124,554	198,851,213	204,772,341	201,880,274	237,942,134	210,769,886	2,529,238,637
	外来	110,324,599	100,349,059	111,107,064	108,258,358	100,517,352	104,591,444	113,930,955	98,985,213	101,806,080	103,425,607	104,192,966	113,144,347	105,886,087	1,270,633,044
時間外患者数(延患)		82	145	86	126	110	143	87	97	121	138	67	85	107	1,287
時間外患者数(新患)		68	123	76	118	100	118	80	83	95	120	54	74	92	1,109
時間外患者数(入院)		4	8	5	13	4	3	3	3	5	4	3	3	5	56
救急事件数		3	6	1	6	5	5	5	3	7	5	1	4	4	51
放射線室	撮影総患者数	804	661	770	735	708	633	694	655	649	679	644	752	699	8,384
	心臓血管患者数	1	4	1	1	3	2	2	1	0	2	1	3	2	21
	CT	頭部	238	276	241	286	234	223	209	212	232	247	255	244	2,922
		全身	180	143	220	202	169	179	155	147	168	161	196	173	2,072
	RI	インビボ	57	42	68	68	52	47	58	62	39	70	75	57	687
		頭部	261	232	293	277	239	213	245	229	235	254	265	250	2,995
	MRI	全身	63	60	77	64	51	62	59	60	50	58	70	61	737
		件数	460	392	454	414	415	436	383	388	430	454	437	420	5,042
	臨床病理検査室	件数	89,700	68,840	90,270	83,180	81,680	70,070	66,370	72,480	71,230	81,920	82,760	78,620	943,440
		点数	122	126	89	160	112	144	140	99	158	88	78	117	1,406
薬局	輸血センター	件数	7,652	14,679	6,257	11,609	9,772	11,280	8,214	6,094	11,485	6,571	6,871	8,817	105,804
		枚数	2,665	2,418	2,737	2,905	2,686	2,398	2,321	2,326	2,473	2,339	2,659	2,540	30,479
	注射薬	件数	7,676	7,445	7,825	8,822	7,970	7,052	6,740	6,453	6,890	7,128	7,597	7,445	89,337
		枚数	1,024	917	897	974	1,076	1,062	1,068	982	982	847	1,020	994	11,923
手術室	外来	件数	5	6	9	21	29	31	32	26	41	37	31	24	292
		件数	27	50	53	86	80	63	71	76	85	87	95	70	842
	院外処方	枚数	10,074	9,351	10,179	10,310	9,510	9,775	10,297	9,072	9,845	9,314	9,285	10,094	117,106
		件数	298	273	345	344	266	311	291	289	301	307	347	306	3,673
総合栄養センター	緊急	件数	16	16	14	17	12	18	23	13	24	12	15	16	188
		件数	12	13	15	17	23	17	6	12	10	11	12	13	159
	入院	件数	34	39	48	41	51	39	46	57	71	68	68	51	613
		件数	85	74	96	87	84	101	91	98	75	88	96	90	1,074
臨床病理検査室 (病理)	生検	点数	67,870	58,740	77,440	68,440	64,880	85,860	83,620	79,590	62,480	73,680	81,570	73,141	877,690
		件数	14	12	11	21	23	17	10	16	10	11	17	15	181
	細胞診	点数	2,660	2,280	2,090	3,990	4,370	3,230	3,040	3,610	1,900	2,090	3,230	2,866	34,390
		迅速検査件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総合相談センター	入院(実件数)	件数	68	60	63	66	75	62	70	68	52	59	64	64	770
		外来(実件数)	2	5	7	8	7	7	8	9	9	11	12	8	95
	24時間以内	件数	0	1	0	1	6	1	1	2	5	1	0	2	20
		件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死仁数	死産数	件数	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3
		件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	剖検率	件数	424	373	514	515	401	449	399	406	447	486	466	438	5,261
		対象者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入院診療計画 対象者数	初診患者数	件数	1,009	1,081	1,146	1,120	1,040	1,005	1,097	874	896	962	1,048	1,014	12,172
		初診率	7.6%	8.8%	8.5%	8.4%	8.4%	7.8%	7.8%	7.0%	7.4%	7.8%	7.8%	7.8%	7.8%
	紹介率	件数	44.6%	40.9%	38.3%	40.2%	38.4%	41.7%	43.3%	41.4%	45.3%	44.3%	44.2%	42.2%	42.2%
		逆紹介率	38.8%	30.2%	36.2%	34.3%	41.1%	42.7%	50.4%	60.1%	50.1%	51.0%	57.8%	45.6%	45.6%

昭和大学病院 診療科別入院状況表 -1

診療科		4月			5月			6月			7月			8月			9月		
		定床	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)		
昭和大学病院	呼吸器アレルギー-内科	47	34.5	86.2%	17.0	36.7	93.4%	14.4	28.0	82.5%	15.0	30.3	85.1%	15.6	35.5	90.9%	16.1	35.5	90.9%
	呼吸器外科		6.0		16.1	7.2		17.4	10.8		20.0	9.7		13.5	7.2		11.8	7.2	
	リウマチ膠原病内科		0.8		3.3	0.7		6.7	0.3		7.0	1.6		6.6	0.2		2.0	0.2	
	糖尿病内分泌代謝内科		0.1		1.0	0.0			0.0			0.3		1.7	0.1		1.0	0.1	
	腎臓内科	26	26.5	101.9%	26.7	26.1	100.4%	25.6	25.9	99.5%	21.4	19.9	76.6%	15.9	20.3	78.2%	23.3	20.3	78.2%
	消化器内科	133	81.7	102.9%	11.4	82.4	93.2%	13.0	83.3	97.7%	11.5	78.1	94.6%	12.7	73.5	93.0%	11.2	73.5	93.0%
	消化器一般外科		55.1		16.4	41.6		11.4	46.7		12.7	47.7		14.9	50.2		15.1	50.2	
	血液内科	33	38.0	115.3%	30.6	38.7	117.3%	30.6	37.5	113.5%	25.7	34.1	103.4%	28.4	35.5	107.7%	25.3	35.5	107.7%
	腫瘍内科	25	40.8	163.1%	16.2	41.5	165.9%	18.5	48.1	192.5%	20.3	43.9	175.7%	20.6	40.1	160.5%	18.0	40.1	160.5%
	循環器内科	72	61.0	84.8%	11.5	63.0	87.5%	12.1	50.4	70.0%	8.8	52.6	73.1%	9.0	47.1	65.4%	9.8	47.1	65.4%
	神経内科		0.8		0.8	0.9		1.5	1.0		1.3	0.9		0.9	0.7		0.5	0.7	
	心臓血管外科	23	11.9	51.6%	26.4	10.7	46.4%	25.4	7.8	34.1%	20.2	9.5	41.4%	20.1	13.8	60.0%	18.9	13.8	60.0%
	乳腺外科	15	19.7	131.3%	10.9	19.4	129.5%	12.2	15.6	104.0%	8.9	15.6	389.5%	9.1	19.6	130.9%	10.9	19.6	130.9%
	小児科	52	41.4	71.4%	8.6	43.2	74.5%	9.2	42.8	73.8%	7.1	48.5	83.5%	8.4	45.8	88.0%	7.8	45.8	88.0%
	小児外科	10	8.0	80.0%	9.0	4.9	48.7%	7.5	5.2	52.0%	7.4	5.6	55.8%	8.7	6.4	64.0%	10.0	6.4	64.0%
	脳神経外科	34	37.5	117.2%	13.3	30.1	94.1%	11.0	30.3	94.8%	11.0	31.4	98.0%	12.4	28.6	84.0%	13.3	28.6	84.0%
	整形外科	66	63.2	95.7%	22.3	56.9	86.2%	22.9	58.5	88.6%	18.4	64.0	97.0%	20.3	62.7	95.0%	23.6	62.7	95.0%
	形成外科	33	23.7	71.8%	9.3	19.0	57.5%	9.8	21.8	66.2%	7.4	24.4	73.8%	8.3	21.9	66.3%	8.3	21.9	66.3%
	産婦人科	76	54.3	67.8%	7.5	53.2	66.5%	7.4	59.5	74.3%	7.3	57.8	72.3%	7.2	55.1	72.5%	6.8	55.1	72.5%
	眼科																		
	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍センター	22	20.8	104.0%	8.5	19.8	99.2%	9.6	30.0	150.0%	9.5	26.3	131.5%	9.0	23.9	108.6%	9.1	23.9	108.6%
	皮膚科		0.4		4.4	0.4		2.3	0.1		1.0	0.1		3.0	0.0		0.0	0.0	
	泌尿器科	25	20.6	82.4%	9.1	21.0	83.9%	8.6	17.8	71.2%	7.9	26.8	107.2%	10.3	24.0	96.1%	9.6	24.0	96.1%
	放射線科				9.0														
	救急医学科	15	8.9	59.1%	5.1	6.9	45.8%	4.3	7.9	52.7%	5.2	8.7	57.8%	4.4	8.2	54.7%	4.5	8.2	54.7%
	総合内科 (ER)		5.6		2.9	3.9		2.7	4.4		2.4	5.9		2.7	5.2		3.1	5.2	
	小計	707	661.5	92.8%	12.1	628.2	88.1%	12.1	633.7	88.9%	10.9	643.6	87.5%	11.2	625.6	88.5%	11.4	625.6	88.5%
	N16. ICU, 病院管理ベッド	94																	
	合計	801	661.5	82.6%	12.1	628.2	78.4%	12.1	633.7	79.1%	10.9	643.6	78.1%	11.2	625.6	78.1%	11.4	625.6	78.1%

※患者数については各診療科に含まれる

昭和大学病院附属東病院

診療科	定床	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
		一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	
呼吸器アレルギー-内科																			
リウマチ膠原病内科	40	27.1	106.5%	22.3	23.2	95.2%	26.5	23.7	105.5%	24.4	29.8	123.1%	23.8	26.2	100.1%	31.0	26.2	100.1%	
糖尿病内分泌代謝内科		15.5		11.4	14.8		11.7	18.5		12.4	19.5		12.6	13.9		13.1	13.9		
神経内科	37	31.2	84.2%	18.8	32.0	86.4%	19.8	32.9	88.8%	15.6	31.7	85.7%	16.7	34.1	92.1%	19.4	34.1	92.1%	
脳神経外科		3.7		23.1	2.4		72.0	0.1		1.0						11.0	1.6		
整形外科		19.1		30.8	18.3		44.3	16.3		30.4	11.9		28.7	14.3		52.4	14.3		
眼科	51	37.9	74.3%	3.3	36.4	71.4%	3.4	45.2	88.6%	3.5	43.6	85.5%	3.4	39.7	77.8%	3.3	39.7	77.8%	
皮膚科	10	12.1	121.3%	12.5	11.8	118.4%	14.1	13.8	138.0%	14.9	15.7	156.8%	13.8	14.0	140.0%	21.7	14.0	140.0%	
麻酔科		0.1		6.0	0.5		34.0	1.2		12.8	0.3		7.0	0.1		1.0	0.1		
救急医学科		1.3		40.0	1.0			1.0			1.0								
小計	138	148.0	107.2%	9.2	140.5	101.8%	9.7	152.6	110.6%	8.6	153.4	111.2%	8.8	143.8	104.2%	9.5	143.8	104.2%	
E6. 病院管理ベッド	61																		
合計	199	148.0	74.4%	9.2	140.5	70.6%	9.7	152.6	76.7%	8.6	153.4	77.1%	8.8	143.8	72.2%	9.5	143.8	72.2%	

※患者数については各診療科に含まれる

※1 平均在院日数= 在院患者延数 / (新入院患者数+退院患者数) ÷ 2

昭和大学病院 診療科別入院状況表 -2

昭和大学病院

診療科	定床	10月			11月			12月			1月			2月			3月			年間平均		
		一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)	一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)	一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)	一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)	一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)	一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)	一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)
呼吸器アルギ－内科	47	42.9	108.2%	17.8	34.0	86.5%	16.9	36.4	89.7%	16.1	42.3	101.8%	17.5	43.9	106.2%	17.1	16.9	109.5%	44.0	37.7	96.3%	16.6
呼吸器外科		8.0		13.5	6.6		11.9	5.8		11.6	5.6		10.3	6.0		14.7	16.2		7.5	7.5		14.6
リウマチ膠原病内科		1.1		8.6	1.1		6.2	1.1		4.2	0.3		1.3	0.1		1.0	1.0		0.2	0.7		4.4
糖尿病内分泌代謝内科		0.3		4.0							0.1			0.2		1.0	1.0		0.1	0.1		1.3
腎臓内科	26	20.5	79.0%	16.7	16.6	64.0%	16.5	19.0	73.0%	18.5	20.9	80.3%	22.1	21.3	82.1%	16.8	20.1	88.8%	23.1	21.8	84.0%	19.5
消化器内科	133	76.9	94.3%	12.8	73.2	97.2%	10.9	78.1	97.7%	11.0	72.1	92.7%	11.0	80.5	106.5%	11.3	10.3	111.2%	78.8	78.1	98.0%	11.5
消化器一般外科		48.4		12.5	56.1		15.6	51.9		12.9	51.2		13.3	61.2		13.3	14.5		69.1	52.2		13.7
血液内科	33	30.4	92.1%	26.3	34.7	105.3%	26.1	43.0	130.3%	29.2	42.5	128.9%	43.0	41.6	126.1%	30.8	34.6	128.6%	42.5	37.9	114.6%	29.5
腫瘍内科	25	40.9	163.7%	14.9	45.0	180.0%	17.5	48.2	192.8%	15.2	53.1	212.3%	18.5	48.0	192.0%	16.3	16.4	183.0%	45.7	44.9	179.7%	17.4
循環器内科	72	50.0	69.5%	8.9	65.2	90.6%	9.9	64.0	88.9%	10.3	67.2	93.3%	12.6	80.7	112.1%	12.0	11.6	95.9%	69.0	60.0	83.3%	10.4
神経内科		1.1		1.0	0.8		0.7	1.3			1.1	0.8		0.3		0.3	1.0		0.7	0.9		0.9
心臓血管外科	23	13.0	56.5%	24.1	13.9	60.4%	31.0	10.8	46.8%	19.6	7.5	32.8%	22.5	7.6	33.1%	30.3	17.0	27.3%	6.3	10.2	44.4%	23.0
乳腺外科	15	17.0	113.5%	8.2	13.6	90.9%	8.4	16.4	109.2%	7.8	17.1	113.8%	8.1	19.6	130.6%	9.5	8.8	120.2%	18.0	17.9	119.1%	9.4
小児科	52	47.5	91.3%	7.8	45.4	87.4%	8.8	42.5	81.8%	8.3	44.6	85.7%	9.3	48.7	93.6%	10.3	8.7	83.4%	43.4	44.4	85.5%	8.5
小児外科	10	7.1	70.6%	9.3	5.2	52.0%	7.6	7.0	70.3%	6.5	3.7	37.1%	4.4	6.9	68.6%	7.3	3.3	31.0%	3.3	5.7	57.4%	7.2
脳神経外科	34	37.4	110.0%	12.3	31.0	91.1%	12.8	33.1	97.4%	12.7	28.8	84.7%	11.8	31.2	91.7%	13.6	11.2	98.5%	33.5	32.3	95.1%	12.3
整形外科	66	66.6	100.9%	24.1	62.3	94.4%	23.1	68.0	103.0%	23.8	57.9	87.7%	22.1	61.6	93.3%	20.7	19.9	92.7%	61.2	62.0	93.9%	22.0
形成外科	33	21.5	65.3%	8.3	15.9	48.2%	7.3	24.0	72.6%	8.9	22.9	69.4%	8.1	15.8	48.0%	6.0	7.1	71.3%	23.5	21.9	66.3%	8.0
産婦人科	76	57.9	78.2%	6.9	52.9	71.5%	7.1	53.5	72.2%	7.1	48.5	65.5%	6.5	48.1	65.0%	6.7	6.3	69.5%	51.5	53.5	70.4%	7.0
眼科																						
耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍センター	22	22.1	91.9%	15.1	29.6	123.2%	11.8	27.5	114.8%	10.2	24.6	102.7%	9.7	25.7	106.9%	9.9	8.7	111.2%	26.7	25.4	115.6%	9.8
皮膚科		0.1		1.0	0.4		4.5	0.4		2.7	0.1		1.0	0.2		4.0	8.0		0.4	0.2		3.3
泌尿器科	25	26.7	106.8%	12.6	21.3	85.2%	9.6	22.6	90.6%	11.9	23.7	95.0%	12.4	21.4	85.5%	10.4	21.5	85.8%	12.1	22.8	91.4%	10.2
放射線科																			0.0	0.0		9.0
救急医学科	15	11.5	76.6%	6.5	12.5	83.1%	7.6	10.7	71.2%	4.1	12.2	81.3%	5.8	8.0	53.3%	3.4	8.2	54.8%	4.1	9.3	62.2%	4.9
総合内科(ER)		7.4		3.8	7.7		3.5	6.5		3.2	6.5		3.8	6.9		4.1	6.2		4.1	5.9		3.2
小計	707	656.3	92.8%	11.5	645.1	91.2%	11.6	671.6	95.0%	11.3	654.1	92.5%	11.9	685.3	96.9%	11.8	684.2	96.8%	11.3	653.7	92.5%	11.5
N16、ICU、病院管理ベッド	94																					
合計	801	656.3	81.9%	11.5	645.1	80.5%	11.6	671.6	83.9%	11.3	654.1	81.7%	11.9	685.3	85.6%	11.8	684.2	85.4%	11.3	653.7	81.6%	11.5

※患者数については各診療科に含まれる

昭和大学病院附属東病院

診療科	定床	10月			11月			12月			1月			2月			3月			年間平均		
		一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)	一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)	一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)	一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)	一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)	一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)	一日平均患者数	病床利用率	平均在院日数(※1)
呼吸器アルギ－内科		27.8	111.0%	30.4	24.0	96.9%	25.0	18.6	82.4%	21.5	23.7	110.6%	25.4	22.5	115.3%	19.7	20.4	111.1%	22.1	25.0	107.3%	24.2
リウマチ膠原病内科	40	16.6		14.1	14.8		13.8	14.4		12.4	20.5		14.2	23.6		9.9	13.2		22.3	17.9		12.5
糖尿病内分泌代謝内科	37	34.2	92.3%	18.4	32.6	88.0%	19.0	34.2	92.3%	14.9	30.4	82.1%	18.2	31.2	84.3%	19.3	19.3	113.7%	42.1	33.5	90.6%	18.1
神経内科		1.7		26.0	4.6		45.0	3.0		25.7	2.9		90.0	2.4		67.0	4.0		0.2	1.9		29.9
脳神経外科		11.0		26.3	16.2		47.9	14.5		34.7	11.1		31.7	13.2		31.2	32.2		11.4	14.5		35.0
整形外科																						
眼科	51	37.2	73.0%	3.4	37.6	73.7%	3.1	36.5	71.6%	3.5	40.4	79.3%	3.4	42.1	82.5%	3.4	3.5	86.3%	44.0	39.6	77.6%	3.4
皮膚科	10	11.0	110.3%	18.0	10.2	102.3%	10.1	11.7	117.4%	11.6	11.8	117.7%	12.6	11.1	111.0%	14.6	10.7	107.1%	13.6	12.3	123.4%	13.6
麻酔科		0.2															0.4		0.4	0.2		9.2
救急医学科											0.3		20.0	0.6		32.0				0.5		65.6
小計	138	139.7	101.2%	9.6	139.9	101.4%	9.0	133.2	96.5%	8.7	141.2	102.3%	8.8	146.7	106.3%	8.5	153.2	111.0%	8.8	145.5	105.4%	9.1
E6、病院管理ベッド	61																					
合計	199	139.7	70.2%	9.6	139.9	70.3%	9.0	133.2	66.9%	8.7	141.2	71.0%	8.8	146.7	73.7%	8.5	153.2	77.0%	8.8	145.5	73.1%	9.1

※患者数については各診療科に含まれる

※1 平均在院日数＝
在院患者延数
（新入院患者数÷退院患者数）÷2

昭和大学病院 病棟別入院状況表 -1

昭和大学病院

病 棟	定床	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
		一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※3)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※4)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※5)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※6)
N-16	24	202	84.2%	17.3	205	85.2%	13.9	200	83.3%	10.8	193	80.2%	9.7	201	83.7%	11.3	189	78.6%	12.1
N-15	53	461	87.0%	11.6	447	84.3%	12.9	388	73.3%	9.4	417	78.7%	9.8	439	82.8%	8.7	396	74.7%	10.0
N-14	54	51.4	95.2%	16.1	496	91.9%	14.5	507	94.0%	11.6	495	91.6%	14.1	529	98.0%	14.5	507	93.8%	15.8
N-13	43	362	84.3%	17.8	348	80.9%	13.4	362	84.3%	15.7	349	81.2%	15.2	364	84.7%	11.4	338	78.5%	13.9
N-12	53	48.7	91.9%	13.2	47.6	89.9%	14.8	49.2	92.8%	17.4	49.3	93.1%	15.9	49.7	93.9%	13.8	47.5	89.6%	13.2
N-11	55	52.8	96.0%	18.3	50.9	92.6%	19.2	49.5	89.9%	20.1	49.5	90.0%	19.2	54.5	99.2%	24.4	50.3	91.4%	20.2
N-10	50	46.6	93.2%	31.4	46.1	92.3%	36.0	43.9	87.8%	28.2	44.2	88.4%	26.9	45.9	91.8%	25.3	44.2	88.3%	27.0
N-9	54	49.8	92.2%	25.7	46.9	86.8%	26.0	47.0	87.0%	20.7	48.5	89.9%	24.5	47.2	87.5%	24.2	48.8	90.3%	30.8
N-8	54	46.0	85.2%	12.1	38.7	71.7%	12.8	42.0	77.7%	9.8	38.7	71.7%	8.4	43.3	80.2%	10.4	38.1	70.6%	10.7
N-7	49	39.0	86.7%	8.5	38.1	84.7%	10.4	42.2	93.9%	9.7	44.0	97.7%	12.5	41.4	91.9%	12.3	39.5	84.0%	11.5
C9-A	32	17.5	76.1%	10.0	17.5	76.0%	12.7	16.4	71.4%	8.6	16.9	73.5%	10.3	18.6	58.2%	9.8	18.1	56.6%	8.9
C8-A	34	28.7	89.6%	16.1	24.5	76.4%	11.0	25.2	78.9%	12.8	25.6	75.2%	13.2	27.9	82.0%	11.3	25.5	75.1%	12.6
C8-B	44	39.5	89.8%	8.7	37.7	85.6%	9.1	38.9	88.5%	7.5	37.6	85.5%	7.4	39.2	89.1%	8.6	37.9	86.1%	8.5
小計	599	522.5	89.5%	14.3	497.6	85.2%	14.6	500.1	85.6%	12.8	499.7	85.3%	13.2	521.1	87.6%	13.2	492.7	82.5%	13.8
N-6	38	27.0	71.1%	8.8	28.0	73.7%	8.8	30.2	79.6%	8.0	28.6	75.3%	7.8	24.8	65.2%	7.3	28.8	75.7%	7.6
N-5(LDR)	0	2.1	35.0%	2.5	1.9	32.3%	2.2	1.8	30.0%	2.2	2.2	55.6%	2.7	1.4	35.5%	2.2	1.8	88.3%	2.1
N-5(MFIGU)	9	6.0	66.7%	10.1	5.1	56.6%	9.7	5.4	60.0%	12.4	5.3	59.1%	15.9	5.3	58.8%	8.2	4.6	50.7%	9.8
N-41(NICU)	15	10.2	68.0%	55.6	9.9	65.8%	33.3	8.4	55.8%	27.7	11.0	73.1%	25.0	10.0	66.9%	34.2	11.0	73.3%	47.0
N-41(GCU)	17	10.8	46.8%	28.0	10.5	45.9%	45.4	9.7	42.0%	21.7	13.1	56.9%	38.7	9.4	55.2%	29.1	9.6	56.3%	23.5
小児セター	50	38.1	73.2%	5.9	37.0	71.2%	6.3	37.7	72.5%	5.3	40.8	78.4%	5.7	38.3	76.6%	5.6	37.4	74.8%	5.3
小計	129	94.1	65.8%	8.3	92.5	64.7%	8.5	93.2	65.2%	7.4	101.0	71.6%	8.1	89.2	67.1%	7.5	93.1	71.0%	7.5
N-2(COU)	10	7.0	70.0%	10.6	7.4	73.5%	12.7	6.8	68.0%	13.7	7.3	73.2%	14.9	6.3	62.9%	11.1	5.2	52.3%	8.6
C9-B(HOU)	12	7.1	59.2%	16.9	5.0	41.7%	12.5	6.6	55.0%	14.1	7.7	64.5%	19.4	7.7	64.5%	19.6	7.2	60.3%	28.8
C9-C(ER)	22	14.0	61.0%	3.1	12.9	56.2%	2.9	12.7	55.1%	2.8	12.5	54.6%	2.7	14.7	66.9%	2.7	11.7	53.2%	2.5
C-6(ICU)	14	9.3	66.2%	25.0	6.9	49.3%	21.2	7.6	54.5%	25.2	8.3	59.4%	23.4	11.2	80.0%	32.5	7.5	53.3%	29.6
救急セター	15	7.5	50.2%	4.5	5.9	39.4%	3.3	6.7	44.4%	4.8	7.0	46.7%	3.5	5.8	38.9%	3.6	8.3	55.1%	4.4
小計	73	44.9	60.7%	6.2	38.1	51.5%	5.3	40.4	54.5%	5.9	42.9	58.0%	5.8	45.8	62.7%	5.8	39.9	54.7%	5.5
合 計	801	661.5	82.6%	12.1	628.2	78.4%	12.1	633.7	79.1%	10.9	643.6	80.4%	11.2	656.1	81.9%	11.1	625.6	78.1%	11.4

(別掲)

N-2(COU)	10	8.5	85.3%	4.4	8.5	85.2%	5.2	7.8	78.0%	5.5	8.5	85.5%	5.7	7.2	71.9%	5.2	6.4	63.7%	3.7
C-6(ICU)	14	13.5	96.7%	2.1	10.4	74.0%	2.0	12.0	85.7%	1.7	12.4	88.5%	2.0	14.6	104.4%	3.0	10.9	77.9%	2.1
C9-B(HOU)	12	10.8	89.7%	1.7	7.9	65.6%	1.6	10.1	84.2%	1.7	11.3	94.4%	2.0	11.1	92.5%	2.1	10.4	86.9%	2.1
C9-C(ER)	23	17.2	74.8%	2.2	16.9	73.4%	1.9	15.9	69.0%	2.0	15.9	69.3%	1.8	18.9	82.2%	1.8	15.3	66.5%	1.7
新生児	20	21.1	105.3%	6.2	18.6	93.1%	5.6	17.8	89.0%	5.5	19.2	96.0%	5.7	18.8	94.0%	6.0	21.7	108.7%	5.7

昭和大学病院附属東病院

病 棟	定床	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)
E-6	24	14.7	61.4%	8.7	15.0	62.4%	8.6	15.7	65.4%	8.8	15.6	65.1%	7.4	14.7	61.4%	8.0	13.7	57.1%	9.5
E-5	44	33.4	75.9%	3.4	29.7	67.6%	3.6	36.4	82.7%	3.7	36.5	83.0%	3.7	32.0	72.7%	3.6	33.4	75.9%	3.8
E-4	53	40.8	77.0%	16.5	38.1	71.9%	16.5	42.4	80.0%	14.5	41.4	78.1%	16.2	42.2	79.6%	15.8	39.3	74.2%	17.2
E-3	45	34.5	76.7%	19.5	33.5	74.5%	20.0	32.5	72.1%	12.9	35.7	79.4%	15.9	38.8	86.2%	21.2	32.8	73.0%	15.8
E-2	33	24.5	74.2%	16.7	24.1	73.1%	17.7	25.6	77.7%	15.2	24.2	73.2%	13.7	25.9	78.4%	17.0	24.5	74.2%	17.0
合 計	199	148.0	74.4%	9.2	140.5	70.6%	9.7	152.6	76.7%	8.6	153.4	77.1%	8.8	153.6	77.2%	9.8	143.8	72.2%	9.5

昭和大学病院
病棟別入院状況表-2

昭和大法院

病 棟	10月			11月			12月			1月			2月			3月			年間平均			
	定床	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※2)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※3)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※4)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※5)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※6)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)
N-16	24	18.0	75.0%	11.6	18.6	77.5%	11.0	19.5	81.0%	9.9	20.6	85%	16.9	22.5	93.8%	12.9	22.0	91.8%	11.4	20.0	83.4%	12.4
N-15	53	40.1	75.7%	8.9	45.8	86.4%	13.6	47.1	88.9%	12.2	46.7	88.2%	14.9	49.4	93.3%	18.9	49.1	92.7%	14.9	44.4	83.8%	12.1
N-14	54	51.2	94.7%	19.5	50.0	92.6%	13.3	48.5	89.8%	13.7	49.7	92.1%	15.4	53.8	99.8%	16.4	51.3	94.9%	15.0	50.8	94.0%	15.0
N-13	43	35.3	82.1%	12.9	38.1	88.5%	17.1	36.6	85.1%	13.9	36.2	84.1%	15.4	38.2	88.8%	15.5	39.9	92.9%	17.0	36.4	84.6%	14.9
N-12	53	47.4	89.5%	13.0	47.9	90.4%	15.9	48.6	91.8%	14.4	48.0	90.6%	17.1	50.9	96.0%	18.9	50.1	94.5%	16.4	48.8	92.0%	15.3
N-11	55	53.2	96.8%	22.2	51.4	93.4%	19.6	53.6	97.4%	20.3	52.5	95.5%	23.2	52.9	96.2%	17.3	54.4	98.8%	20.3	52.1	94.8%	20.4
N-10	50	41.1	82.3%	22.8	43.8	87.5%	28.1	47.6	95.3%	33.1	45.3	90.6%	40.8	44.7	89.4%	27.2	46.3	92.6%	31.6	45.0	90.0%	29.9
N- 9	54	48.4	89.7%	27.2	48.8	90.4%	26.4	48.6	90.1%	27.0	46.7	86.5%	21.9	49.8	92.3%	25.2	48.7	90.1%	23.7	48.3	89.4%	25.3
N- 8	54	37.9	70.2%	10.7	37.8	70.1%	8.9	45.4	84.1%	12.1	43.9	81.2%	11.7	46.6	86.3%	8.1	44.2	81.9%	8.8	41.9	77.6%	10.4
N- 7	49	45.0	91.9%	15.3	45.6	93.1%	12.3	45.2	92.3%	13.1	42.5	86.8%	12.7	43.2	88.1%	11.2	44.5	90.8%	10.6	42.5	90.2%	11.7
C9-A	32	19.9	62.1%	8.0	21.8	68.2%	8.7	20.8	65.0%	6.9	16.6	52.0%	5.0	24.2	75.6%	6.4	25.8	80.7%	7.3	19.5	68.0%	8.5
C8-A	34	29.5	86.9%	14.6	25.3	74.5%	13.3	28.1	82.5%	12.7	25.5	75.0%	10.9	27.3	88.3%	13.7	28.9	85.1%	11.7	26.8	80.1%	12.8
C9-B	44	36.2	82.3%	7.4	32.8	74.6%	6.7	36.8	83.7%	6.9	34.3	78.0%	6.6	38.8	88.2%	7.3	38.5	87.5%	6.9	37.4	84.9%	7.6
小計	599	503.4	84.0%	13.8	507.8	84.8%	13.7	526.5	87.9%	13.7	508.6	84.9%	14.3	542.4	90.6%	13.9	543.8	90.8%	13.4	513.9	86.6%	13.7
N- 6	38	32.1	84.4%	6.9	27.6	72.6%	7.2	29.1	76.5%	7.3	27.9	73.4%	6.8	26.0	68.5%	6.8	26.9	70.7%	6.9	28.1	73.5%	7.5
N-5(LDR)	0				0.0									0.0						1.4	46.1%	2.3
N-5(MFCU)	9	5.4	59.9%	7.2	6.2	68.5%	11.4	6.2	68.8%	9.0	5.8	64.2%	10.8	5.2	58.2%	9.1	5.8	64.5%	8.5	5.5	61.3%	10.2
N-41(NGU)	15	11.5	76.3%	28.2	11.1	73.8%	41.4	11.1	74.2%	46.0	12.6	84.3%	29.9	12.8	85.1%	41.0	11.5	76.6%	41.8	10.9	72.8%	37.6
N-41(GCU)	17	13.7	80.8%	36.9	12.6	74.3%	30.0	11.6	68.3%	20.9	13.1	76.9%	41.2	16.2	95.1%	45.1	13.9	81.6%	34.0	12.0	65.0%	32.9
小児セクター	50	38.8	77.7%	5.4	32.6	65.2%	5.2	36.8	73.7%	5.2	32.8	65.6%	4.9	35.1	70.2%	5.3	33.9	67.7%	4.3	36.6	72.2%	5.3
小計	129	101.5	78.7%	7.8	90.1	69.8%	8.2	94.8	73.7%	7.7	92.2	71.5%	7.9	95.3	73.9%	8.4	91.9	71.2%	7.3	94.1	70.7%	7.9
N-2(GCU)	10	7.4	73.9%	16.0	6.5	65.0%	9.0	8.4	84.2%	17.8	7.7	76.8%	12.9	8.0	79.7%	11.3	6.9	69.4%	13.0	7.1	70.7%	12.6
C9-B(HQU)	12	8.2	68.3%	14.5	7.9	65.8%	17.5	7.9	65.6%	11.7	8.5	71.2%	18.7	6.4	53.4%	33.5	8.2	68.0%	15.9	7.4	61.5%	18.4
C9-C(ER)	22	14.5	66.0%	2.7	14.7	66.8%	2.9	15.7	71.3%	2.9	17.3	78.4%	3.7	16.9	76.8%	3.7	15.2	68.9%	3.6	14.4	64.6%	3.0
C-6(IGU)	14	10.1	71.9%	25.8	9.2	65.7%	25.8	8.9	63.4%	18.7	8.5	60.4%	17.1	8.5	60.6%	20.3	9.9	70.7%	20.2	8.8	63.0%	23.7
救急セクター	15	11.3	75.1%	6.4	9.0	59.8%	5.4	9.4	62.8%	3.3	11.3	75.5%	5.7	7.8	52.2%	3.0	8.3	55.5%	4.0	8.2	54.6%	4.3
小計	73	51.4	70.4%	6.4	47.3	64.7%	6.0	50.3	68.9%	6.1	47.6	73.0%	6.7	47.6	65.2%	6.0	48.5	66.4%	6.4	45.9	62.6%	6.0
合計	801	666.3	81.9%	11.5	645.1	80.5%	11.6	671.6	83.9%	11.3	654.1	81.7%	11.9	685.3	85.6%	11.8	684.2	85.4%	11.3	653.8	81.6%	11.5

(別掲)

	10	8.7	86.8%	5.2	7.9	78.7%	3.9	10.1	101.0%	4.7	9.1	91.0%	4.6	9.5	95.2%	4.6	8.0	79.7%	5.5	8.3	83.5%	4.8
N-2 (CCU)																						
C-6 (ICU)	14	13.6	97.0%	2.8	12.5	89.3%	2.6	12.9	92.2%	2.2	12.1	86.4%	2.2	13.0	93.1%	1.7	14.2	101.6%	2.2	12.7	90.6%	2.2
O-9-B (HCU)	12	12.0	99.7%	2.1	11.3	93.9%	2.1	11.7	97.6%	1.8	12.3	102.7%	2.2	10.1	83.9%	2.2	12.4	103.5%	1.7	10.9	91.2%	1.9
O-9-C (ER)	23	18.4	79.9%	1.9	18.4	80.0%	2.0	19.6	85.3%	2.0	21.0	91.2%	2.5	21.5	93.4%	2.4	19.0	82.6%	2.3	18.2	79.0%	2.0
新生児	20	22.1	110.3%	5.9	20.4	100.2%	5.9	16.8	84.2%	5.4	19.4	97.1%	5.7	18.2	91.0%	6.2	17.0	84.8%	5.4	19.3	96.3%	5.8

昭和大学病院附属東病院

病棟	定床	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)	一日平均 患者数	病床 利用率	平均在院 日数(※1)											
E-6	24	15.9	66.4%	10.6	13.0	54.0%	8.0	15.3	63.7%	8.7	12.7	53.0%	7.9	13.7	56.9%	7.6	16.0	66.5%	8.1	14.7	61.1%	8.5	16.0	66.5%	8.1	14.7	61.1%	8.5	16.0	66.5%	8.1	14.7	61.1%
E-5	44	31.7	72.0%	3.7	30.3	68.9%	3.4	26.9	61.2%	3.5	30.3	68.8%	3.4	35.2	80.1%	3.7	36.1	82.1%	3.7	32.7	74.2%	3.6	36.1	82.1%	3.7	32.7	74.2%	3.6	36.1	82.1%	3.7	32.7	74.2%
E-4	53	38.8	73.2%	18.2	36.5	68.9%	12.9	35.1	66.2%	12.7	41.0	77.3%	15.5	36.9	69.6%	11.2	37.5	70.7%	13.6	39.2	73.9%	15.1	37.5	70.7%	13.6	39.2	73.9%	15.1	37.5	70.7%	13.6	39.2	73.9%
E-3	45	30.0	66.7%	18.1	36.4	80.8%	20.2	32.4	71.9%	14.8	32.5	72.3%	14.8	34.8	77.9%	16.4	37.1	82.5%	16.1	34.3	76.1%	17.1	37.1	82.5%	16.1	34.3	76.1%	17.1	37.1	82.5%	16.1	34.3	76.1%
E-2	33	23.3	70.5%	14.7	23.8	72.0%	17.9	23.5	71.4%	13.7	24.8	75.1%	15.4	26.1	79.0%	18.3	26.5	80.3%	19.8	24.7	74.9%	16.4	26.5	80.3%	19.8	24.7	74.9%	16.4	26.5	80.3%	19.8	24.7	74.9%
合計	199	139.7	70.2%	9.6	139.9	70.3%	9.0	133.2	66.9%	8.7	141.2	71.0%	8.8	146.7	73.7%	8.5	153.2	77.0%	8.8	145.5	73.1%	9.1	153.2	77.0%	8.8	145.5	73.1%	9.1	153.2	77.0%	8.8	145.5	73.1%

2) 診療科別・疾病分類別（入院）順位表

診療科別・疾病分類別 順位表(TOP5)

昭和大学病院・昭和大学附属東病院

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
呼吸器 アレルギー 内科	1	C34	肺癌	113	12.9%	17.8
	2	J18	肺炎、詳細不明	85	9.7%	15.4
	3	R91	胸部異常影	80	9.1%	4.0
	4	J15	細菌性肺炎(肺炎レンサ球菌性、インフルエンザ菌を除く)	64	7.3%	14.0
	5	J84	間質性肺炎、肺線維症	58	6.6%	26.7
	その他			479	54.5%	-
	総 計			879	100%	15.5

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
リウマチ 膠原病内科	1	M06	関節リウマチ、成人発症still病、RS3PE症候群	45	10.7%	22.5
	2	M33	皮膚筋炎、多発性筋炎	38	9.1%	34.0
	3	M30	結節性多発性動脈炎関連病態	35	8.4%	27.3
			M300 顕微鏡的多発血管炎	23		
			M300 結節性多発動脈炎	5		
			M301 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4		
			M308 皮膚型結節性多発動脈炎	3		
	4	M31	その他の壊死性血管障害	31	7.4%	21.8
			M313 多発血管炎性肉芽腫症	11		
			M314 大動脈炎症候群	6		
			その他	14		
	4	M32	全身エリテマトーデス	31	7.4%	33.6
	その他			239	57.0%	-
	総 計			419	100%	23.7

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
糖尿病 代謝内分泌 内科	1	E11	インスリン非依存性糖尿病	332	64.5%	13.4
	2	E10	インスリン依存性糖尿病	55	10.7%	12.9
	3	E26	原発性アルドステロン症	15	2.9%	5.1
	4	E16	低血糖	13	2.5%	4.0
	5	E05	バセドウ病、甲状腺クリーゼ	9	1.7%	15.1
	その他			91	17.7%	-
	総 計			515	100%	12.8

※入院診療録サマリーの主病名を基に、「疾病及び関連保険問題の国際統計分類 第10回修正版」(ICD-10)を用いて分類・集計

診療科別・疾病分類別 順位表(TOP5)

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
腎臓内科	1	N18	慢性腎臓病(G3～5)、慢性腎不全	156	35.2%	20.4
	2	I50	心不全	30	6.8%	21.2
	3	T82	シャント・グラフト閉塞、感染	25	5.6%	23.8
	4	N04	ネフローゼ症候群	21	4.7%	27.4
	5	E87	その他の体液、電解質および酸塩基平行障害	15	3.4%	15.8
			E871 低ナトリウム血症 5			
			E875 高カリウム血症 5			
			その他 5			
	5	N17	急性腎不全	15	3.4%	29.4
	その他			181	40.9%	—
	総 計			443	100%	18.8

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
消化器内科	1	K63	大腸ポリープ	545	22.5%	2.3
	2	C22	肝細胞癌、胆管細胞癌、肝内胆管癌	186	7.7%	13.8
	3	K80	総胆管結石、胆石（結石を伴う炎症を含む）	173	7.2%	12.0
	4	C25	膵癌	162	6.7%	19.9
	5	K57	腸の憩室疾患	94	3.9%	11.5
	その他			1257	52.0%	—
	総 計			2417	100%	12.2

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
血液内科	1	C83	びまん性非ホジキンリンパ腫	148	31.2%	23.7
	2	C92	骨髄性白血病	60	12.7%	40.1
	3	C82	濾胞性非ホジキンリンパ腫	33	7.0%	12.8
	4	D46	骨髄異形成症候群	29	6.1%	54.1
	5	C90	多発性骨髄腫、形質細胞腫	27	5.7%	34.8
	その他			177	37.3%	—
	総 計			474	100%	28.5

※入院診療録サマリーの主病名を基に、「疾病及び関連保険問題の国際統計分類 第10回修正版」
(ICD-10)を用いて分類・集計

診療科別・疾病分類別 順位表(TOP5)

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
腫瘍内科	1	C34	肺癌	256	26.8%	18.4
	2	C18	大腸癌	152	15.9%	13.4
	3	C15	食道癌	127	13.3%	15.5
	4	C16	胃癌	119	12.4%	17.1
	5	C50	乳癌	58	6.1%	22.0
	その他			245	25.6%	-
	総 計			957	100%	17.2

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
循環器内科	1	I20	狭心症	412	20.5%	4.6
	2	I50	心不全	287	14.3%	22.6
	3	I25	慢性虚血性心疾患	270	13.4%	4.2
			I252 陳旧性心筋梗塞	157		
			I256 無症候性心筋虚血	54		
			I259 虚血性心疾患	39		
			I251 冠動脈硬化症	20		
	4	I48	心房細動、心房粗動	224	11.1%	6.6
	5	I21	急性心筋梗塞	114	5.7%	19.2
	その他			704	35.0%	-
	総 計			2011	100%	10.8

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
神経内科	1	I63	脳梗塞	254	31.4%	16.6
	2	G40	てんかん	86	10.6%	9.7
	3	G20	パーキンソン病	50	6.2%	19.5
	4	G45	一過性脳虚血発作、可逆性脳血管攣縮症候群	35	4.3%	7.1
	5	G31	神経系のその他の変性疾患	27	3.3%	19.2
			G318 レビー小体型認知症	14		
			G319 脊髄小脳変性症	7		
			その他	6		
	その他			358	44.2%	-
	総 計			810	100%	14.6

※入院診療録サマリーの主病名を基に、「疾病及び関連保険問題の国際統計分類 第10回修正版」(ICD-10)を用いて分類・集計

診療科別・疾病分類別 順位表(TOP5)

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
心臓血管 外科	1	I71	大動脈解離、大動脈瘤	96	50.5%	17.2
	2	I35	大動脈弁障害	32	16.8%	28.3
	3	I34	僧帽弁障害	8	4.2%	38.3
	4	I25	陳旧性心筋梗塞、冠動脈狭窄	7	3.7%	32.9
	4	I74	動脈閉塞症、動脈血栓症	7	3.7%	11.4
	その他			40	21.1%	－
	総 計			190	100%	20.3

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
呼吸器外科	1	C34	肺癌	59	23.2%	17.0
	2	J93	気胸(外傷性除く)	56	27.7%	10.6
	3	C78	転移性肺腫瘍	18	8.9%	10.5
	4	S27	外傷性気胸・血胸・血気胸	11	5.4%	12.8
	5	D15	胸腺腫、縦隔腫瘍(良性)	8	4.0%	10.6
	5	J86	膿胸	8	4.0%	31.5
	その他			42	20.8%	－
	総 計			202	100%	13.7

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
消化器 一般外科	1	C15	食道癌	312	22.0%	20.2
	2	C18	大腸癌	129	9.1%	12.8
	3	K80	胆石症、総胆管結石(結石を伴う炎症を含む)	123	8.7%	7.5
	4	K40	鼠径ヘルニア	113	8.0%	5.8
	5	K63	腸のその他の疾患	107	7.5%	5.8
			K635 結腸ポリープ	96		
			K631 腸穿孔	9		
			K632 腸皮膚瘻	2		
	その他			636	44.8%	－
	総 計			1420	100%	13.5

※入院診療録サマリーの主病名を基に、「疾病及び関連保険問題の国際統計分類 第10回修正版」(ICD-10)を用いて分類・集計

診療科別・疾病分類別 順位表(TOP5)

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
乳腺外科	1	C50	乳癌	523	82.5%	10.7
	2	D05	乳房上皮内癌	61	9.6%	9.5
	3	D24	乳房良性腫瘍	21	3.3%	3.8
	4	C79	その他の部位の転移(脳、骨、癌性髄膜炎)	7	1.1%	22.6
	5	C78	転移性肝腫瘍、癌性腹膜炎、癌性胸水	4	0.6%	7.5
	その他			18	2.8%	－
	総 計			634	100%	10.3

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
小児外科	1	K40	鼠径ヘルニア	77	29.5%	2.9
	2	Q53	停留精巣	23	8.8%	3.0
	3	K42	臍ヘルニア	18	6.9%	2.8
	4	K35	急性虫垂炎	16	6.1%	11.5
	5	K56	腸重積症	8	3.1%	2.8
	5	Q43	腸のその他の先天奇形	8	3.1%	38.3
			Q431 ヒルシュスプルング病	5		
			Q433A 腸回転異常症	2		
			Q432 ヒルシュスプルング病類縁疾患	1		
	その他			111	42.5%	－
	総 計			261	100%	9.1

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
脳神経外科	1	I67	その他の脳血管疾患	272	29.2%	8.7
			I671 未破裂性動脈瘤	257		
			I670 解離性動脈瘤	10		
			I675 もやもや病	5		
	2	I65	頸動脈の狭窄・閉塞	149	16.0%	9.8
	3	I61	脳出血	83	8.9%	15.3
	4	I60	くも膜下出血(非外傷性)	49	5.3%	34.5
	5	I63	脳梗塞	47	5.0%	30.9
	その他			333	35.7%	－
	総 計			933	100%	13.8

※入院診療録サマリーの主病名を基に、「疾病及び関連保険問題の国際統計分類 第10回修正版」(ICD-10)を用いて分類・集計

診療科別・疾病分類別 順位表(TOP5)

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
整形外科	1	M16	変形性股関節症、臼蓋形成不全症	192	16.3%	38.5
	2	S52	前腕骨折	100	8.5%	4.5
	3	M48	脊柱管狭窄症、靱帯骨化症	99	8.4%	23.7
	4	S72	大腿骨骨折	88	7.5%	30.9
	5	M17	変形性膝関節症	78	6.6%	46.8
	その他			618	52.6%	-
	総 計			1175	100%	24.0

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
形成外科	1	Q37	唇顎口蓋裂、唇顎裂	360	40.1%	10.8
	2	C50	乳癌術後	107	11.9%	6.7
	3	Q35	口蓋裂	51	5.7%	9.6
	3	S02	顔面骨骨折	51	5.7%	6.9
			S0220 鼻骨骨折	28		
			S0240 頬骨骨折	15		
			S0260 下顎骨骨折	5		
			その他	3		
	5	Q36	口唇裂	27	3.0%	7.3
	その他			302	33.6%	-
	総 計			898	100%	9.6

※入院診療録サマリーの主病名を基に、「疾病及び関連保険問題の国際統計分類 第10回修正版」(ICD-10)を用いて分類・集計

診療科別・疾病分類別 順位表(TOP5)

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
産婦人科 (分娩除く)	1	D25	子宮筋腫	211	16.7%	6.8
	2	O02	稽留流産	125	9.9%	2.1
	3	C53	子宮頸癌	115	9.1%	13.3
	4	C54	子宮体癌、子宮肉腫	87	6.9%	10.2
	5	N80	子宮内膜症	86	6.8%	6.5
	その他			637	50.5%	-
	総 計			1261	100%	7.4

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
産婦人科 (分娩)	1	O80	正常分娩	704	57.9%	6.7
	2	O34	既知の母体骨盤臓器の異常	141	11.6%	10.3
			O342 前回帝王切開	114		
			O342 子宮筋腫核出後妊娠	17		
			O341 子宮筋腫合併妊娠	7		
			O343 頸管無力症	3		
	3	O81	鉗子分娩、吸引分娩	83	6.8%	7.2
	4	O32	骨盤位	53	4.4%	10.7
	5	O68	胎児機能不全	44	3.6%	12.5
	その他			191	15.7%	-
	総 計			1216	100%	8.4

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
産科分娩 (ベビー)	1	Z38	正常新生児	852	68.3%	6.4
	2	P07	低出生体重児、早産児	228	18.3%	4.9
	3	P21	新生児仮死	44	3.5%	2.9
	4	P05	不当軽量児(LFD、SFD)	33	2.6%	6.1
	5	P08	妊娠期間に比較して過体重児(HFD)	27	2.2%	5.7
	その他			64	5.1%	-
	総 計			1248	100%	5.9

※入院診療録サマリーの主病名を基に、「疾病及び関連保険問題の国際統計分類 第10回修正版」(ICD-10)を用いて分類・集計

診療科別・疾病分類別 順位表(TOP5)

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
眼科	1	H25	加齢性白内障	1660	50.1%	4.1
	2	H35	その他の網膜障害	716	21.6%	3.4
		H353	加齢性黄斑変性症	600		
		H352	オイル眼	21		
		H353	黄斑円孔	20		
		H353	近視性脈絡膜新生血管	19		
		H358	黄斑浮腫	16		
		H353	黄斑前膜	14		
		H353	黄斑上膜	13		
		H352	増殖性硝子体網膜症	10		
		H356	(網膜下、黄斑下)出血	3		
	3	H34	網膜血管閉塞症	258	7.8%	3.0
	4	E11	2型糖尿病眼合併症	159	4.8%	4.9
	5	H33	網膜剥離	156	4.7%	8.8
	その他			367	11.1%	—
	総 計			3316	100%	4.4

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
小児科	1	T78	食物アレルギー	718	48.9%	1.3
	2	J45	気管支喘息	81	5.5%	7.5
	3	R56	けいれん(熱性、胃腸炎関連、その他)	49	3.3%	4.7
	4	M30	川崎病	43	2.9%	11.5
	5	J20	急性気管支炎	42	2.9%	8.1
	その他			536	36.5%	—
	総 計			1469	100%	5.3

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
小児科 (新生児)	1	P07	低出生体重児、早産児	114	45.8%	48.8
	2	P21	新生児仮死	23	9.2%	15.6
	3	P22	一過性多呼吸、呼吸窮迫症候群	21	8.4%	12.4
	4	P70	低血糖、母体糖尿病児	14	5.6%	12.3
	5	Q37	唇顎裂、口唇口蓋裂、唇顎口蓋裂	13	5.2%	10.6
	その他			64	25.7%	—
	総 計			249	100%	32.0

※入院診療録サマリーの主病名を基に、「疾病及び関連保険問題の国際統計分類 第10回修正版」(ICD-10)を用いて分類・集計

診療科別・疾病分類別 順位表(TOP5)

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
耳鼻咽喉科	1	J32	慢性副鼻腔炎	87	10.0%	6.1
	2	J03	習慣性扁桃炎、急性扁桃炎	57	6.6%	7.2
	2	J36	扁桃周囲膿瘍、扁桃周囲炎	57	6.6%	6.2
	4	H71	真珠腫性中耳炎	42	4.8%	7.2
	5	J38	声帯および喉頭の疾患	36	4.1%	6.2
			J381 声帯ポリープ、ポリープ様声帯	10		
			J384 喉頭浮腫	10		
			J387 喉頭蓋嚢胞	6		
			その他	10		
	その他			590	67.9%	－
	総 計			869	100%	10.8

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
皮膚科	1	B02	带状疱疹	63	19.2%	6.7
	1	L03	蜂窩織炎	63	19.2%	10.6
	3	L40	尋常性乾癬、膿疱性乾癬、関節性乾癬	25	7.6%	6.3
	4	L27	薬疹、中毒疹	18	5.5%	18.8
	5	D22	母斑細胞性母斑、色素性母斑	14	4.3%	4.1
	その他			145	44.2%	－
	総 計			328	100%	12.4

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
泌尿器科	1	C61	前立腺癌、前立腺癌の疑い	283	36.2%	5.4
	2	C67	膀胱癌	141	18.0%	16.8
	3	N20	尿管結石、腎結石、結石生腎盂腎炎	61	7.8%	7.0
	4	C64	腎癌	55	7.0%	17.8
	5	N10	急性腎盂腎炎	29	3.7%	11.0
	その他			213	27.2%	－
	総 計			782	100%	10.6

※入院診療録サマリーの主病名を基に、「疾病及び関連保険問題の国際統計分類 第10回修正版」(ICD-10)を用いて分類・集計

診療科別・疾病分類別 順位表(TOP5)

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
麻酔科	1	M48	腰部脊柱管狭窄症	2	20.0%	20.0
	1	M79	腕神経叢引き抜き損傷後痛、足底部痛	2	20.0%	9.5
	その他			6	60.0%	－
	総 計			10	100%	13.2

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
救急医学科	1	I46	心肺停止	219	35.0%	1.5
	2	T36-T50	急性薬物中毒、薬物過量内服	68	10.9%	2.7
	3	S06	外傷性頭蓋内損傷	34	5.4%	6.2
			S0660 外傷性くも膜下出血	8		
			S0650 急性硬膜下血腫	8		
			S0640 急性硬膜外血腫	7		
			その他	11		
	4	A41	敗血症、敗血症性ショック	29	4.6%	16.7
	5	G93	蘇生後脳症、低酸素脳症	21	3.4%	10.3
	その他			255	40.7%	－
	総 計			626	100%	5.7

科	順位	ICD-10	主病名	計	比率	平均 在院日数
総合内科	1	J18	肺炎、詳細不明	72	9.7%	2.7
	2	T78	アナフィラキシー、食物アレルギー	37	5.0%	1.6
	3	N39	尿路感染症	34	4.6%	5.8
	4	H81	めまい症、前庭神経炎	31	4.2%	2.1
	5	A09	急性胃腸炎	28	3.8%	3.3
	その他			542	72.8%	－
	総 計			744	100%	3.3

※入院診療録サマリーの主病名を基に、「疾病及び関連保険問題の国際統計分類 第10回修正版」(ICD-10)を用いて分類・集計

3) 診療科別 外来・入院診療実績

診療科別 外来・入院診療実績

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
呼吸器 アレルギー 内科	外来患者数(初診)	1,733	1,493	1,559
	外来患者数(再診)	26,335	25,685	25,106
	外来患者数(時間外)	75	64	75
	外来患者数(合計)	28,143	27,242	26,740
	入院患者数(延数)	15,282	13,308	13,808

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
リウマチ 膠原病内科	外来患者数(初診)	521	599	507
	外来患者数(再診)	14,321	14,489	15,135
	外来患者数(時間外)	5	12	12
	外来患者数(合計)	14,847	15,100	15,654
	入院患者数(延数)	7,838	9,344	9,422

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
糖尿病 代謝内分泌 内科	外来患者数(初診)	831	822	860
	外来患者数(再診)	25,479	23,822	23,950
	外来患者数(時間外)	12	6	10
	外来患者数(合計)	26,322	24,650	24,820
	入院患者数(延数)	6,105	6,083	6,544

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
腎臓内科	外来患者数(初診)	319	342	304
	外来患者数(再診)	11,699	11,281	12,105
	外来患者数(時間外)	31	28	16
	外来患者数(合計)	12,049	11,651	12,425
	入院患者数(延数)	8,444	8,782	7,991

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
消化器内科	外来患者数(初診)	3,319	3,303	3,377
	外来患者数(再診)	42,825	42,398	41,584
	外来患者数(時間外)	163	148	168
	外来患者数(合計)	46,307	45,849	45,129
	入院患者数(延数)	46,307	29,931	28,598

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
血液内科	外来患者数(初診)	311	354	369
	外来患者数(再診)	9,237	9,970	10,307
	外来患者数(時間外)	163	30	25
	外来患者数(合計)	9,747	10,354	10,701
	入院患者数(延数)	14,130	15,870	13,870

診療科別 外来・入院診療実績

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
腫瘍内科	外来患者数(初診)	69	67	47
	外来患者数(再診)	5,977	7,215	8,981
	外来患者数(時間外)	37	37	49
	外来患者数(合計)	6,083	7,319	9,077
	入院患者数(延数)	13,927	16,528	16,446

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
循環器内科	外来患者数(初診)	1,517	1,475	1,487
	外来患者数(再診)	40,238	35,060	34,116
	外来患者数(時間外)	176	145	158
	外来患者数(合計)	41,931	36,680	35,761
	入院患者数(延数)	23,578	22,497	21,948

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
神経内科	外来患者数(初診)	2,069	1,891	2,002
	外来患者数(再診)	19,662	18,790	18,103
	外来患者数(時間外)	116	89	78
	外来患者数(合計)	21,847	20,770	20,183
	入院患者数(延数)	15,910	14,361	12,581

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
感染症内科	外来患者数(初診)	2	3	5
	外来患者数(再診)	32	23	14
	外来患者数(時間外)	0	0	2
	外来患者数(合計)	34	26	21

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
心臓血管外科	外来患者数(初診)	190	153	137
	外来患者数(再診)	1,900	1,765	1,792
	外来患者数(時間外)	13	6	6
	外来患者数(合計)	2,103	1,924	1,935
	入院患者数(延数)	5,141	4,165	3,741

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
呼吸器外科	外来患者数(初診)	73	83	92
	外来患者数(再診)	1,945	2,044	2,304
	外来患者数(時間外)	8	16	11
	外来患者数(合計)	2,026	2,143	2,407
	入院患者数(延数)	2,631	2,740	2,762

診療科別 外来・入院診療実績

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
消化器 一般外科	外来患者数(初診)	698	725	742
	外来患者数(再診)	12,541	12,640	12,567
	外来患者数(時間外)	98	76	66
	外来患者数(合計)	13,337	13,441	13,375
	入院患者数(延数)	19,156	21,781	19,114

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
乳腺外科	外来患者数(初診)	1,341	1,348	1,762
	外来患者数(再診)	14,932	15,188	18,123
	外来患者数(時間外)	32	36	37
	外来患者数(合計)	16,305	16,572	19,922
	入院患者数(延数)	5,050	5,668	6,540

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
小児外科	外来患者数(初診)	529	550	551
	外来患者数(再診)	3,682	4,013	4,246
	外来患者数(時間外)	46	48	27
	外来患者数(合計)	4,257	4,611	4,824
	入院患者数(延数)	2,997	2,195	2,102

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
脳神経外科	外来患者数(初診)	974	885	855
	外来患者数(再診)	5,235	6,041	5,723
	外来患者数(時間外)	377	174	110
	外来患者数(合計)	6,586	7,100	6,688
	入院患者数(延数)	14,398	13,861	11,832

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
整形外科	外来患者数(初診)	3,975	3,519	3,472
	外来患者数(再診)	40,949	36,156	36,411
	外来患者数(時間外)	756	455	435
	外来患者数(合計)	45,680	40,130	40,318
	入院患者数(延数)	26,020	22,406	22,694

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
形成外科	外来患者数(初診)	2,283	1,918	1,836
	外来患者数(再診)	16,980	15,884	15,661
	外来患者数(時間外)	664	432	346
	外来患者数(合計)	19,927	18,234	17,843
	入院患者数(延数)	8,583	8,171	8,007

診療科別 外来・入院診療実績

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
リハビリテーション科	外来患者数(初診)	57	59	62
	外来患者数(再診)	3,438	2,515	2,100
	外来患者数(時間外)	2	1	0
	外来患者数(合計)	3,497	2,575	2,162

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
産婦人科	外来患者数(初診)	4,489	4,305	3,987
	外来患者数(再診)	49,110	47,615	43,542
	外来患者数(時間外)	498	449	468
	外来患者数(合計)	54,097	52,369	47,997
	入院患者数(延数)	23,476	21,571	19,587

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
小児科	外来患者数(初診)	2,632	2,473	2,535
	外来患者数(再診)	24,416	24,182	24,146
	外来患者数(時間外)	2,803	2,723	2,751
	外来患者数(合計)	29,851	29,378	29,432
	入院患者数(延数)	16,947	17,586	16,266

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
眼科	外来患者数(初診)	3,991	3,733	3,675
	外来患者数(再診)	33,433	30,697	29,359
	外来患者数(時間外)	1,140	869	719
	外来患者数(合計)	38,564	35,299	33,753
	入院患者数(延数)	14,676	14,262	14,484

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
耳鼻咽喉科	外来患者数(初診)	3,479	3,160	3,222
	外来患者数(再診)	31,381	28,230	25,818
	外来患者数(時間外)	1,121	981	817
	外来患者数(合計)	35,981	32,371	29,857
	入院患者数(延数)	9,576	8,994	9,312

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
皮膚科	外来患者数(初診)	3,722	3,531	3,851
	外来患者数(再診)	32,943	32,294	31,420
	外来患者数(時間外)	459	426	430
	外来患者数(合計)	37,124	36,251	35,701
	入院患者数(延数)	4,271	4,509	4,516

診療科別 外来・入院診療実績

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
泌尿器科	外来患者数(初診)	1,332	1,198	1,174
	外来患者数(再診)	28,895	25,515	23,306
	外来患者数(時間外)	28	47	42
	外来患者数(合計)	30,255	26,760	24,522
	入院患者数(延数)	7,290	7,715	8,360

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
放射線科	外来患者数(初診)	974	964	974
	外来患者数(再診)	5,235	5,936	6,656
	外来患者数(時間外)	377	5	2
	外来患者数(合計)	6,586	6,905	7,632

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
麻酔科	外来患者数(初診)	10	6	6
	外来患者数(再診)	314	745	1,100
	外来患者数(時間外)	0	0	2
	外来患者数(合計)	324	751	1,108
	入院患者数(延数)	0	12	10

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
救急医学科	外来患者数(初診)	66	65	87
	外来患者数(再診)	63	82	75
	外来患者数(時間外)	98	78	121
	外来患者数(合計)	227	225	283
	入院患者数(延数)	3,901	3,725	3,413

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
総合内科	外来患者数(初診)	1,179	1,421	1,478
	外来患者数(再診)	1,096	1,460	1,486
	外来患者数(時間外)	3,307	4,653	4,995
	外来患者数(合計)	5,582	7,534	7,959
	入院患者数(延数)	756	1,828	2,171

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
精神神経科	外来患者数(初診)	786	718	716
	外来患者数(再診)	36,446	35,189	34,270
	外来患者数(時間外)	4	0	4
	外来患者数(合計)	37,256	35,907	34,990

診療科別 外来・入院診療実績

科	診療実績	平成25年度	平成26年度	平成27年度
歯科	外来患者数(初診)	1,313	1,434	1,590
	外来患者数(再診)	4,284	4,142	4,597
	外来患者数(時間外)	0	0	0
	外来患者数(合計)	5,597	5,576	6,187

Ⅲ 各部門活動狀況

1 昭和大学病院

昭和大学病院 診療部門

1) 呼吸器・アレルギー内科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：相良 博典

医局長：横江 琢也

病棟医長：山本 真弓

(2) 医師数

教授	1名	講師	2名	助教(員外)	0名
准教授	1名	助教	7名	大学院生	6名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本内科学会指導医	10名
	日本呼吸器学会指導医	3名
	日本アレルギー学会指導医	2名
	日本呼吸内視鏡学会指導医	1名
	日本感染症学会指導医	1名
	日本リウマチ学会指導医	1名
専門医	日本内科学会総合内科専門医	10名
	日本呼吸器学会専門医	18名
	日本呼吸器内視鏡学会専門医	7名
	日本アレルギー学会専門医	13名
	日本感染症学会専門医	1名
	結核・抗酸菌症専門医	2名
	日本禁煙学会専門医	1名
	日本リウマチ学会専門医	1名
	日本老年医学会専門医	1名
認定医	日本内科学会認定医	30名
	日本がん治療認定医	4名
	結核・抗酸菌症認定医	2名
	肺がん CT 健診認定医	2名
	日本化学療法学会抗菌化学療法認定医	1名
	日本睡眠学会認定医	1名
その他	難病指定医	12名

(4) 主な診療実績

	疾患名(入院)	患者数
1	肺炎	182
2	肺癌	144
3	睡眠時無呼吸症候群	57
4	気胸	46
5	間質性肺炎	44
6	慢性閉塞性肺疾患	33
7	気管支喘息	32
8	胸部異常陰影	28
9	膿胸	25
10	胸水貯留	18

	主な検査・処置名 (外来・入院問わず)	患者数
1	気管支鏡	274
2	アプノモニター	107
3	CT下肺生検	45
4	気道過敏性検査	66
5	ポリソムノグラフィー	57

2. 高度医療への取り組み

①難治性喘息患者に対する 抗サイトカイン療法	高用量吸入ステロイドや全身ステロイド不能の難治性のアレルギー性喘息患者に対して、いくつかの抗サイトカイン療法の治験を実施中である。また、抗 IL-5 抗体が 2016 年度に発売され、効果が期待される。
②難治性喘息患者に対する 気管支焼灼療法	高用量吸入ステロイドや全身ステロイド不能の難治性のアレルギー性喘息患者に対して、気管支焼灼療法を今後導入予定である。
②肺の腫瘍性病変に対する 気管支超音波気管支内視鏡検査	従来の気管支内視鏡では検査や診断が困難であった腫瘍性病変に対して、超音波気管支内視鏡(EBUS; Endobronchial Ultrasonography)を用いた超音波気管支内視鏡ガイド下針生検(EBUS-TBNA)やガイドシース併用気管支内腔超音波断層法(EBUS-GS)を行っている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 6 月 24 日	第 13 回城南呼吸器感染症研究会	目黒雅叙園
2	平成 27 年 9 月 12 日	第 33 回呼吸器・免疫シンポジウム	海運クラブ
3	平成 28 年 2 月 27 日	Respiratory Forum 2016	目黒雅叙園

4. 今後の展望

- 講演会や研究会、医師会の胸部エックス線写真の読影などを通し、地域の医師会員や医療関係者との交流を図り、地域への貢献に励むとともに、紹介患者を増やしていく一方、逆紹介患者も増やしていく。
- 呼吸器センターの特色を生かし、呼吸器外科と緊密に連絡をとり、内科と外科とが一体となった迅速な治療ができるようにする。
- 総合内科専門医、呼吸器学会専門医などの専門的な資格・知識・技術を取得し、実際の患者の診療にあたる際は、プロフェッショナルとしての対応を行っていく。

昭和大学病院 診療部門

2) リウマチ・膠原病内科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長: (代)小林 洋一

医局長: 高橋 良

病棟医長: 三輪 裕介

(2) 医師数

教授	1 名	講師	1 名	助教(員外)	3 名
准教授	0 名	助教	7 名	大学院生	5 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本リウマチ学会指導医	2 名
	日本アレルギー学会指導医	1 名
専門医	日本リウマチ学会専門医	7 名
	日本アレルギー学会専門医	1 名
	日本内科学会総合内科専門医	2 名
認定医	内科認定医	10 名
その他	臨床研修指導医	2 名

(4) 主な診療実績

	当科で診療している主な疾患	患者数
1	関節リウマチ	95
2	血管炎症候群	72
3	全身性エリテマトーデス	62
4	炎症性筋炎	57
5	シェーグレン症候群	31
6	全身性強皮症	29
7	ベーチェット病	10
8	成人発症スティル病	7
9	リウマチ性多発筋痛症	7
10	混合性結合組織病	6

	当科での検査、特殊外来	患者数
1	関節エコー	400
2	リウマチ膠原病母性外来	76

2. 高度医療への取り組み

①血管炎に対するリツキシマブ治療	ステロイド、免疫抑制剤抵抗性の顕微鏡的多発血管炎、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対し、リツキシマブ治療を行っている。
②難治性炎症性筋疾患に対するγグロブリン療法	ステロイド、免疫抑制剤抵抗性の顕微鏡的多発血管炎に対し、大量γグロブリン療法を行っている。
③強直性脊椎炎に対する生物学的治療	強直性脊椎炎に対し、インフリキシマブ、アダリムマブなどの生物学的治療を行っている。
④乾癬性関節炎に対する生物学的治療	ステロイド、免疫抑制剤抵抗性の乾癬性関節炎に対し、インフリキシマブ、アダリムマブ、ウスティヌマブ、セクキヌマブなどの生物学的治療を行っている。
⑤関節リウマチに対する低分子治療	関節リウマチに対し、生物学的治療のみならず、トファシチニブなどの低分子治療、イグラチモドなどの抗リウマチ薬治療を行っている。
⑥全身性エリテマトーデスに対する新規治療	従来使用されていたステロイド、免疫抑制剤（アザチオプリン、タクロリムス、ミゾリビン）に加えて、ミコフェノール酸モフェチル、ハイドロキシクロロキン治療を行っている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 28 年 3 月 3 日	ASHURA の会	二子玉川エクセルホテル 東急
2	平成 28 年 2 月 25 日	昭和大学リウマチ膠原病 Meeting	日航川崎ホテル
3	平成 27 年 10 月 20 日	旗の台リウマチ膠原病 meeting	目黒雅叙園
4	平成 27 年 7 月 30 日	旗の台 RA 医療連携ミーティング	八芳園

4. 今後の展望

- 病診連携、とくに紹介逆紹介をさらに推進し、地域の先生方、患者さんのお役に立てるよう邁進する。
- 教育部門に関しては充実しつつあるが、さらに力を入れ、よきリウマチ膠原病内科医を育成することが使命と考えている。
- 臨床研究を行うための RA と SLE のレジストリーを開始した。当院から質の良い研究が発信できるように努力したい。

3) 腎臓内科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：柴田 孝則

医局長：眞田 大介

病棟医長：伊與田 雅之

(2) 医師数

教授	1 名	講師	1 名	助教(員外)	2 名
准教授	1 名	助教	4 名	大学院生	7 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本内科学会研修指導医	4 名
	日本腎臓学会指導医	3 名
	日本透析医学会指導医	3 名
専門医	日本内科学会総合内科専門医	3 名
	日本腎臓学会専門医	5 名
	日本透析医学会専門医	5 名
	日本アフェレシス学会専門医	1 名
	日本リウマチ学会専門医	1 名
認定医	日本内科学会認定内科医	14 名

(4) 診療実績

	主な入院診療実績	患者数
1	慢性腎臓病(CKD)保存期合併症	97
2	腎炎・ネフローゼ症候群(腎生検含む)	72
3	CKD 血液透析導入	71
4	維持血液透析期合併症(バスキュラーアクセス不全を除く)	60
5	急性腎障害(AKI)	50
6	バスキュラーアクセス不全	31
7	腎移植関連合併症	20
8	腎移植	7
9	維持腹膜透析期合併症	6
10	腹膜透析導入	5

	主な検査・処置(外来・入院問わず)	患者数
1	シャント PTA(経皮的血管形成術)	110
2	持続的血液濾過透析	87
3	腎生検	61
4	血液吸着療法(エンドトキシン吸着療法)	46
5	単純血漿交換療法	14
6	吸着式血球成分除去療法	13
7	腹水濾過濃縮再静注療法	5
8	二重濾過血漿交換療法	3
9	血漿吸着療法(LDL アフェレシス)	2
10	血漿吸着療法(免疫吸着療法)	1

2. 高度医療への取り組み

①アフエシス療法	薬物治療で治療困難な難治性ネフローゼ症候群、膠原病、神経免疫疾患、血液疾患、閉塞性動脈硬化症、皮膚疾患、炎症性腸疾患などに対し、血漿交換や二重濾過血漿交換療法、各種の吸着療法などを施行し、一定の治療成果が得られている。
----------	---

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 9 月 29 日	第 6 回フレッシュマンセミナー	昭和大学病院
2	平成 28 年 3 月 24 日	第 7 回腎透析勉強会	昭和大学病院

4. 今後の展望

- 近隣のかかりつけ医療機関との緊密な連携により、CKD の早期発見・早期治療に向けた病診連携を推進する。
- 進行した慢性腎不全患者一人ひとりに十分な時間をとって、透析療法の選択や腎移植の相談などを積極的に行いながら、適切な治療法の選択を提案していく。
- シャント PTA(経皮的血管形成術)を推進し、質の高いバスキュラーアクセス マネージメントに努める。

4) 消化器内科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：吉田 仁 医局長：野本 朋宏 病棟医長：坂木 理、打越 学

(2) 医師数

教授	1 名	講師	3 名	助教(員外)	2 名
准教授	1 名	助教	11 名	大学院生	6 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	消化器病指導医	3 名
	消化器内視鏡指導医	4 名
	肝臓指導医	1 名
	胆道学会認定指導医	2 名
専門医	総合内科専門医	2 名
	消化器病専門医	13 名
	消化器内視鏡専門医	10 名
	肝臓専門医	6 名
認定医	内科認定医	19 名
	がん治療認定医	2 名
	門脈圧亢進症学会技術認定	1 名

(4) 主な診療実績

	疾患名(入院)	延べ患者数		主な処置名	患者数
1	胆管炎	134	1	ERCP および ERCP 関連治療	566
2	胆嚢炎	66	2	経皮的胆道ドレナージ術	101
3	肝細胞癌	148	3	内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	121
4	膵癌	76	4	内視鏡的大腸ポリープ切除術	650
5	胆管癌	54	5	内視鏡的止血術	200
6	胃癌	58	6	ラジオ波焼灼療法(RFA)	78
7	大腸癌	60	7	血管造影下肝癌治療(TACE)	91
8	食道癌	24	8	ラジオ波焼灼療法(RFA)	78
9	重症急性膵炎	30	9	食道静脈瘤の内視鏡治療	106
10	食道静脈瘤	34	10	超音波内視鏡下穿刺	80

2. 高度医療への取り組み

①内視鏡的粘膜下層剥離術	食道・胃・大腸について ESD による内視鏡的治療を積極的に導入している。早期胃癌の内視鏡治療は Japan Clinical Oncology Group(JCOG)に参加し、治療適応拡大に関する多施設共同研究を進めている。
②拡大内視鏡を用いた内視鏡診断	最新の内視鏡機器を導入し、Narrow Band Imaging など画像強調内視鏡・色素内視鏡と拡大内視鏡を組み合わせ、腫瘍・非腫瘍の鑑別診断および消化管癌の深達度診断について高精度の内視鏡検査を行っている。
③経静脈的肝内門脈大循環短絡術(TIPS)	先進医療の申請を行い、門脈圧亢進症による内視鏡治療抵抗性食道胃静脈瘤、難治性腹水に TIPS を行なっている。
④重症急性膵炎に対する集学的治療	致死率が高い重症急性膵炎に対して、蛋白分解酵素阻害薬、抗菌薬の2経路動注療法や経管栄養療法を施行し、高い救命率が得られている。また、膵炎後の膵仮性嚢胞および膵膿瘍には超音波内視鏡下による経消化管的ドレナージや内視鏡的ネクロセクトミーを積極的に行なっている。
⑤膵癌に対する集学的治療	切除不能進行膵癌に対する化学療法(FOLFIRINOX、GEM+nab-PTX)および放射線療法(GEM+RT)を行っている。また、悪性胆道狭窄に対する内視鏡的胆道ステント留置も積極的に行っている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 10 月 27 日	消化器疾患の地域連携を考える会	雅叙園
2	平成 28 年 2 月 23 日	旗の台消化器センターフォーラム	雅叙園

4. 今後の展望

【消化管疾患】

- 画像強調内視鏡を用いた診断学については、臨床研究としてさらなるデータの蓄積・解析をしていく。
- 治療前診断および治療層別に対するバイオマーカーについては、引き続きデータ蓄積・解析を継続する。

【肝疾患】

- 非アルコール性脂肪肝炎(NAFLD)が近年問題となってきたが現時点では有効な治療法はないため病態の検討は重要であり、臨床および基礎的に検討を行っていく。
- 肝細胞癌および転移性肝癌に対してより有効な集学的治療の検討を行っていく。
- B-RTO、TIPS、Denver shunt を含め当院では肝硬変、門脈圧亢進症の治療手段が豊富であり症例を積み重ねていく。

【胆・膵疾患】

- 重症急性膵炎に対する引き続き治療を継続していく。
- 膵癌の早期発見のためのモダリティを探索する。
- 膵癌、胆道癌に対する化学療法、放射線療法を積極的に行っていく。
- 自己免疫性膵炎(AIP)、IgG4 関連硬化性胆管炎、IgG4 関連疾患(IgG4-RD)について、診断基準に沿った治療指針の確立を進めていく。

5) 血液内科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長： 中牧 剛

医局長： 服部 憲路

病棟医長： 柳沢 孝次

(2) 医師数

教授	1 名	講師	2 名	助教(員外)	3 名
准教授	0 名	助教	1 名	大学院生	2 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本内科学会指導医	4 名
	日本血液学会指導医	3 名
	日本臨床腫瘍学会暫定指導医	1 名
専門医	日本血液専門医	4 名
認定医	日本内科学会認定医	7 名
	日本がん治療認定医機構がん治療認定医	1 名
	造血細胞移植認定医	1 名
その他	日本がん治療認定医機構暫定教育委医	1 名

(4) 主な診療実績

	疾患名(入院)	患者数
1	悪性リンパ腫	237
2	白血病	87
3	骨髄異形成症候群	29
4	多発性骨髄腫	26
5	再生不良性貧血	3

	手術項目(入院)	患者数
1	非血縁者骨髄移植	2
2	臍帯血移植	18
3	血縁者末梢血幹細胞移植	3

	主な検査・処置名(外来・入院問わず)	患者数
1	骨髄穿刺	507

2. 高度医療への取り組み

①造血幹細胞移植	未だ完全には確立されていない治療法であり、安全におこなえるよう新たな前処置などを取り入れている。
----------	--

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 28 年 1 月 22 日	HATANODAI Myeloma Forum	昭和大学病院
2	平成 28 年 2 月 3 日	血液エリアフォーラム in 城南	目黒雅叙園
3	平成 28 年 2 月 19 日	The3rd Hematology Seminar	昭和大学病院

4. 今後の展望

- 病床も常に満床ですが、患者さんに最適なテーラーメイド医療が行えるように努めていきたい。
- 臨床、研究面から新規治療薬などの効果、副作用予測が行えるように取り組みたい。

6) 循環器内科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長： 小林 洋一

医局長： 濱 裕司

病棟医長： 木庭 新治

(2) 医師数

教授	1 名	講師	8 名	助教(員外)	4 名
准教授	2 名	助教	6 名	大学院生	7 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本内科学会指導医	8 名
	日本高血圧学会指導医	1 名
	日本超音波医学会指導医	1 名
	日本臨床薬理学会指導医	1 名
専門医	日本内科学会認定総合内科専門医	6 名
	日本循環器学会認定循環器専門医	14 名
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医	5 名
	日本動脈硬化学会認定動脈硬化学会専門医	2 名
	日本心血管インターベンション治療学会専門医	1 名
	日本老年病学会認定老年病専門医	1 名
	日本動脈硬化学会認定動脈硬化学会専門医	1 名
	日本超音波学会認定専門医	1 名
認定医	日本内科学会認定内科認定医	20 名
	日本不整脈学会認定植込み型除細動器/ペースメーカーによる心不全治療認定医	6 名
	日本心血管インターベンション治療学会認定医	3 名
	日本再生医療学会認定医	1 名
その他	心臓リハビリテーション指導士	3 名

(4) 主な診療実績

	手術項目	患者数
1	冠動脈カテーテル治療	491
2	末梢血管カテーテル治療	40
3	経皮的カテーテル心筋焼灼術	244
4	ペースメーカー植え込み術	73
5	植え込み型除細動器植え込み術	31
6	両室ペーシング機能付き植え込み型除細動器植え込み術	16
7	Loop Recorder 植え込み	4

	検査項目	患者数
1	冠動脈造影	694
2	末梢血管造影	80
3	心臓電気生理学的検査	56
4	経胸壁心エコー図	6662
5	経食道心エコー図	295
6	心臓核医学検査	844
7	心臓CT	670
8	心臓MRI	67

2. 高度医療への取り組み

①心不全患者に対する非薬物的治療	拡張型心筋症などの薬物抵抗性難治性不整脈患者に対し、両心室ペースメーカー植え込み術を積極的に行い心臓のポンプ機能効率向上を図っている。
②3D mapping を用いた不整脈治療	心腔内超音波、CT、心内心電図を組み合わせ解剖学的、電気的な情報構築を正確に行えるようになった。また、可変シースを用いることで正確なカテーテル操作も行えるようになっている。これらにより、これまで以上に安全で精度の高い不整脈治療を行っている。
③新規導入予定のデバイスの臨床試験の実施	豊富な臨床経験から日本に新規導入予定の冠動脈薬剤溶出ステントやリードレスペースメーカーの臨床試験施設に選定され、臨床試験を実施している。
④経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)	心臓血管外科、麻酔科および放射線科とともにハートチームを形成し、これまで開胸手術が困難であった症例に対して侵襲の少ない経カテーテル大動脈弁留置術を実施している。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 28 年 1 月 26 日	Educational Seminar in Cardiology	昭和大学病院
2	平成 28 年 2 月 16 日	Educational Seminar in Cardiology	昭和大学病院

4. 今後の展望

- 血管形成術と弁留置術における新しい技術やデバイスの習熟と熟練を徹底することで積極的かつ適切な治療を行う。
- 不整脈治療に関しては、抗凝固薬を含めた薬物療法とアブレーションを適切に用いて、更なる治療効果の向上を目指す。
- 重症心不全に対して、カテーテルによる血行再建、不整脈に対するアブレーション、心臓再同期療法および心臓リハビリテーションを適応症例に的確に行うことで、治療成績を向上させる。
- 失神患者の原因究明に関して、Head up tilt test や植え込み型ループレコーダーの応用を継続する。

昭和大学病院 診療部門

7) 腫瘍内科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：佐々木 康綱

医局長：濱田 和幸

病棟医長：久保田 祐太郎

(2) 医師数

教授	1 名	講師	3 名	助教(員外)	0 名
准教授	0 名	助教	2 名	大学院生	0 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法指導医	1 名
	日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法暫定指導医	2 名
	日本がん治療認定機構 がん治療暫定教育医	2 名
専門医	日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医	3 名
	日本呼吸器学会 呼吸器専門医	3 名
	日本アレルギー学会 アレルギー専門医	1 名
	日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医	1 名
	日本消化器病学会 消化器病専門医	1 名
	日本消化器内視鏡学会 内視鏡専門医	1 名
	日本外科学会 外科専門医	1 名
	日本内科学会 総合内科専門医	4 名
認定医	日本がん治療認定機構 がん治療認定医	3 名
	日本内科学会 認定内科医	4 名

(4) 主な診療実績

	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 3 月 31 日 癌種別 新規患者症例数	患者数
1	非小細胞肺癌	49
2	小細胞肺癌	19
3	食道癌	40
4	胃癌	34
5	肝・胆・膵臓癌	6
6	結腸・直腸癌	46
7	乳癌	32
8	卵巣癌	5
9	軟部肉腫	12
10	原発不明癌	14
11	その他	10
	合計	267

	平成 27 年 4 月 1 日 ～平成 28 年 3 月 31 日 癌種別 入院患者者数	患者数
1	食道癌(食道胃接合部癌含む)	43
2	胃癌	46
3	大腸癌(直腸癌、肛門管癌含む)	107
4	胆膵癌(胆のう癌、胆管癌、膵臓癌)	9
5	肺癌	130
6	乳癌	33
7	原発不明癌	13
	合計	381

2. 高度医療への取り組み

① 臨床試験(臨床治験含む)	肺癌 胃癌 食道癌 直腸・結腸癌に対して医師主導臨床試験および治験を実施している。また、臨床薬理的な背景をもとにした、トランスレーショナル・リサーチを腫瘍分子生物学研究所と共同して展開している。
----------------	---

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 11 月 16 日	第 10 回がん医療研究会	臨床講堂

4. 今後の展望

- がん薬物療法の臨床研究は、医師主導臨床研究として第Ⅲ相、第Ⅱ相の試験を実施している。また、非小細胞肺癌、胃癌、結腸・直腸癌および食道癌に対する治験も実施している。
- 臨床疑問を基礎実験で解明できるように、TRでは、分子標的薬の効果と有害事象を薬物動態-薬力解析を用いて検討している。さらに遺伝薬理学的解析も学内の腫瘍分子生物学研究所や、学外の東京大学、金沢大学などと共同で実施している。TRについても臨床研究同様にさらに研究を活性化していく予定である。
- 理想的ながん医療が実践できることを目指して、研修医のみならず、がん診療に関わる院内各診療科の医療スタッフに対する教育の普及を行っていく。

昭和大学病院 診療部門

8) 総合内科（ER）

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長： 齋藤 司

医局長： 垂水 庸子

病棟医長： 齋藤 司

(2) 医師数

教授	0 名	講師	0 名	助教(員外)	0 名
准教授	1 名	助教	2 名	大学院生	1 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	プライマリ・ケア指導医	1 名
専門医	総合内科専門医	1 名
	救急科専門医	1 名
	循環器専門医	1 名
認定医	内科認定認定医	3 名
	プライマリ・ケア認定医	1 名
その他	ICLS インストラクター	2 名
	JMECC インストラクター	1 名

(4) 主な診療実績

	入院疾患名	患者数
1	肺炎	62
2	アナフィラキシー	37
3	尿路感染症	36
4	電解質異常	24
5	末梢性めまい	19
6	心不全	18
7	腸閉塞	16
8	胆石・胆道系感染症	15
9	アルコール関連障害	14
10	てんかん	10

2. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 10 月 31 日	昭和大学クリニカルセミナー	シェラトン都ホテル
2	平成 27 年 12 月 12 日	聴覚障害者のための公開講座	昭和大学病院

3. 今後の展望

- 総合診療専門医プログラムの始動に向け準備を行い、総合診療の普及に貢献する。
- 日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療プログラムを通して、総合医・家庭育成に取り組む。
- 総合診療医の育成のため、学生教育・研修医教育の充実を図る。

昭和大学病院 診療部門

9) 感染症内科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長： 二木 芳人

医局長： 詫間 隆博

(2) 医師数

教授	2 名	講師	3 名	助教(員外)	0 名
准教授	0 名	助教	0 名	大学院生	0 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本内科学会指導医	3 名
	日本感染症学会指導医	1 名
	日本化学療法学会抗菌化学療法指導医	3 名
	日本化学療法学会抗菌薬臨床試験指導医	1 名
	日本呼吸器学会指導医	1 名
	日本小児科学会指導医	1 名
	日本臨床薬理学会特別指導医	1 名
	卒後臨床研修指導医	1 名
専門医	日本内科学会総合内科専門医	3 名
	日本感染症学会専門医	4 名
	日本呼吸器学会専門医	2 名
	日本小児科学会専門医	1 名
認定医	日本内科学会認定内科医	4 名
	日本臨床微生物学会認定医	1 名
	日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医	1 名
	日本性感染症学会認定医	1 名
	日本エイズ学会認定医	1 名
その他	インфекションコントロールドクター(ICD)	5 名

(4) 主な診療実績

	主な検査項目	患者数
1	院内コンサルト	93
2	血液培養陽性	823
3	耐性菌・抗菌薬長期など	83

2. 高度医療への取り組み

①Antimicrobial Stewardship Team (AST;抗菌薬適正使用支援チーム) の推進	日本では初めての抗菌薬適正使用支援チーム(AST)を立ち上げ、当科の医師が中心となって、薬剤師、検査技師と共に抗菌薬適正使用の推進に取り組む体制を構築し、その実践と評価、普及に取り組んでいる。
②多診療科にわたる治験の取り組み	新薬の治験は従来は単診療科での患者を対象に行われることがほとんどであったが、感染症の治験対象患者はどの診療科で発生するか予測が難しく、全病院単位で特定の診療科に関わらず、当科で併診して治験を行う体制を構築してきている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 5 月 14 日	第 7 回昭和感染症フォーラム	目黒雅叙園
2	平成 27 年 11 月 26 日	第 8 回昭和感染症フォーラム	目黒雅叙園
3	平成 28 年 2 月 26 日	Hatanodai Infectious Disease Forum	昭和大学病院
4	平成 27 年 6 月 18 日	抗菌薬スキルアップセミナー アドバンスト 1	昭和大学病院
5	平成 27 年 6 月 26 日	抗菌薬スキルアップセミナー アドバンスト 2	昭和大学病院

4. 今後の展望

- コンサルト症例のみならず、血液培養陽性患者や耐性菌検出患者なども確認し、全病的に診療補助を行い、治療に役立てる。
- 院内感染対策の主要メンバーとして、院内の感染制御および抗菌薬適正使用をさらに啓発していきたい。
- 基礎実験においても、院内で分離される耐性菌の疫学的調査を行い、院内感染対策にも役立てたい。

昭和大学病院 診療部門

10) 心臓血管外科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：青木 淳

医局長：丸田 一人

病棟医長：丸田 一人

(2) 医師数

教授	1 名	講師	1 名	助教(員外)	0 名
准教授	1 名	助教	0 名	大学院生	1 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	心臓血管外科修練指導医	2 名
	胸部ステントグラフト指導医	2 名
	腹部ステントグラフト指導医	2 名
専門医	心臓血管外科専門医	3 名
	脈管専門医	3 名
	外科専門医	2 名
認定医	胸部外科認定医	2 名
	外科認定医	3 名

(4) 主な診療実績

	手術項目	患者数
1	弁膜症手術	90
2	冠動脈バイパス術	75
3	不整脈手術	40
4	心臓腫瘍手術	2
5	経カテーテル大動脈弁移植術	2
6	胸部大動脈人工血管置換術	17
7	胸部大動脈ステントグラフト内挿術	29
8	腹部大動脈人工血管置換術	12
9	腹部大動脈ステントグラフト内挿術	29
10	末梢血管手術	27

2. 高度医療への取り組み

①経カテーテル大動脈弁移植術	通常の開心術が出来ない方に対して、カテーテルで大動脈弁に人工弁を移植する低侵襲治療の導入に向けて、準備を行ってきたが、H27年12月に開始することができた。
②低侵襲大血管手術の導入	特に胸部大動脈疾患に対して、積極的にかつ適応を十分に考慮して、ステントグラフトと手術を組み合わせた低侵襲治療を導入した事により、人工血管置換術、血管内治療のいずれも、手術成績が向上した。
③人工弁を用いない僧帽弁再建術	人工腱索や心膜補填による僧帽弁形成術を積極的に行うことにより、術後の心機能の温存、患者のQOL向上を目指している。また血栓症、感染症などの予防も期待できる。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成27年3月21日	城南周術期循環管理フォーラム	昭和大学
2	平成27年12月3日	品川ハートネットセミナー	昭和大学

4. 今後の展望

- 重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁移植術の普及
- 胸部大動脈疾患に対する人工血管置換術とステントグラフトを用いた治療の適切な選択
- 開心術においてもより低侵襲な治療を行っていく。

昭和大学病院 診療部門

11) 呼吸器外科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：鈴木 隆

医局長：片岡 大輔

病棟医長：片岡 大輔

(2) 医師数

教授	2名	講師	1名	助教(員外)	1名
准教授	1名	助教	3名	大学院生	0名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本外科学会指導医	3名
	日本胸部外科指導医	3名
	日本呼吸器外科指導医	3名
	日本呼吸器学会指導医	1名
	日本呼吸器内視鏡指導医	3名
	がん治療認定医・暫定教育医	2名
	日本気管食道科学会指導医	2名
専門医	日本呼吸器外科専門医	4名
	日本外科学会専門医	4名
	日本胸部外科正会員	4名

(4) 主な診療実績

	疾患名(入院)	患者数
1	原発性肺がん	59
2	自然気胸	56
3	転移性肺がん	18
4	縦隔腫瘍	17
5	外傷性血気胸	11
6	膿胸	8
7	縦隔炎	4
8	胸壁腫瘍	3
9	気管支異物	1

	手術項目(入院)	患者数
1	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	39
2	胸腔鏡下肺のう胞切除術	33
3	肺悪性腫瘍手術	21
4	胸腺摘出術	9
5	胸腔鏡下膿胸搔爬ドレナージ	6
6	胸壁腫瘍摘除	4
7	気管支鏡下異物除去	1
8	胸腔鏡下縦隔切開術	1

2. 高度医療への取り組み

①肺癌患者における術後化学療法の効果予測因子としての核酸代謝酵素 mRNA 発現の研究	有効な抗癌治療を行うため、術後化学療法に対して効果が期待できる患者を選択し、その予後と治療効果予測因子としての核酸代謝酵素 mRNA の腫瘍組織内発現に関する検討ならびに術後予後との関連を分析し、患者一人ひとりに適した治療の指針とする。
②進行肺癌に対する術前化学放射線療法に関する検討	原発性肺癌には発見時すでに進行期肺癌と診断され手術適応から除外される症例も多くみられるが、初回診断時に切除不能と判定された症例の中にも化学放射線療法による治療効果が顕著で切除可能となる症例も含まれる。切除不能と判断された局所浸潤による進行期肺癌でも、集学的治療により切除可能となることが期待される症例に対しては、その切除性向上に向けた検討を行っている。
③外科領域におけるノンテクニカル・スキル評価システム構築	医療従事者に求められる医療安全に関わる知識・技能・能力として近年特に高い関心を集めている「専門的な手技以外の技能」(ノンテクニカルスキル)に焦点を当て、その教育訓練プログラム(コンテンツ)の開発と評価システムを構築することを目的に検討を行っている。ノンテクニカルスキルは医療行為すべてにおいて検討しうるものであるが、特に外科領域の治療は侵襲的行為を伴うハイリスク領域であり、この領域における安全性を高めることは政策的なプライオリティに叶うものである。そこで、実践的かつ具体的な考え方に依拠し、教育プログラムならびにその評価システムの開発、さらにそれらをより柔軟かつ効果的に利用することを促進するプラットフォームの研究・開発を進めている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 7 月 3 日	昭和大学呼吸器外科グループ懇話会	昭和大学横浜市北部病院
2	平成 27 年 10 月 31 日	昭和大学クリニカルセミナー	シェラトン都ホテル東京
3	平成 28 年 1 月 15 日	昭和大学呼吸器外科グループ懇話会	昭和大学病院

4. 今後の展望

- 内視鏡手術の適応拡大による低侵襲性治療の安全性の確立と充実により、根治性を保ちながら術合併症を低減させ呼吸機能温存術式を拡大する。
- 集学的治療におけるチーム医療を更に充実させ継続する。
- 悪性腫瘍に対する集学的治療の継続と大学病院にふさわしい体制を構築する。
- 術後疼痛や不安削減に向けたペインクリニックとメンタルケアのサポート体制を構築する。
- 自然気胸の術後再発防止に対する新たな術式を研究し評価する。
- 導入された Robotic surgery (ダビンチ) に向けた研修および修練を計画する。
- 専門的な手技以外の技能(ノンテクニカルスキル)の教育訓練プログラムを開発し、評価システムを構築する。
- EWS を用いた難治性気胸に対する気管支内充填術による治療を拡大する。
- プローブ型共焦点レーザーマイクロスコープを用いて低侵襲な組織診断を可能にする技術を確立し、診断の精度を向上させる。
- 電子聴診器による音響解析を用いた肺の機能評価を、術後合併症の早期発見に応用する。

昭和大学病院 診療部門

12) 消化器・一般外科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：村上 雅彦

医局長：大塚 耕司

病棟医長：五藤 哲

(2) 医師数

教授	1 名	講師	6 名	助教(員外)	8 名
准教授	1 名	助教	9 名	大学院生	5 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本外科学会	4 名
	日本消化器外科学会	3 名
	日本消化器内視鏡学会	4 名
	日本消化器病学会	1 名
	日本大腸肛門病学会	2 名
	日本肝臓学会	1 名
	日本肝胆膵外科学会	2 名
	日本透析医学会	1 名
	日本消化管学会胃腸科指導医	1 名
専門医	日本外科学会	15 名
	日本消化器外科学会	8 名
	日本消化器内視鏡学会	5 名
	日本消化器病学会	4 名
	日本大腸肛門病学会	2 名
	日本肝臓学会	2 名
	日本臨床腎移植学会	1 名
	日本移植学会	1 名
	日本透析医学会	1 名
	食道外科専門医	1 名
認定医	日本消化器外科学会がん治療認定医	8 名
	がん治療認定医	3 名
	日本内視鏡外科学会技術認定医	3 名
	日本食道学会食道科認定医	4 名
	日本消化管学会胃腸科認定医	1 名
	日本腹部救急認定医	1 名

その他	インфекションコントロールドクター	2 名
	がん治療暫定教育医	1 名
	日本腹部救急暫定教育医	2 名

(4) 主な診療実績

	手術件数	患者数
1	腹腔鏡下大腸切除術	160
2	腎不全(バスキュラーアクセス)	151
3	腹腔鏡下胆嚢摘出術	131
4	胸腔鏡下食道亜全摘術	87
5	腹腔鏡下虫垂切除術	78
6	腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術	64
7	肝切除術	43
8	腹腔鏡下幽門側胃切除術	36
9	腹腔鏡下胃全摘術	20
10	臍頭十二指腸切除術	21

2. 高度医療への取り組み

①鏡視下食道癌根治術 (VATS-E)	1996 年より本術式を食道癌の標準手術として導入。2010 年に人工気胸を併用した新術式を開発・導入し、現在も施行。食道癌の日本内視鏡外科学会技術認定医 3 人を有し、鏡視下手術件数では国内最多であり、国内・外の食道外科医の指導にもあたっている。
②3D ナビゲーションシステムによる腹腔鏡下肝・脾切除	CT 画像を特殊な解析ソフトを用いて 3D 化し、腹腔鏡下肝・脾切除の際のナビゲーションとして使用。肝・脾実質組織を透視して血管系描出が可能となるため、術前評価がより詳細に行うことができるようになり、安全な手術が可能となった。
③GPS 機能搭載超音波装置を用いた腹腔鏡下肝・脾切除	磁気センサー搭載超音波装置を用いた空間認識システムを術中ナビゲーションとして腹腔鏡下肝切除にて活用している。3D ナビゲーションシステムと合わせて安全な手術が可能となっている。
④大腸癌手術における reduced port surgery	盲腸～上行結腸癌では単孔式腹腔鏡下手術を標準術式としている。その他の手術でもこの手技を生かし、低侵襲手術を実践している。
⑤ICG 蛍光診断法の体腔鏡下手術への応用	肝腫瘍の局在診断として導入開始。現在では食道、胃、大腸でも術前マーキングとし活用している。消化管手術の吻合後の血流診断法としても有用。鏡視下手術にて施行可能であることが特徴であり、現時点では導入施設は少ない。
⑥鼠径ヘルニアへの腹腔鏡下手術の導入	2010 年から教室においても開始し、2012 年から本格導入となった。患者さんの負担も少なく、在院日数の短縮も得られている。

⑦プローブ型共焦点レーザーマイクロスコープ Cellvizio の導入	腹腔鏡下に顕微鏡レベルの組織血流や組織像観察が可能であり、癌の周囲浸潤判定や癌性腹膜炎等の診断確定が予想され、臨床研究を行っている。
-------------------------------------	--

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 7 月 10 日	第 2 回城南消化器内視鏡研究会	昭和大学地下臨床講堂
2	平成 27 年 7 月 25 日	第 5 回ブラックジャックセミナー	昭和大学 16 号館
3	平成 27 年 9 月 3 日	第 4 回城南手術合併症撲滅フォーラム	目黒雅叙園
4	平成 27 年 9 月 5 日	第 12 回腹腔鏡手術の理論と基礎	J&J 神田本社
5	平成 27 年 9 月 25 日	第 3 回チーム医療からみた周術期管理実践セミナー	J&J 神田本社
6	平成 28 年 1 月 22 日	第 3 回昭和臓器不全フォーラム	目黒雅叙園
7	平成 28 年 2 月 19 日	第 6 回城南消化器内視鏡外科研究会	渋谷
8	平成 28 年 2 月 23 日	第 6 回旗の台消化器センター地域連携フォーラム	目黒雅叙園

4. 今後の展望

- 定型化された内視鏡外科手術の実践と普及
- 安全な内視鏡外科手術の教育と指導医の育成
- 高度で安全な手術支援システムの確立
- 合併症ゼロを目指した周術期管理の実践
- 次世代内視鏡外科医の育成

昭和大学病院 診療部門

13) 乳腺外科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長： 中村 清吾

医局長： 桑山 隆志

病棟医長： 桑山 隆志

(2) 医師数

教授	1 名	講師	0 名	助教(員外)	9 名
准教授	2 名	助教	5 名	大学院生	0 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本外科学会指導医	4 名
専門医	日本外科学会専門医	10 名
	日本乳癌学会専門医	8 名
認定医	日本乳癌学会認定医	2 名
	日本癌治療認定医機構癌治療認定医	5 名

(4) 主な診療実績

	手術	患者数		主な検査・処置	患者数
1	乳房切除術	236	1	マンモグラフィ	3390
	内 一期的乳房再建術	111	2	DEXA	286
2	乳房温存術	167	3	SPP	160
	内 SAVI	7	4	乳房超音波	5216
3	マンモトーム生検	107	5	針生検	481

2. 高度医療への取り組み

①家族性乳癌に対する診療体制	乳癌、卵巣癌に関係する BRCA 遺伝子のカウンセリングや遺伝子検査を行い、乳癌治療に役立てている。
②乳房再建手術	乳房全摘手術後の乳房再建を形成外科と共同しながら患者の希望にこたえるよう治療している。
③SAVI を用いた新しい乳房温存療法	放射線科と共同して新しい放射線治療デバイス SAVI を用いた部分加速照射を温存療法後の乳房に行うことで、従来の治療と比較して短期に手術および放射線照射の期間が短縮可能となり、患者の負担も軽減できるような治療を行っている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 7 月 2-4 日	第 23 回日本乳癌学会学術総会	東京国際フォーラム

4. 今後の展望

- 乳がん患者の増加: ブレストセンターの開設以来、患者数が増加し、その対応に追われた感が否めないで、今後チーム医療や設備の充実を図りたい。
- 日本において増加の一途をたどる乳癌患者の増加は日本の社会現象として重要な位置を占めている。当院のブレストセンターが日本における乳がん治療の中核を担うべく、努力する。

14) 小児外科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：土岐 彰

医局長：杉山彰英

病棟医長：中山智理

(2) 医師数

教授	1 名	講師	1 名	助教(員外)	0 名
准教授	1 名	助教	1 名	大学院生	2 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本小児外科学会指導医	3 名
	日本外科学会指導医	3 名
	日本静脈経腸栄養学会指導医	2 名
専門医	日本小児外科学会専門医	3 名
	日本外科学会専門医	5 名
認定医	日本胸部外科認定医	1 名
	日本消化器外科学会認定医	1 名
	日本静脈経腸栄養学会認定医	2 名
その他	日本がん治療認定医機構暫定教育医	1 名

(4) 主な診療実績

	手術	患者数
1	鼠径ヘルニア根治術(腹腔鏡下手術含む)	76
2	停留精巣手術	24
3	臍ヘルニア根治術	15
4	腹腔鏡下虫垂切除術	9
5	消化管ろう造設術	7
6	腸重積症非観血的整復術	6
7	腹腔鏡下噴門形成術	5
8	消化管ろう閉鎖術	5
9	肛門形成術	3
10	気管切開術	3

2. 高度医療への取り組み

①低侵襲手術	開腹手術は可能な限り臍輪を利用した切開創（臍弧状切開）で行い、術後創を目立ちにくくしている。鼠径ヘルニア、虫垂炎、噴門形成、胃ろうに対しては積極的に鏡視下手術を行っている。また、漏斗胸に対して、胸壁に金属バーを挿入して、陥没した胸壁を矯正する Nuss 法を行っている。
②基礎的研究	小児外科疾患の出生前診断の普及に伴い、重症例が増加している。これらの胎児に対して胎児治療が積極的に行われるようになってきている。当科では先天性嚢胞状腺腫様形成異常(CCAM)、肺分画症、巨大仙尾部奇形腫などの実験モデルに高密度焦点式超音波（HIFU:High-Intensity Focused Ultrasound）を照射し、流入（栄養）血管の焼灼塞栓を行う実験や脊髄髄膜瘤に対する細胞シート移植を応用した胎児治療に関する実験を他施設と共同で行っている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 7 月 2-3 日	日本外科代謝栄養学会第 52 回学術集会	品川区民会館きゅりあん
2	平成 27 年 12 月 5 日	第 64 回小児外科モーニングカンファレンス	昭和大学病院

4. 今後の展望

- 低侵襲手術の更なる拡大
- 学生・研修医教育の一層の充実
- 地域ならびに他科との連携の継続

昭和大学病院 診療部門

15) 脳神経外科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：水谷 徹

医局長：今泉 陽一

病棟医長：今泉 陽一

(2) 医師数

教授	1 名	講師	2 名	助教(員外)	0 名
准教授	1 名	助教	8 名	大学院生	3 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本脳神経外科学会 指導医	7 名
専門医	日本脳神経外科学会 専門医	10 名
	日本血管内治療学会 専門医	1 名
	日本脳卒中学会認定 脳卒中 専門医	3 名
認定医	日本神経内視鏡学会 認定医	2 名

(4) 主な診療実績

	手術項目	患者数
1	脳動脈瘤クリッピング(以下内訳)	116
	1) 破裂脳動脈瘤 クリッピング	28
	2) 未破裂脳動脈瘤 クリッピング	88
2	頸動脈内膜剥離術	35
3	頭蓋外—頭蓋内バイパス術	14
4	脳腫瘍摘出術	38
5	内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術	10
6	微小血管減圧術	37
7	脳動静脈奇形(AVM)摘出術	7
8	開頭血腫除去術(以下内訳)	39
	1) 脳内出血	21
	2) 外傷(急性硬膜下血腫, 急性硬膜外血腫)	18
9	頭蓋骨形成術	21
10	穿頭血腫洗浄ドレナージ術	29

	主な検査項目	患者数
1	脳血管撮影	442
2	脳血流シンチグラフィー	297
3	頸動脈エコー	487

	手術項目	患者数
IVR	血管内手術(以下主な内訳)	108
	1) 破裂脳動脈瘤 コイル塞栓術	9
	2) 未破裂脳動脈瘤 コイル塞栓術	28
	3) 頸動脈ステント留置術	23
	4) 急性期再開通術	18
	5) 脳動静脈奇形(AVM)塞栓術	8
	6) 腫瘍血管塞栓術	6
	総手術件数	500

2. 高度医療への取り組み

①ワークステーションとIT ネットワークによる手術シミュレーションと術者教育	ハイビジョン手術動画ファイル、画像のライブラリ化、さらにワークステーションを手術室、医局などから操作することで、すべての手術情報を融合し、ネットワーク化する試みを行っている。これらはすべて一般IT機器を用いて手作りで構築した。手術教育と、より精度の高い、安全、確実な手術を目指すことができる、他に先駆けた先鋭的な試みである。
②大型、巨大脳動脈瘤の総合治療戦略	大型、巨大脳動脈瘤は治療難易度が高く、詳細な画像によるシミュレーションや血管閉塞テストを含む血管内手技の導入、バイパス術、高度の剥離技術、など総合戦略が必要である。 昭和大学脳神経外科では、3D DSA workstation(WS) をカンファ室、手術室でネットワーク操作可能にし、穿通枝の詳細な位置、癒着動脈の状態を常に術者目線で描出している。手術は最新の Hybrid OR で行い、WS や術中 3D DSA を用いてリアルタイムに術中戦略を立てている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 4 月 8 日	第30回脳神経外科スキルアップ研究会	4 号館 600 号教室
2	平成 27 年 5 月 12 日	第31回脳神経外科スキルアップ研究会	横浜市北部病院会議室
3	平成 27 年 6 月 11 日	第32回脳神経外科スキルアップ研究会	4 号館 600 号教室
4	平成 27 年 7 月 8 日	第33回脳神経外科スキルアップ研究会	藤が丘病院講堂
5	平成 27 年 9 月 5 日	第2回 Hybrid Neurosurgery 研究会	パシフィコ横浜
6	平成 27 年 10 月 1 日	第34回脳神経外科スキルアップ研究会	4 号館 600 号教室
7	平成 27 年 11 月 4 日	第35回脳神経外科スキルアップ研究会	藤が丘病院講堂
8	平成 27 年 12 月 17 日	第36回脳神経外科スキルアップ研究会	臨床講堂
9	平成 28 年 1 月 21 日	第37回脳神経外科スキルアップ研究会	藤が丘病院講堂
10	平成 28 年 2 月 18 日	第38回脳神経外科スキルアップ研究会	臨床講堂
11	平成 28 年 3 月 19 日	第 3 回 Hybrid Neurosurgery 研究会	ベルサール御成門駅前

4. 今後の展望

●脳血管内治療専門医の育成

脳血管内治療は、進化が著しく、脳動脈瘤コイル塞栓術、脳梗塞の急性期再開通をはじめ各種脳疾患の治療において必須となってきた。系統だった脳血管内治療専門医の育成を目指したい。

●脳腫瘍の手術増加

脳血管障害の治療においては本邦のリーダー的施設であるが、脳腫瘍においても院内院外からの患者の紹介実績を獲得していきたい。

昭和大学病院 診療部門

16) 整形外科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：稲垣 克記

医局長：豊島 洋一

病棟医長：藤巻 良昌

(2) 医師数

教授	2 名	講師	9 名	助教(員外)	8 名
准教授	0 名	助教	4 名	大学院生	9 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

専門医	日本整形外科学会専門医	19 名
	日本リハビリテーション医学会専門医	2 名
	日本リウマチ学会 リウマチ専門医	6 名
専門医	日本手外科学会専門医	4 名
認定医	日本整形外科学会認定スポーツ医	14 名
認定医	日本整形外科学会認定リウマチ医	15 名
	認定脊椎脊髄病医	14 名
	リハビリテーション医	11 名
	脊椎内視鏡下手術・技術認定医	1 名
	日本リハビリテーション医学会 認定医	8 名
指導医	日本リウマチ学会 指導医	1 名
	日本脊椎脊髄病学会 指導医	2 名
	日本体育協会公認スポーツドクター	13 名
	義肢装具適合判定講習会受講者	13 名

(4) 主な診療実績

	手術項目(入院)	患者数
1	骨折観血的整復固定術	138
2	人工股関節置換術	115
3	人工膝関節置換術	84
4	脊椎手術	176
5	膝関節鏡手術	66
6	骨軟部腫瘍摘出術	28
7	膝前十字靱帯再建術	27
8	手外科関連手術	168

2. 高度医療への取り組み

① 人工関節置換術	摩耗しない加工がされたポリエチレンや骨温存型の大腿骨ステムを使用した人工股関節置換やオキシニウム素材を使用している人工膝関節を使用して治療成績を検討している。 人工肘関節の有限要素解析を行い、インプラントの安定性の評価に臨床応用を検討している。
② 関節リウマチ	関節リウマチにおける骨粗鬆症を検討し、抗 RANKL 抗体製剤を投与による変化を検討している。関節リウマチにおける骨粗鬆症の特徴を臨床調査している。
③ 骨粗鬆症	遺伝子組み換え PTH 製剤、SERM、ビスフォスホネート剤、カルシトニン製剤等を個々の症例にあった治療を行っている。 サルコペニアを中心として、骨粗鬆症とロコモティブシンドロームの関係性について臨調調査を行っている。
④ スポーツ障害	CTによるACL 骨孔の位置評価を行い再建人体の適正位置を確認している。新しいKT2000 や超音波機器を用いて関節靱帯のエラスティを測定して障害の診断・治療を行っている。新しいタイプの人工関節である Reverse 型人工肩関節手術を施設認定を受けたうえで試行している。
⑤ 脊椎外科	ハイブリッド手術室を利用し、経皮的な椎弓根スクリューの挿入を行っている。腰椎後弯症に対する PSO (pedicle subtraction osteotomy) による脊椎矯正術を行っている。
⑥ 上肢の外科	上肢の人工関節、人工関節を使わない関節形成術、内視鏡、皮弁形成や血管柄付き骨移植などのマイクロサージャリーを行っている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 6 月 11 日	第 29 回品川運動器カンファレンス	昭和大学病院
2	平成 27 年 7 月 23 日	第 30 回品川運動器カンファレンス	昭和大学病院
3	平成 27 年 9 月 24 日	第 31 回品川運動器カンファレンス	昭和大学病院
4	平成 27 年 10 月 29 日	第 32 回品川運動器カンファレンス	昭和大学病院
5	平成 28 年 1 月 28 日	第 33 回品川運動器カンファレンス	昭和大学病院

4. 今後の展望

- 新入医局員の希望の多様化にあわせ、それを満たすことができるように卒後教育・指導病院の整備を行っていく。
海外留学を含めた国際活動も広げていく。
- 新専門医制度の実施が間近に迫ってきており、準備を進めていく。
- 遠方施設での勤務も多くなってきたり、医師の安全を十分に確保していく。
- 教育、研究、医療を行うための医師育成に力を入れていく。

昭和大学病院 診療部門

17) リハビリテーション科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長: 水間 正澄

医局長: 依田 光正

(2) 医師数

教授	1 名	講師	0 名	助教(員外)	0 名
准教授	2 名	助教	1 名	大学院生	0 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本リハビリテーション医学会指導医	3 名
専門医	日本リハビリテーション医学会専門医	4 名
	日本整形外科学会専門医	1 名
	日本脳卒中学会専門医	1 名
認定医	日本リハビリテーション医学会認定医	3 名
	日本内科学会認定医	1 名
その他	日本摂食・嚥下リハ学会嚥下認定士	2 名
	健康スポーツ医	1 名
	心臓リハビリテーション指導士	1 名
	義肢装具適合判定医	4 名

(4) 主な診療実績

	診療実績	患者数
1	理学療法処方	1512
2	作業療法処方	573
3	摂食嚥下障害	333

	主な処置	患者数
1	ボツリヌス療法	20

2. 高度医療への取り組み

①摂食嚥下回診	平成 21 年度より医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、栄養師による摂食嚥下チームが発足し、主治医からの依頼により週一回の定期回診、およびカンファレンスを行なっている。それ以外にも適宜、口腔ケアや病棟指導、嚥下内視鏡や嚥下造影を行なうことにより、入院中摂食・嚥下障害患者に対する積極的なケアを行っている。
②痙縮に対するボツリヌス療法	平成 22 年 10 月から、上肢、下肢痙縮に対してもボツリヌス療法が保険適用となったのを受け、同年 12 月から外来にて主に脳卒中後遺症による痙縮患者に対しボツリヌス療法を行なっている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 9 月 10-11 日	第 21 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	京都国際会議場

4. 今後の展望

- 昭和大学病院は特定機能病院であり、多種多様な疾患が急性期からのリハが必要となる。リハスタッフの数・訓練室のスペースに制限があり、入院での急性期リハに特化せざるを得ない状況にある。現在は外来通院でのリハ訓練を希望する患者を断り、他院を紹介している。今後もこの傾向は強くなると考えられ、ER・ICU を初めとする各病棟での急性期リハに対応する体制作りが求められている。
- 東病院はリハ室やリハスタッフ、リハ医を置くことができず、リハ算定基準を満たしていない。そのため、ベッドサイドリハが行えず、離床が可能な患者に対してのみ病院バスにてリハ室まで搬送し、外来扱いで訓練を行っているのが現状である。東病院には脳梗塞をはじめ早期リハを必要とする急性疾患が少なくなく、これらの患者にとって大きな不利益となっている。
- 現在リハセンターには言語聴覚士が不在であり、失語症や嚥下障害患者のリハが行われていない。早期の補充が望まれる。

昭和大学病院 診療部門

18) 形成外科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長: 吉本 信也

医局長: 黒木 知明

病棟医長: 佐藤 伸弘

(2) 医師数

教授	1 名	講師	1 名	助教(員外)	1 名
准教授	2 名	助教	2 名	大学院生	13 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	臨床研修指導医	6 名
専門医	日本形成外科学会専門医	7 名
	日本美容外科学会・教育専門医	2 名
	皮膚腫瘍外科学会指導専門医	6 名
	創傷外科学会専門医	4 名
	日本頭蓋顎顔面外科学会専門医	1 名
	手外科専門医	2 名
	熱傷専門医	1 名

(4) 主な診療実績

1) 平成 27 年・形成外科手術件数

入院手術	全身麻酔	910 件	(合計 929 件)
	局所麻酔・その他*	19 件	
外来手術	全身麻酔	3 件	(合計 446 件)
	局所麻酔・その他*	443 件	

2) 平成27年・主な疾患における入院診療の実績内訳

	手術項目(入院)	患者数
1	唇裂・口蓋裂	412
2	腫瘍切除の組織欠損(一次再建)	170
3	悪性腫瘍	79
4	良性腫瘍	62
5	頭蓋・顎・顔面・先天異常	50
6	顔面骨骨折	45
7	瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	18
8	難治性潰瘍	13
9	美容外科	13
10	四肢先天異常	12

	主な検査・処置名(外来・入院問わず)	患者数
1	鼻咽腔ファイバー検査	38

2. 高度医療への取り組み

① 特殊な装置および技術を用いた術前鼻歯槽矯正(PNAM)法治療	当院では症例により最新治療である術前矯正治療(nasoalveolar molding 以下 NAM)を初回口唇鼻形成術前に行っている。NAM 治療は、術前の鼻軟骨形態改善や裂幅の縮小、および、初回手術時に顎裂部の歯肉骨膜形成(gingivoperiosteoplasty 以下 GPP)を施行する目的がある。術前に鼻軟骨形態を改善させることで、手術ではより正常に近い形態が作りやすくなり、GPP を行うことで、顎裂部に骨架橋が作られ、学童期の顎裂部骨移植が不要となることが期待される。
② 3D カメラによる形態評価の臨床応用	当科では、口唇や乳房の客観性のある形態評価を行うため、3D カメラを用いた形態の数値化を行い、解析している。これらの研究で得た知見は、口唇口蓋裂や乳房再建の術後成績の向上に役立っている。
③ 医療用 3D 実体モデルを用いた顎顔面領域手術	三次元実体模型は、模擬手術、テンプレート作成に非常に有用である。特に顎顔面領域の骨は複雑な形態をしており、術前に三次元的な骨の形態把握を実体モデルを用いて行うことで、医療者の顔面骨立体認識が容易になり、従来より精度の高い再建が可能になる。
④ 微小血管吻合技術	微小血管吻合技術により、頭頸部(頭蓋・顎顔面)、体幹部(胸・腹壁・外陰)、四肢(軟部組織欠損、指欠損)などの様々な組織の移植・修復を行っている。さらに近年、本技術を用いたリンパ管細静脈吻合によるリンパ浮腫治療も行っている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 10 月 31 日	クリニカルセミナー	シェラトン都ホテル東京
2	平成 28 年 2 月 8-23 日	マダガスカル共和国医療協力	アンチラベ市・クリニック アベマリア病院

4. 今後の展望

●唇裂口蓋裂

少子化の一方で、当形成外科での初診患者数は増加中である。これは、当科の診療実績が広く認知されてきたためと考える。また小児医療センターの設立により、診療科を越えた患児の術後管理が可能となり、よりリスクが軽減した事も大きい。今後も、小児科、耳鼻科、歯科、麻酔科など関連診療科の御協力の下、特徴ある治療を行うとともに、近隣医療機関に対する当科の治療方針、診療実績についての啓蒙、広報活動を更に進めていきたい。

また成人例においても、手術瘢痕や変形が目立つ患者さんは少なくない。今後は、美容唇裂等の名の下に、これらの患者さんにも、より審美性を高めた医療を提供したい。

●乳房再建

乳がん切除後の再建のニーズは、ますます増えている。今後も、乳がんの患者さんに乳房喪失感を軽減して頂くため、乳房再建に積極的に取り組んでいきたい。

乳房再建法には様々なものがあり、患者の要望も多岐にわたる。再建をのぞむ方々には、幅広い選択肢を提供し、よりきめの細かい対応ができるよう努力したい。

また現在、当科では、客観性のある乳房形態評価を試みており、3D カメラやエコーなどを用いた乳房形態の数値化を行い、解析結果を学会等で発信している。これらの研究で得た知見を、乳房再建の術後成績の向上に役立てたい。

●Microsurgery（顕微鏡手術）

微小血管吻合技術の確立により、様々な組織の移植・修復が可能となっている。特に、頭頸部（頭蓋・顎顔面）再建、体幹部（胸・腹壁・外陰）再建、四肢（軟部組織欠損、指欠損）再建などにおいて、本技術は幅広い可能性を提供するものである。本技術を用いて、今後、より多くの診療科との連携を深め、悪性腫瘍や外傷などの診療に貢献したい。

19) 美容外科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：大久保 文雄

(2) 医師数

教授	1 名	講師	1 名
准教授	1 名		

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	皮膚腫瘍外科指導専門医	2 名
専門医	形成外科専門医	3 名
	臨床皮膚外科専門医	1 名
	創傷外科専門医	1 名
	美容外科教育専門医	1 名
その他	海外留学生インストラクター	2 名

(4) 主な診療実績

	主な手術名	患者数
1	鼻形成術	62
2	顎形成術	31
3	耳介形成術	4
4	眼瞼形成術	20
5	瘢痕修正術	35
6	手指形成術	5
7	乳房形成・異物除去	86
8	難治性潰瘍	5
9	腋臭症	2

2. 高度医療への取り組み

①乳房の形態分類に関する研究	近年の乳腺腫瘍の増加に伴い、当院でも手術患者は急増している。乳房再建には左右対称性が求められるが、健側乳房は個人差が大きい。当科では 3 次元的に日本人女性の乳房を形態的に分類する試みを行っている。
②3 次元カメラの臨床応用	最新の携帯型 3 次元カメラを用いて顔面を撮影し、パソコン上で美容外科手術のシミュレーションを行い、より精度の高い美容外科手術を提供する。また、顔面計測することで術前後の評価が数値化できる。
③美容外科患者の精神状態に関する研究	美容外科を受診する患者の多くは精神疾患を有しているが、特に身体醜形障害やパーソナリティ障害を有する患者の扱いは困難を極める。これらの疾患を有する患者への対応に関する研究を進めている。

3. 今後の展望

- 学術データに基づいた治療など、大学病院ならではの美容外科治療をすすめる。
- 3 次元カメラを利用した先進的な美容医療技術を開発する。
- 唇裂口蓋裂治療に美容外科的要素を取り入れ、より高度な治療結果を目指す。
- 美容外科診療における精神疾患を有する患者の対応に関する研究をすすめる。

20) 産婦人科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長： 関沢明彦

医局長： 松岡 隆

病棟医長： 森岡 幹(婦人科)

仲村将光(産科)

(2) 医師数

教授	2 名	講師	4 名	助教(員外)	1 名
准教授	3 名	助教	17 名	大学院生	3 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医・指定医	日本産科婦人科学会指導医	16 名
	超音波指導医	2 名
	婦人科腫瘍指導医	2 名
	周産期(母体胎児)指導医	2 名
	母体保護法指定医	6 名
	臨床研修指導医	9 名
	臨床修練指導医	1 名
	内分泌代謝指導医	1 名
	臨床遺伝指導医	1 名
	がん治療指導医	1 名
	身体障害者福祉法第15条指定医	2 名
専門医	産婦人科専門医	24 名
	生殖医療専門医	2 名
	周産期(母体・胎児)専門医	6 名
	婦人科腫瘍専門医	4 名
	超音波専門医	5 名
	臨床遺伝専門医	5 名
	内分泌代謝専門医	2 名
	女性医学会女性ヘルスケア専門医	1 名
認定医	内視鏡外科学会技術認定医	2 名
	がん治療認定医	5 名
	日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医	3 名
	女性心身医学会認定	1 名

その他	da Vinci System Certificate (Console Surgeon)	1名
	女性のヘルスケアアドバイザー	1名
	新生児蘇生インストラクター	7名
	Fetal Medicine Foundation オペレーター資格	4名
	J-CIMELS インストラクター	6名
	日本哺乳動物卵子学会生殖補助医療胚培養士 遺伝カウンセラー	1名 3名

(4) 主な診療実績

	手術項目	患者数
1	分娩数	90
2	子宮頸癌(進行癌)	75
3	子宮体癌(進行癌)	40

	主な検査・処置名	患者数
1	脈管エコー	1560
2	APG	200
3	SPP	160

2. 高度医療への取り組み

① ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	ロボット手術は視野を拡大した微細な手術を、腹腔鏡と同様に低侵襲に実施可能である。子宮頸癌に対する広汎子宮全摘術など先進的な医療として取り組んでいる。
② 子宮脱に対する腹腔鏡下仙骨靱帯固定術	子宮脱の新しい手術方法である腹腔鏡下仙骨靱帯固定術を行っている。
③ 母体救命対応総合周産期センター	生命のリスクを伴う妊産婦を無条件で受け入れる周産期センターとして東京都から指定されている。産婦人科と救急医学科、小児科との連携で最大限の集中治療を行っている。
④ 遺伝性腫瘍外来	遺伝性乳がん・卵巣がん症候群に対応するための専門外来を設置している。乳腺外科との連携下で十分な遺伝カウンセリングと遺伝検査を実施するとともに、予防的卵巣卵管切除術を腹腔鏡手術として提供している。
⑤ 胎児精密超音波検査	周産期管理の高度分化を目的とした専門性の高い外来として妊娠初期・中期超音波検査を行っている。一般の産科外来を近隣の連携施設と協力して周産期管理を行っている。
⑥ 母体血胎児染色体検査	いわゆる新型出生全検査。専門的な遺伝カウンセリングと支援体制のもと、無侵襲の出生前染色体検査を提供している。
⑦ 腹腔鏡下子宮体癌手術	腹腔鏡下子宮体がん手術を行っている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 4 月 24 日	第 33 回 周産期管理研究会	昭和大学病院 C7 会議室
2	平成 27 年 5 月 21 日	第 42 回 品川地区産婦人科臨床研究会	昭和大学臨床講堂
3	平成 27 年 6 月 6 日	新生児蘇生法講習会	
4	平成 27 年 8 月 3 日	第 34 回 周産期管理研究会	昭和大学 500 号教室
5	平成 27 年 8 月 31 日	第 35 回 周産期管理研究会	昭和大学病院 C7 研修室
6	平成 27 年 9 月 7 日	第 4 回 昭和大学婦人科研究会	昭和大学臨床講堂
7	平成 27 年 10 月 19 日	第 36 回 周産期管理研究会	昭和大学病院 C7 研修室
8	平成 27 年 12 月 21 日	第 5 回 昭和大学婦人科研究会	昭和大学病院 C7 研修室
9	平成 28 年 1 月 9 日	新生児蘇生法講習会	昭和大学 6 階会議室
10	平成 28 年 1 月 18 日	第 37 回 周産期管理研究会	昭和大学臨床講堂
11	平成 28 年 3 月 3 日	第 5 回 東京都区南部周産期ネットワークグループ研修会	昭和大学 600 号室

4. 今後の展望

- 母体救命対応型総合周産期母子医療センターとしての機能を向上させるため、産科と救急医学科の協働により、母体救命についてのシミュレーション教育を全スタッフを対象に行うことで、母体救命が必要な患者が発生した場合の迅速な対応を可能にする。
- 遺伝カウンセリング体制の強化: 周産期領域の出生前診断や婦人科腫瘍領域での遺伝子検査などの体制を、認定遺伝カウンセラーを増員することで充実させる。
- 逆紹介の推進により地域連携を強化する: 外来患者数の増加に伴い外来の待ち時間が混雑している。病診連携の強化で、術後や治療後の患者を地域クリニックで管理するような体制を徹底することで、専門外来の質の向上を図っていく。
- 胎児治療の対象疾患の拡大: 超音波を用いた胎児治療などに取り組んでいる。対象疾患を増やすことなど治療の低侵襲化に積極的に取り組んでいく。
- 悪性腫瘍手術への腹腔鏡手術の導入・婦人科手術へのロボット手術の導入を推進する。

21) 小児科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長: 板橋 家頭夫

小児医療センター小児科病棟医長: 三川 武志

医局長: 神谷 太郎

総合周産期母子医療センター新生児部門 NICU 病棟医長:

宮沢 篤生

(2) 医師数

教授	2 名	講師	4 名	助教(員外)	4 名
准教授	0 名	助教	14 名	大学院生	3 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本周産期新生児医学会新生児暫定指導医	1名
	日本アレルギー学会指導医	1名
	日本内分泌学会指導医	1名
	日本肥満学会肥満症指導医	1名
	日本てんかん学会てんかん指導医	1名
専門医	日本小児科学会専門医	19名
	日本アレルギー学会専門医	4名
	日本周産期新生児医学会新生児専門医	4名
	日本小児神経学会専門医	2名
	日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医	2名
	日本腎臓学会専門医	1名
	日本内分泌学会専門医	1名
	日本動脈硬化学会専門医	1名
	日本肥満学会専門医	1名
	日本てんかん学会てんかん専門医	1名
認定医	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定医	1名
	日本小児栄養消化器肝臓学会認定医	1名
その他	国際認定ラクテーションコンサルタント	2名
	PALS インストラクター	2名
	NCPR インストラクター	3名
	カンガルーケアプロバイダー	1名
	Infection Control Doctor	2名

(4) 主な診療実績:

総合周産期母子医療センター新生児部門 NICU の診療実績に関しては中央診療部門に別掲

	入院診療の実績(小児医療センター小児科)	患者数
1	食物アレルギー・食物負荷試験	675
2	肺炎・気管支炎・細気管支炎・クループ症候群	165
3	気管支喘息	87
4	てんかん・熱性けいれん	64
5	川崎病	44
6	尿路感染症	35
7	急性胃腸炎・嘔吐症	28
8	RS ウイルス感染症	10
9	シェーンライン・ヘノッホ紫斑病・ネフローゼ症候群	9
10	急性脳症・急性脳炎	6

	主な検査・処置名(外来・入院問わず)	患者数
1	食物経口負荷試験	1500
2	心臓超音波検査	1000
3	スパイロメトリー	750
4	呼気中一酸化窒素測定	500
5	気道抵抗試験	150
6	腎臓超音波検査	140
7	アレルギー皮膚テスト	40
8	腎シンチグラフィー	30
9	成長障害精査	17
10	排尿時膀胱尿道造影検査	15

2. 高度医療への取り組み

①経口免疫療法	同治療は食物アレルギーを治癒に導く唯一の治療方法である。しかしリスクを伴うため、体系的に行っている施設は全国でも極めて少ない。また食物負荷試験に基づく、必要最小限の除去食を積極的に指導している。これは患者の QOL 向上はもちろん、マイルドに治癒へつなげる可能性を秘め、先駆的な食事療法として注目を集めている。
②脳形成障害の包括的診療	滑脳症や小頭症、Aicardi 症候群、裂脳症などの脳形成障害合併者に対し、包括的診療(画像診断から遺伝子解析、治療まで)を行っている。
③てんかん症候群の原因診断と遺伝相談	主に乳幼児期に発症する難治性のてんかん症候群に対し、原因遺伝子解析に基づいた遺伝相談を行ない、将来的には原因毎の薬剤選択による効果的で副作用の少ない治療法開発を行っている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 8 月 1-2 日	第 4 回日本 DOHad 研究会学術集会	昭和大学
2	平成 28 年 3 月 5 日	第 64 回日本小児神経学会関東地方会	きゅりあん

4. 今後の展望

- 食物アレルギーに関して、患者数の増加のなか、積極的な負荷試験の実施を行い適切な管理を行うとともに、経口免疫療法を安全に施行していく。

22) 泌尿器科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長: 小川 良雄

医局長: 森田 順

病棟医長: 押野見 和彦

(2) 医師数

教授	1 名	講師	1 名	助教(員外)	0 名
准教授	2 名	助教	2 名	大学院生	2 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本泌尿器科学会指導医	5 名
	日本腎臓学会指導医	1 名
	日本透析医学会指導医	1 名
	日本がん治療認定医機構暫定指導医	1 名
専門医	日本泌尿器科学会専門医	7 名
	日本透析学会専門医	1 名
	超音波学会専門医	1 名
	日本性機能学会専門医	1 名
認定医	日本がん治療認定医機構がん治療認定医	2 名
	泌尿器腹腔鏡技術認定医	1 名
	日本内視鏡外科学会腹腔鏡技術認定医	1 名

(4) 主な診療実績

	手術項目(入院)	患者数
1	経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-Bt)	121
2	内視鏡的尿路結石手術(TUL, f-TUL, PNL)	56
3	体外衝撃波結石破碎術(ESWL)	53
4	ロボット支援下根治的前立腺全摘除術(ダ・ヴィンチ)	37
5	経尿道的前立腺切除術(TUR-P)	25
6	腹腔鏡下腎摘除術	24
7	膀胱全摘除術	14
8	腎部分切除術(腹腔鏡、ミニマム創、開腹)	12
9	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	10
10	尿管ステント留置術、交換術	163

2. 高度医療への取り組み

①ロボット支援下根治的前立腺全摘除術(ダ・ヴィンチ)	2013 年 9 月の導入以来、現在前立腺全摘除術のほぼ全例に適用し、現在は一日縦に 2 件施行できる体制をとり症例数を増加させている。
②低侵襲、ミニマム創手術	小経腎細胞癌に対しては、腎機能温存を目的とした腎部分切除術を積極的に導入し、低侵襲であるミニマム創や腹腔鏡で施行している。
③体腔鏡下手術	副腎・腎疾患の全摘除術に対しては、現在ほぼ積極的に体腔鏡下手術で施行している。従来の開腹手術と比較し低侵襲性かつ入院期間の短縮が図れている。
④転移性腎癌に対する分子標的薬治療	切除不能腎細胞癌や腎癌腎摘出後の転移巣に対し、日本導入当初から積極的に施行しており、有数の症例数を誇る。
⑤軟性鏡による尿路結石症手術	硬性尿管鏡では破碎困難な尿管結石や腎結石に対し、積極的に軟性尿管鏡とレーザーの併用による手術を施行し、単回手術での結石消失率向上を実現している。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 7 月 12 日	第 5 回 Showa Urology Conference	昭和大学臨床講堂
2	平成 27 年 7 月 24 日	第 19 回泌尿器科癌勉強会	雅叙園
3	平成 28 年 2 月 4 日	第 7 回城南腎癌セミナー	雅叙園

4. 今後の展望

- 病診、病院連携を促進し近隣医療機関との連携を更に強化する。実際に外来各ブースに連携機関リストを配置し逆紹介症例を増加させたことで、更なる紹介患者や手術、入院件数の増加につながっている。
- ロボット支援下手術では、前立腺全摘除術に加え 28 年度より腎部分切除術が保険収載されたことにより、今後の導入実践を目指す。また、前立腺全摘除術では症例数が着実に増加してきており、今後の安全性、普遍性、術者の更なる育成に尽力していく。
- 当科のモットーである低侵襲治療の導入を癌、結石等の悪性良性疾患を問わず更に積極的に行い症例数を増やしていく。

昭和大学病院 診療部門

23) 耳鼻咽喉科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長: 小林 一女

医局長: 許 芳行

病棟医長: 渡邊 莊

(2) 医師数

教授	1 名	講師	3 名	助教(員外)	6 名
准教授	1 名	助教	8 名	大学院生	2 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本耳鼻咽喉科学会指導医	6 名
	日本頭頸部外科学会頭頸部癌指導医	1 名
専門医	日本耳鼻咽喉科学会専門医	10 名
	日本気管食道科学会専門医	3 名
認定医	日本がん治療学会がん治療認定医	4 名
その他	補聴器相談医	5 名
	身体障害者福祉法第15条指定医	10 名
	難病指定医	4 名
	騒音性難聴担当医	1 名

(4) 主な診療実績

	主な手術実績	患者数
1	内視鏡下鼻内副鼻腔手術	189
2	鼻中隔矯正術	112
3	口蓋扁桃摘出術	98
4	鼓室形成術	69
5	甲状腺腫瘍手術	52
6	喉頭微細手術	38
7	鼓膜チューブ留置術	35
8	頸部郭清術	33
9	耳下腺腫瘍切除術	30
10	気管切開術	26

	主な検査・処置項目	患者数
1	標準純音聴力検査	4959
2	喉頭ファイバースコープ	3935
3	平衡機能検査(各種)	1782
4	嗅裂部・鼻咽腔ファイバー	1695
5	基準、静脈性嗅覚検査	1191
6	鼻腔粘膜焼灼術	189
7	鼓膜切開術	122
8	咽頭、喉頭異物摘出術	90
9	扁桃周囲膿瘍切開術	34
10	電気味覚検査	10

2. 高度医療への取り組み

①耳科内視鏡併用手術	耳科手術は通常顕微鏡下で行われるが、その際に立体的な構造物の背部に残された病変の確認に難渋することがある。中耳真珠腫での後壁保存、アブミ骨手術、外耳道狭窄・閉鎖症、中耳奇形での手術症例などで有用となる。当科ではこれを導入し積極的に症例数を増加させていく。
②経鼻・経口腔操作の併用による腫瘍切除術	口蓋の良悪性腫瘍は、手術の際に切除ラインが各領域にまたがり、操作に難渋することがある。頭頸部腫瘍センターの立ち上げに伴い、耳鼻咽喉科・口腔外科医の合同手術実績が増えており、経鼻内視鏡と口腔アプローチを併用した合同手術なども行っている。腫瘍のマージン確保や治療成績の向上に寄与するだけでなく、術後の再建方法や補綴操作、患者 QOL 向上にも力を入れている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 6 月 20 日	昭和耳鼻咽喉科医会	昭和大学病院臨床講堂
2	平成 27 年 10 月 23 日	旗の台中耳疾患フォーラム	渋谷東急 REI ホテル
3	平成 28 年 1 月 16 日	昭和耳鼻咽喉科医会	昭和大学病院臨床講堂
4	平成 28 年 2 月 20 日	SCPT ご家族向け講演会	昭和大学病院臨床講堂
5	平成 28 年 2 月 26 日	旗の台副鼻腔疾患研究会	TKP 渋谷カンファレンスセンター

4. 今後の展望

- 特定機能病院、地域中核病院として、専門領域でのハイレベルな医療を提供していく。
- 周辺の診療所や病院など、他の医療機関と連携し、地域医療に貢献する。
- 耳鼻咽喉科、頭頸部腫瘍センターの連携を高度化し、難易度の高い症例への治療を積極的に行う。

昭和大学病院 診療部門

24) 放射線科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長： 後閑 武彦

医局長： 宗近 次朗

(2) 医師数

教授	1 名	講師	1 名	助教(員外)	2 名
准教授	2 名	助教	11 名	大学院生	3 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本医学放射線学会研修指導者	8 名
専門医	日本医学放射線学会放射線診断専門医	8 名
	日本血管造影・インターベンショナルラジオロジー学会専門医	2 名
	日本核医学会専門医	2 名
	日本超音波医学会専門医	1 名
認定医	日本乳癌学会認定医	1 名
	PET核医学認定医	3 名
	マンモグラフィ読影認定医師	5 名
	がん治療認定医	1 名
その他	日本がん治療認定医機構暫定教育医	2 名

(4) 主な診療実績

	主な検査・処置名 (外来・入院問わず)	患者数
1	CT検査	36317
2	MRI検査	22696
3	マンモグラフィ	4188
4	核医学検査	4088
5	IVR	735
6	上部消化管造影	370
7	排泄性尿路造影・逆行性尿路造影	190

2. 高度医療への取り組み

①診断部門	3TMRI、DualEnergy192 列 MDCT をはじめとする最新の画像診断装置を使用して、それぞれの疾患の診断に最適と思われる、スライス厚、撮影時間、造影剤注入時間及び最新のMRI撮像シーケンスを選択し、各種画像検査を施行し報告書を作成している。また必要に応じてワークステーションを用い三次元画像、フュージョン画像の作成も行っている。
②血管造影部門	フラットパネルを搭載した血管造影装置による C-ArmCBCT を利用して、血管造影、vascularIVR(血管拡張術や腫瘍や出血病変への経皮的塞栓術、腫瘍への動注化学療法、CVC ポート留置、ステント留置、CVC ポート留置、その他)、nonvascularIVR(画像誘導下の膿瘍ドレナージ、腫瘍生検、その他)を行っている。また、先進医療として、TIPS を行っている。
③核医学部門	ガンマカメラとマルチスライス CT が一体となった最新の SPECT-CT 装置を導入している。現在、負荷心筋シンチの吸収補正に使用している。また、高画質、高速撮像が可能な 3 検出器型の SPECT 装置を導入している。また、ドパミントランスポーターシンチを導入している。この検査は、パーキンソン症候群との鑑別が必要となる本態性振戦やレビー小体型認知症との鑑別が必要となるアルツハイマー型認知症の診断に役立つ。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 6 月 16 日	第 9 回昭和大学画像診断医療連携の会	目黒

4. 今後の展望

●画像診断部門

MRI 撮像シーケンスの更なる最適化が今後の課題と思われる。

●血管造影部門

外傷後の出血、産科出血などに対する塞栓術をはじめ、救急 IVR を引き続き24時間オンコール体制で対応していく。

●核医学部門

新しく開発されたソフトウェアを使用し、診断能の向上に努めたい。

昭和大学病院 診療部門

25) 放射線治療科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：加賀美 芳和

病棟医長：村上 幸三

(2) 医師数

教授	1 名	講師	0 名	助教(員外)	0 名
准教授	0 名	助教	6 名	大学院生	0 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	放射線科専門医研修指導医	2 名
専門医	放射線治療専門医	2 名
	放射線科専門医	3 名
認定医	がん治療認定	1 名
	医学物理士認定	1 名

(4) 主な診療実績

	外部照射	患者数
1	乳腺	235
2	肺、縦隔	82
3	泌尿器科腫瘍	68
4	食道	51
5	頭頸部	38
6	婦人科腫瘍	27
7	造血、リンパ系腫瘍	22
8	胃、小腸、大腸	22
9	肝胆膵	17
10	脳、脊髄	6
	その他の治療	患者数
1	ストロンチウム内容療法	4
2	甲状腺ヨード治療 (甲状腺機能亢進症)	5

	外部照射・特殊な治療	患者数
1	強度変調放射線治療(IMRT)	71
2	定位照射	25
3	全身照射	6
	小線源治療	患者数
1	子宮頸部	15
2	子宮体部	1
3	腔	1
4	乳腺	12
	小線源治療の方法	患者数
1	腔内照射	17(52)
2	組織内照射	12
3	SAVI(組織内照射に含まれる)	12

2. 高度医療への取り組み

①多施設共同臨床試験 JCOG への参加	JCOG 放射線治療グループの一員として多施設共同臨床試験に参加し新たな標準治療の開発に寄与している。
②乳房部分照射	SAVI applicator 使用による乳房温存手術後の乳房部分照射を乳腺外科と共同研究として開始した。平成 26 年より始まった SAVI applicator 使用による乳房部分照射は、わが国初めての試みである。その先駆者として症例を重ねており、現在 16 症例施行している。
③画像誘導小線源治療 (IGBT)	腔内照射専用の CT 装置を導入した。これにより子宮頸癌や SAVI などの腔内照射をより安全かつ正確に行うことができるようになった。

3. 今後の展望

- 強度変調放射線治療(IMRT)、VMAT、画像誘導放射線治療(IGRT)、定位放射線照射、画像誘導小線源治療などの高精度放射線治療を日常臨床に適用するなど、全ての患者に最適な放射線治療を提供する。
- 患者に最適な放射線治療を安定して提供するためには放射線治療医、放射線治療技師の育成、医学物理士の増員などが必要である。
- 放射線治療患者はさらに増加することが予想されている。当院でも放射線治療機器の増設など放射線治療を多くの患者に適用できる体制づくりは急務である。
- 藤が丘病院、横浜市北部病院、江東豊洲病院の放射線治療部門との連携を更に密にし、各病院スタッフの共通認識を深め、昭和大学各病院の放射線治療レベル向上を図る。共通データベースの構築を行い、WEB 会議・遠隔放射線治療計画の普及を目指す。

26) 麻酔科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：大嶽 浩司

医局長：中川 元文

病棟医長：岡安 理司

(2) 医師数

教授	1 名	講師	3 名	助教(員外)	1 名
准教授	2 名	助教	14 名	大学院生	0 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本麻酔科学会麻酔科指導医	5 名
専門医	日本麻酔科学会麻酔科専門医	5 名
	日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医	2 名
	日本集中治療医学会集中治療専門医	2 名
	日本呼吸療法医学会専門医	1 名
	日本心臓血管麻酔学会専門医	1 名
	日本歯科麻酔科学会歯科麻酔専門医	1 名
認定医	日本麻酔科学会麻酔科認定医	6 名
	日本老年麻酔学会認定医	1 名
	日本小児麻酔科学会認定医	1 名

(4) 主な診療実績

	手術麻酔	患者数
1	全身麻酔	4,333
2	全身麻酔＋硬膜外麻酔、伝達麻酔	990
3	脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔	287
4	硬膜外麻酔	4
5	脊髄くも膜下麻酔	293
6	伝達麻酔	8
7	その他	30

2. 高度医療への取り組み

①経カテーテル式大動脈弁置換術(TAVI)	大動脈弁狭窄症に対して、従来は心臓を止めて開胸での手術が必要であったため、侵襲がとて大きく、高齢者や全身状態の悪い患者には手術を行うことが難しかったが、本術式によって開胸をせずにカテーテルを用いて大動脈弁を置換できるようになった。実施には心臓カテーテル室の機能を備えた特別なハイブリッド手術室で行う。また麻酔管理にも rapid pacing と呼ばれる特殊な技法が必要で、安全な実施には高度の熟練度が必須である。
②超音波ガイド下末梢神経ブロック	超音波装置の高性能化、小型化により、細かな神経や血管などの構造物が可視化され、末梢神経ブロックの精度が格段に向上した。このため全身麻酔の施行が困難な合併症を持つ患者にも、安全に区域麻酔下での手術が施行できるようになった。また、周術期に抗凝固療法を行う症例が増加しており、硬膜外麻酔に代わり、末梢神経にカテーテルを留置した術後鎮痛法も行っている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 8 月 1 日	第1回旗が丘麻酔セミナー	セルリアンタワー東急ホテル
2	平成 27 年 11 月 7 日	第2回江東豊洲 PNB セミナー	昭和大学江東豊洲病院

4. 今後の展望

- 多職種からなるチームで行う術前外来の充実化を図って術前のリスク管理を徹底し、より安全な周術期医療を提供する。
- 術中管理の分業を推し進めたり、最新の生体情報モニターや Point of Care 医療機器を導入したりすることにより医師がより患者の全身管理に専念できる環境を作る。
- 看護師、薬剤師とともに術後疼痛管理チームを結成し、術後の痛みラウンドを実施して、より徹底した術後疼痛管理を通じて早期離床・早期回復に貢献する。

昭和大学病院 診療部門

27) 救急医学科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長: 三宅 康史

医局長: 吉池 昭一

病棟医長: 中村 俊介

(2) 医師数

教授	2 名	講師	1 名	助教(員外)	2 名
准教授	1 名	助教	7 名	大学院生	0 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本救急医学会指導医	3 名
専門医	日本救急医学会専門医	5 名
	日本脳神経外科専門医	3 名
	日本外傷外科学会専門医	1 名
	日本集中治療学会専門	1 名
認定医	日本麻酔科学会認定医	1 名
	日本リハビリテーション医学会臨床認定医	1 名
その他	JATEC インストラクター	5 名
	ACLS インストラクター	1 名
	ICLS インストラクター	1 名
	東京 DMAT インストラクター	1 名
	エマルゴトレインシステムシニアインストラクター	1 名
	ISLS ファシリテーター	1 名
	ICD ドクター	1 名

(4) 専門・認定の研修施設

日本救急医学会	指導医指定施設
日本救急医学会	救急科専門医指定施設
日本外傷学会	専門医研修施設
日本集中治療医学会	専門医研修施設

2. 高度医療への取り組み

①重症熱中症の臨床研究および基礎研究	重症熱中症について、臨床症例のデータ集積と解析による臨床研究、ラット熱中症モデルを用いた基礎研究など多角的な研究に取り組んでいる。また、日本救急医学会 熱中症に関する委員会が行う全国調査 (Heatstroke STUDY)に参加し、そのデータ分析によって重症熱中症の病態解析、新たな重症度分類、治療法の確立に努めている。さらに、厚生労働省の提供するレセプト情報を基に熱中症の疫学調査も行い、今年度はガイドラインの策定にも携わっている。
②心停止後症候群に対する脳低温療法	心肺停止症例に対する病院前の救命処置の発達に伴い、蘇生に成功した症例が増加している。心停止後症候群、特に全脳虚血に対して、NIRUS や aEEG など最新のモニタリング下に、ジェルパッド式体外冷却装置や CV カテーテルを使用する血管内冷却装置を用いて、安全かつ効果的な脳低温療法の実施に取り組んでいる。
③膜型人工肺を用いた重症呼吸不全の全身管理	呼吸器感染症などによる重症呼吸不全に対して、人工呼吸器を用いた管理のみで状態の改善が得られない場合、膜型人工肺を用いた全身管理による救命率の改善を目指している。
③急性一酸化炭素中毒に対する高気圧酸素療法	急性一酸化炭素中毒に対して、24 時間以内に 3 回の高気圧酸素療法を実施している。また、間歇型一酸化炭素中毒による遅発性中枢神経障害について、その臨床像を明らかにするためにデータの蓄積と分析を行い、高気圧酸素療法の治療効果の検証とともに治療法の確立を目指した取り組みを行っている。
④救命救急センターにおける早期リハビリテーション	重症症例の ICU 退室後の長期予後が不良であることや ICU 滞在期間におけるせん妄が予後に関係することが指摘され、その対策としてリハビリテーションの重要性が報告されている。当施設では、以前より早期リハビリテーションの実施に努めている。また、その効果について分析し、安全性の確立に向けた取り組みを進めている。
⑤救急・集中治療における終末期医療	積極的な急性期医療の実施により救命できたが、集中治療の継続なしに生命を維持することが不可能な終末期に陥ってしまう場合がある。延命措置継続の是非について、本人の意思を尊重しつつ、家族、医療チームで検討し、納得できる最終的な医療の提供が可能となるため、チーム医療の成熟、進化に向けた努力を継続している。

3. 社会・地域貢献活動

●社会・地域貢献活動

- ・日本 DMAT 出動件数:0 件(対象災害なし)
- ・東京 DMAT 出動件数:

	回数
現場活動	4 回
訓練参加	7 回

4. 今後の展望

- 首都圏にある大学病院の利点を活かした、地域の核となるハブ救急医療機関としての役割の実践。
- チーム医療体制の進化・発展：多診療科・多部門の多職種間における連携強化、チーム医療教育の実践による医療専門職種の職能の向上。
- 熱中症の臨床および基礎研究における中心的役割の継続。
- 一酸化炭素中毒の遅発性中枢神経障害による高次脳機能障害の研究、高気圧酸素療法の予防・治療の確立、社会復帰支援。
- 災害拠点病院としての災害対策整備。
- 救急初期診療における各種成人教育コースの開発とその開催。

昭和大学病院 診療部門

28) 臨床病理診断科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：瀧本 雅文

医局長：矢持 淑子

(2) 医師数

教授	3 名	講師	1 名	助教(員外)	0 名
准教授	3 名	助教	2 名	大学院生	8 名
歯科医(兼任)	6 名				

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	病理専門医研修指導医	4 名
専門医	病理専門医	5 名
	細胞診専門医	5 名
	臨床検査専門医	3 名
	(兼任・口腔病理専門医)	4 名
その他	臨床検査管理医	5 名
	死体解剖資格	6 名
	インфекションコントロールドクター	1 名

(4) 主な診療実績

	主な検査	件数
1	組織診診断件数 (【】迅速組織診診断件数)	13739 【808】
2	細胞診診断件数 (【】迅速細胞診診断件数)	12377 【76】
3	免疫染色件数	3473
4	Her2 テスト、ER、PgR 検査、EGFR 検査数	1973
5	病理解剖数	96
6	末梢血および骨髓血の血液像判読	50941
7	免疫電気泳動判読	364
8	麻疹・風疹ゲノムの検出(倫理委員会承認 1281 号)	7
9	分子疫学手法(パルスフィールド電気泳動、Multi Locus Sequence Typing)による医療行為関連感染原因菌の追跡	98
10	抗菌薬耐性遺伝子、毒素遺伝子、rRNA 領域 DNA の解析による 臨床分離菌の解析	656

2. 高度医療への取り組み

①抗体療法への関与	悪性リンパ腫、乳癌、胃癌、大腸癌、悪性中皮腫、神経内分泌腫瘍等において、抗体療法施行の是非に関し、免疫染色を活用することにより、抗体療法使用の可否を検索している。
②院内感染の検査技術	薬剤耐性遺伝子や毒素遺伝子解析とパルスフィールド電気泳動によるゲノム型解析および MLST 解析により、感染経路や拡大状況の解析を行う。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 11 月 18 日	第 2 回皮膚リンパ腫臨床・病理セミナー	野村カンファレンスプラザ 新宿

4. 今後の展望

- より迅速で、正確な病理診断を目指す。
- 臨床担当医と連携をとり、患者個々に関する病理診断および治療を含めたメディカルコンサルテーションを担う。
- 正確・迅速な臨床検査結果を病院情報システムと連結することにより、迅速に各診療科に報告する。
- 臨床のニーズに応え、新規臨床検査技術の開発と実用化を目指す。

昭和大学病院 診療部門

29) 歯科・口腔外科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：岡松 良昌

(2) 歯科医師数

助教	2 名
----	-----

(3) 指導医及び専門医・認定医

専門医	口腔外科専門医	1 名
-----	---------	-----

(4) 主な診療実績

	手術項目	患者数
1	周術期口腔機能管理術前	337
2	周術期口腔機能管理術後	253
3	周術期口腔機能管理Ⅲ	136
4	周術期口腔衛生処置術前	337
5	周術期口腔衛生処置術前	245
6	往診での口腔ケア	165
7	嚥下回診での口腔評価	1571
8	RST回診での口腔評価	252
9	マウスピース作成	30
10	埋伏智歯抜歯	15

	主な検査・処置名	患者数
1	周術期口腔機能管理計画	396
2	歯周基本検査	200

2. 高度医療への取り組み

①なし	退院後は歯科病院へ紹介
-----	-------------

3. 今後の展望

- 他診療科との医療連携の強化
- 各病院歯科の連携と口腔ケア業務の統一化
- 近隣の歯科医院との医療連携の強化

1) 総合周産期母子医療センター

1-1) 産科部門

1. 人員構成

診療科長	関沢 明彦 教授
大学院教授	下平 和久
准教授	2 名
講師	6 名
助教	24 名

2. 資格者一覧

指導医・指定医	日本産科婦人科学会指導医	16 名
	超音波指導医	2 名
	婦人科腫瘍指導医	2 名
	周産期(母体胎児)指導医	2 名
	母体保護法指定医	6 名
	臨床研修指導医	9 名
	臨床修練指導医	1 名
	内分泌代謝指導医	1 名
	臨床遺伝指導医	1 名
	がん治療指導医	1 名
	身体障害者福祉法第 15 条指定医	2 名
専門医	産婦人科専門医	24 名
	生殖医療専門医	2 名
	周産期(母体・胎児)専門医	6 名
	婦人科腫瘍専門医	4 名
	超音波専門医	5 名
	臨床遺伝専門医	5 名
	内分泌代謝専門医	2 名
	女性医学会女性ヘルスケア専門医	1 名
認定医	内視鏡外科学会技術認定医	2 名
	がん治療認定医	5 名
	日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医	3 名
	女性心身医学会認定	1 名

その他	da Vinci System Certificate (Console Surgeon)	1 名
	女性のヘルスケアアドバイザー	1 名
	新生児蘇生インストラクター	7 名
	Fetal Medicine Foundation オペレーター資格	4 名
	J-CIMELS インストラクター	6 名
	日本哺乳動物卵子学会生殖補助医療胚培養士 遺伝カウンセラー	1 名 3 名

3. 業務実績

分娩手術件数

分娩件数	1146
帝王切開件数	346
母体搬送依頼件数	81
母体救命母体搬送	11
胎児救命搬送	5

4. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 4 月 24 日	第 33 回 周産期管理研究会	昭和大学病院 C7 会議室
2	平成 27 年 5 月 21 日	第 42 回 品川地区産婦人科臨床研究会	昭和大学臨床講堂
3	平成 27 年 6 月 6 日	新生児蘇生法講習会	
4	平成 27 年 8 月 3 日	第 34 回 周産期管理研究会	昭和大学 500 号教室
5	平成 27 年 8 月 31 日	第 35 回 周産期管理研究会	昭和大学病院 C7 研修室
6	平成 27 年 9 月 7 日	第 4 回 昭和大学婦人科研究会	昭和大学臨床講堂
7	平成 27 年 10 月 19 日	第 36 回 周産期管理研究会	昭和大学病院 C7 研修室
8	平成 27 年 12 月 21 日	第 5 回 昭和大学婦人科研究会	昭和大学病院 C7 研修室
9	平成 28 年 1 月 9 日	新生児蘇生法講習会	昭和大学 6 階会議室
10	平成 28 年 1 月 18 日	第 37 回 周産期管理研究会	昭和大学臨床講堂
11	平成 28 年 3 月 3 日	第 5 回 東京都区南部周産期ネットワークグループ研修会	昭和大学 600 号室

5. 今後の展望

- 今後も地域の周産期医療を支えるべく、さらなる診療体制・連携を強化する。
- 救急救命との連携を推し進め、シミュレーション教育を常態化させる。

昭和大学病院 中央診療部門

1) 総合周産期母子医療センター

1-2) 新生児部門

1. 人員構成

センター長	板橋 家頭夫
病棟医長	宮沢 篤生
看護師長	根本 友重
看護師	50 名
心理士	1 名

2. 資格者一覧

日本小児科学会専門医	5 名
日本周産期新生児医学会暫定指導医	1 名
日本周産期新生児医学会新生児専門医	3 名
NCPR インストラクター	4 名
ラクテーションコンサルタント	2 名
Infection Control Doctor	1 名
発達心理士	1 名
新生児集中ケア治療看護師	1 名

3. 業務実績

①入院内訳

総入院数	236 名
内 院内出生	217 名
内 院外出生	19 名
死亡退院例	4 名

②出生体重別入院内訳

体重	内訳
1000g 未満	16 名
1000 - 1499g	20 名
1500 - 2499g	86 名
2500g 以上	114 名

③主な診療疾患(重複あり)

疾患名	患者数
低出生体重児	122 名
新生児呼吸窮迫症候群	26 名
新生児一過性多呼吸	19 名
気胸、エア・リーク	6 名
重症新生児仮死	16 名
胎便吸引症候群	12 名
唇顎口蓋裂	13 名
新生児遷延性肺高血圧症	9 名
染色体異常・先天奇形症候群	10 名
消化器外科疾患	6 名

④主な診療手技(重複あり)

診療手技	件数
人工呼吸管理(SIMV、HFO 等)	90 件
経鼻的陽圧換気(SiPAP 等)	53 件
肺サーファクタント治療	26 件
一酸化窒素吸入療法	7 件
動脈管クリッピング術	3 件
未熟児網膜症レーザー光凝固術	2 件
脳低温療法	1 件

4. 社会・地域貢献活動、研究業績

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 6 月 6 日	第 9 回新生児蘇生法(NCPR)講習会	昭和大学
2	平成 27 年 8 月 1-2 日	第 4 回日本 DOHad 研究会学術集会	昭和大学
3	平成 27 年 9 月 27 日	第 6 回 NICU 卒業生の会	昭和大学
4	平成 28 年 1 月 9 日	第 10 回新生児蘇生法(NCPR)講習会	昭和大学
5	平成 28 年 1 月 24 日	周産期医療の質と安全向上のためのワークシ ョップ	昭和大学
6	平成 28 年 3 月 12 日	天使のあしあとの会	昭和大学

5. 今後の展望

- 超低出生体重児の合併症として頻度の高い、子宮外発育遅延、脳室内出血、脳室周囲白質軟化症、慢性肺疾患、未熟児網膜症などの発症頻度を減少させることが急務であり、静脈栄養法、母乳強化法などに関しての新しい知見に関して、今後とも発信しつづける必要がある。

昭和大学病院 中央診療部門

2) 血液浄化センター

1. 人員構成

センター長(腎臓内科教授)	柴田 孝則
看護師長	増島 絵里子
医師	17 名
看護師	7 名
臨床工学技士	4 名

2. 資格一覧

透析専門医	6 名
透析指導医	3 名
透析看護認定看護師	1 名
透析療法指導看護師	1 名
透析技術認定士	8 名
CAPD 認定指導看護師	1 名
インターベンションエキスパートナース	1 名
アフエレス学会技術認定技士	1 名

3. 業務実績

①血液浄化件数

治療内容			件数
血液透析			354 症例/4313 件
ポータブル透析			246 件
CAPD(腹膜透析)			22 名/ 221 件
CHDF(持続的血液濾過透析)			87 症例/ 655 件
アフエレス	PE(血漿交換)		14 症例/ 85 件
	DFPP(二重膜濾過血漿分離交換法)		3 症例/ 8 件
	血漿吸着法	LDL 吸着	2 症例/ 17 件
		免疫吸着	1 症例/ 6 件
	直接血液吸着	エンドトキシン吸着	46 症例/ 88 件
	血球成分吸着	GCAP(顆粒球除去療法)	4 症例/ 35 件
		LCAP(白血球除去療法)	9 症例/ 73 件
	CART(腹水濾過濃縮再静注法)		5 症例/ 22 件
腎移植			7 件

②透析導入件数

血液透析導入	71 件
腹膜透析導入	5 件

③認定施設

日本透析医学会認定施設
日本アフェシス学会認定施設
透析療法従事職員研修・実習指定施設
東京都区部災害時透析医療ネットワーク正会員施設

④透析液清浄度

ET	感度以下	EU /ml	(2 回/月)
生菌	感度以下	CFU/ml	(2 回/月)

⑤院内活動

血液浄化セミナー	3 回/年
医療機器安全講習会(透析装置)	2 回/年

4. 社会・地域貢献活動、研究業績

	開催年月日	内容	開催地
1	平成 27 年 9 月 29 日	第 6 回 フレッシュマンセミナー	昭和大学
2	平成 28 年 3 月 24 日	第 7 回 腎透析勉強会	昭和大学

5. 今後の展望

- 多職種と連携し、チーム医療の強化をはかる
- 近隣の透析クリニックや関連病院との円滑な連携強化をはかる
- 腹膜透析治療での在宅療養支援の強化をはかる

3) 救命救急センター

1. 人員構成

センター長	三宅 康史
医師	救急医学科 13 名
看護師	60 名

2. 資格者一覧

DMAT 隊員	医師	7 名
	看護師	16 名
	合計	23 名
公益社団法人日本看護協会認定救急看護認定看護師		1 名

3. 業務実績

①3次救急来院患者数 合計 937 名

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
来院患者数	78 名	85 名	79 名	99 名	80 名	79 名	81 名	73 名	106 名	101 名	96 名	70 名	1027 名

②救命救急センター入院診療科別患者数

診療科	人数
救急	2857
呼内	43
リ内	16
脳外	16
小児	15
消内	14
腫内	10
神内	9
腎内	5
整形	5
循内	3
総内	3
消外	1

診療科	人数
児外	1
産婦	1
合計	2999

4. 社会・地域貢献活動、研究業績

日本 DMAT 出動件数:0 件(対象災害なし)

東京 DMAT 出動件数:

	回数
現場活動	4 回
訓練参加	7 回

5. 今後の展望

- 首都圏にある大学病院の利点を活かした、地域の核となるハブ救急医療機関としての役割の実践。
- チーム医療体制の進化・発展:多診療科・多部門の多職種間における連携強化、チーム医療教育の実践による医療専門職種の職能の向上。
- 熱中症の臨床および基礎研究における中心的役割の継続。
- 一酸化炭素中毒の遅発性中枢神経障害による高次脳機能障害の研究、高気圧酸素療法の予防・治療の確立、社会復帰支援。
- 災害拠点病院としての災害対策整備。
- 救急初期診療における各種成人教育コースの開発とその開催。

4) ICU

1. 人員構成

部長	大嶽 浩司
師長	只野 江理子
医師	麻酔科6名、消化器・一般外科1名、心臓血管外科・呼吸器外科1名、 脳神経外科2名、耳鼻科1名、形成外科1名、整形外科1名、泌尿器科1名
看護師	スタッフ看護師42名、ヘルパー2名
事務	クラーク1名

2. 資格者一覧

日本集中治療医学会集中治療専門医	1名
急性・重症患者看護専門看護師	1名
集中ケア認定看護師	1名
感染管理認定看護師	1名

3. 業務実績

①ICU入室患者(内訳)

	患者数
総数	3228名

②診療科別入室患者数

診療科	消化器・一般外科	脳神経外科	心臓血管外科	呼吸器外科	泌尿器科
患者数	840名	1231名	433名	116名	120名
診療科	整形外科	形成外科	腎臓内科	呼吸器・アレルギー内科	消化器内科
患者数	49名	28名	36名	98名	42名
診療科	産婦人科	耳鼻咽喉科	神経内科	小児科	小児外科
患者数	20名	45名	15名	50名	9名
診療科	救急医学科	その他の内科			
患者数	16名	80名			

4. 今後の展望

- 遠隔監視装置である eCareManager を導入し、院内の他の重症ベッドおよび他の附属病院の重症ベッドとの連携を高めることで、より質の良い医療を提供する。
- 多職種によるカンファレンスを充実化させ、チームアプローチによって集中治療医療のレベルの向上を図る。
- 栄養療法チーム(NST)や感染管理部門(ICT)との連携を深め、多職種によるチーム医療を推進していく。また、呼吸サポートチーム(RST)などの活動を通じ、院内で集中治療の専門性を必要とする他部署での活動も実施する。

5) CCU

1. 人員構成

科長(循環器内科教授・医師)	小林 洋一
濱崎 裕司 他医師 5 名	濱崎 裕司 他医師 5 名
病棟責任者(師長補佐・看護師)	三浦 まき 他看護師 37 名

2. 業務実績 (下記注意事項4点)

①入院患者・診断・剖検数

	平成 27 年度
CCU 入院患者数	519
循環器内科入院患者数	455
急性心筋梗塞	128
不安定狭心症	48
急性心不全	102
重症不整脈	40
肺動脈血栓塞栓症	28
死亡数	33
剖検数	14

②IABP・PCPS 件数

	平成 27 年度
IABP	33
PCPS	5

3. 今後の展望

●緊急患者の受け入れを行うためのベッドコントロール

緊急入院の受け入れには、ベッドコントロールが必要である。患者の治療目標を明確にして、チーム医療を展開していくことが重要である。また、院内発症の心疾患や重症者の受け入れも担うため受け入れ体制と機能が必要である。転入と転出は部署間で協働して行なうことによって 10 床という限られたベッドを有効活用し、さらなるベット使用率を高めることができる。

●緊急カテーテル検査・CCU カテーテル室検査人員の確保および医療機器の安全な取り扱い

CCU カテーテル室の放射線技師・臨床工学技士が検査に常勤しておらず人員の確保は引き続きの課題である。また、人工呼吸器や透析器械等多種にわたっているが、取り扱いや管理の大部分は看護師の管理となっている。レントゲン技師・CE が常勤していないことから、現状としては機器の取り扱い等の訓練と安全管理が重要な課題である。その中で、勉強会を行い、各専門人員と密に連携を行い、アクシデントの発生を減少することができる。

●他科入院について

2015 年度より CCU の運営会議が開始され、今後、事前に問題点を洗い出し、内容を充実させ、スムーズに循環器内科以外の科の入院を行なえるようになる。

昭和大学病院 中央診療部門

6) リハビリテーションセンター

1. 人員構成

センター長	水間 正澄
技士長補佐	及川 雄司
その他	専 従 医 師 2 名
	非 常 勤 医 師 1 名
	理 学 療 法 士 12 名
	作 業 療 法 士 6 名
	言 語 聴 覚 士 0 名
	技師(マッサージ師) 2 名
	技 術 補 助 員 0 名

* 言語聴覚士・技術補助員は欠員。専従看護師は配置されていない。

2. 資格者一覧

日本理学療法士協会 専門理学療法士 運動器理学療法専門分野	1 名
日本理学療法士協会 専門理学療法士 内部障害理学療法専門分野	1 名
日本理学療法士協会 認定理学療法士 内部障害理学療法専門分野 呼吸	1 名
日本理学療法士協会 認定理学療法士 内部障害理学療法専門分野 循環	1 名
日本心臓リハビリテーション学会 心臓リハビリテーション指導士	2 名
日本呼吸ケアリハビリテーション学会 呼吸ケア指導士	2 名
日本胸部外科学会・日本呼吸器学会・麻酔科学会 3 学会合同呼吸療法認定士	2 名
日本体育協会 公認アスレティックトレーナー	1 名

3. 業務実績

①平成 27 年度 疾患別リハビリテーション 患者人数

(単位:件数)

	脳血管	運動器	呼吸器	心大血管	がん
理学療法	10,864	20,879	5,203	7,688	2,802
作業療法	6,653	6,625	366		231
言語聴覚療法					
合 計	17,517	27,504	5,569	7,688	3,033

②平成 27 年度 疾患別リハビリテーション 診療単位数

(単位:単位数)

	脳血管	運動器	呼吸器	心大血管	がん
理学療法	12,636	23,272	5,762	14,994	2,891
作業療法	8,150	7,771	443		243
言語聴覚療法					
合 計	20,786	31,043	6,205	14,994	3,134

③平成 27 年度 部門別診療報酬点数 (単位: 点数)

理学療法	13,306,902
作業療法	3,564,651
言語聴覚療法	0
合 計	16,871,553

4. 社会・地域貢献活動

特になし

5. 今後の展望

- 理学療法部門は1名、作業療法部門は2名の新人が入職した。新人教育の充実をはかり、技術・知識を高める為、定期的な勉強会を開催した。また、継続して各種勉強会や講習会に積極的に参加を促していく。
- 取り扱い患者数及び単位数が増加している。スタッフ増員のため、一人の患者に対してより時間をかけてリハビリテーションが提供できるようになりつつある。需要に対してよりきめ細かい対応ができるように質の向上を目指し、更に潜在的な需要に対しても対応するように院内にアピールしていく。
- スタッフの増員・患者の増加に対して、センター内のスペースは不足している。センター内の配置の工夫やベッドサイドで行うリハビリテーションの拡大などで対応している。その中で患者取り違えの防止や安全・感染管理を徹底していくことが重要であり、安全・感染への対策、病棟スタッフとの連携を強化していく必要がある。
- 救命救急センターでのリハビリテーション早期介入が可能となり、他科の依頼もリハビリテーション科医師の指示により、必要があれば依頼当日に対応をするようになった。更なる早期リハビリテーションの充実を目指して行く。
- 各科・病棟との連携を円滑に行うため、積極的にカンファレンスを行うようにしてきたが、新たに血液内科病棟、呼吸器内科病棟との定期カンファレンスを開始した。今後も患者の状態・予後予測について早期より多職種の視点から包括的に検討し、患者・家族がよりよい選択をすることに貢献出来るよう努めていく。
- 東病院入院患者に対する病棟でのリハビリテーションは、施設基準を得ていない為施行することができないが、このことについて医療安全より相談があった。これに対し、毎週水曜日に対応患者がいる場合にリハビリテーション科医師、理学療法士、看護師でカンファレンスを行い対応することとなった。
- 理学療法部門では、将来の病棟専属制を視野にいれ引き続き整形・内科班で分担業務を行い、包括的な実現に向けて体制を整えていく。
- 作業療法部門では経験年数の少ないスタッフの教育を円滑に行うため、リハビリセンター班とベッドサイド班で業務を分担して業務の効率化をはかっていく。
- 言語聴覚療法部門はまだ欠員状態であるが、失語症・嚥下障害など需要は多い。作業療法部門・リハビリテーション科医師・看護師が可能な範囲で対応している。早急なスタッフ確保が必要である。
- 診療報酬改訂に伴い、がんリハビリテーションの運用が開始された。対応するため、医師・看護師・理学療法士・作業療法士で講習会に参加し、算定可能な体制を整えた。今後も増加するニーズに対応できるように、積極的に講習会に参加していく。
- 保健医療学部学生の実習をすべて学内で行う方針が示され、受け入れ人数も少しずつ増加している。保健医療学部スタッフ・臨床教員を中心として、より良い実習となるように具体的なシステムを構築していく。
- 患者業務・カンファレンス・実習指導などの中で、研究活動に利用できる時間は限られているが、スタッフの学会発表数は増加している。臨床でこそ行える研究があることを踏まえて、今後も積極的に研究・発表を行っていく。

昭和大学病院 中央診療部門

7) 中央手術室

1. 人員構成

手術部長	村上 雅彦
麻酔科科長	大嶽 浩司
麻酔科医師	21 名
手術室師長	武田 恵
手術室看護師スタッフ	50 名
中央材料室	リジョイスカンパニー

2. 業務実績

年間手術件数	7333 件
消化器一般外科	1088 件
心臓血管外科	168 件
呼吸器外科	157 件
乳腺外科	538 件
小児外科	183 件
形成外科	1383 件
整形外科	1171 件
脳神経外科	424 件
産婦人科	1090 件
耳鼻咽喉科	740 件
泌尿器科	366 件
救急医学科	2 件
眼科	3 件
血液内科	7 件
小児科	1 件
消化器内科	3 件
麻酔科	1 件

3. 今後の展望

- 平日の手術稼働時間を 8 時～20 時、土曜日の定時手術を実施していくための体制を見直し、対応できるようにする。
- 術前外来の曜日拡大と薬剤師との連携強化を図る。

昭和大学病院 中央診療部門

8) 緩和ケアセンター

1. 人員構成

センター長	樋口 比登実
医師	2 名
看護師	1 名
薬剤師	2 名

2. 資格者一覧

緩和医療学会暫定指導医	1 名
日本麻酔科学会指導医	1 名
日本麻酔科学会専門医	1 名
日本ペインクリニック学会専門医	1 名
精神保健指定医	1 名
日本精神神経学会専門医	1 名
日本精神神経学会指導医	1 名
がん性疼痛看護認定看護師	1 名
緩和薬物療法認定薬剤師	2 名

3. 業務実績

①新規依頼件数

依頼科	人 数
外科系	52
内科系	205
婦人科	17
泌尿器科	30
耳鼻咽喉科	8
その他	11
合計	323

②依頼内容(終了者 248 名について)

依頼内容	人数
症状マネジメント	222
精神的サポート	114
家族のサポート	72
療養先の相談	70

③原発部位

原発部位	人数	原発部位	人数
肺	66	卵巣	4
食道	21	前立腺	13
胃	15	腎臓	8
大腸	29	膀胱	9
肝	4	造血器	28
胆嚢・胆管	7	頸部	13
膵臓	27	その他	10
乳がん	38	非がん	8
子宮	17	不明	3

④院内セミナー開催(がん運営委員会・がん実務者委員会主催)

1	がん医療セミナー	「麻薬の取り扱いについて」: 緩和医療科: 樋口比登実 「抗がん剤投与にあたっての注意事項」: 腫瘍内科: 佐々木康綱	平成 27 年 5 月 18 日 臨床講堂
2	がん医療セミナー	「がん性疼痛のアセスメント」: 緩和ケアセンター 看護師 脇谷美由紀 「肺がん治療の最前線(ASCO の発表を踏まえて)」: 呼吸器・アレルギー内科: 楠本壮二郎	平成 27 年 7 月 27 日 中央棟7階研修室
3	がん医療セミナー	「精神症状のアセスメント」: 精神神経科 飛田真砂美 「婦人科腫瘍の薬物療法」: 産婦人科: 飯塚千祥	平成 27 年 9 月 28 日 中央棟7階研修室
4	がん医療セミナー	「緩和医療領域で使用される最近の薬剤」～当院緩和ケアチームの注意点～: 薬剤部 和田紀子 「尿路系腫瘍の最新治療」: 泌尿器科: 押野見和彦	平成 28 年 1 月 18 日 中央棟7階研修室
5	がん医療セミナー	「がんの療養を支える社会制度」: 総合相談センター MSW: 小川何奈 「骨転移の対応」: 整形外科: 白旗敏之	平成 28 年 3 月 28 日 中央棟7階研修室

⑤患者さんご家族のためのセミナー

1	緩和ケアセミナー	緩和ケアって早期? 末期? 緩和ケアセンター医師: 樋口比登実	平成 27 年 5 月 14 日 入院棟 17 階会議室
2	緩和ケアセミナー	痛みとの上手な付き合い方 薬剤部: 和田紀子	平成 27 年 7 月 9 日 入院棟 17 階会議室
3	緩和ケアセミナー	体調を整えて上手に療養するためのヒント 緩和ケアセンター看護師: 脇谷美由紀	平成 27 年 9 月 10 日 入院棟 17 階会議室
4	緩和ケアセミナー	うつ・不安との上手な付き合い方 精神科: 飛田真砂美	平成 27 年 11 月 12 日 入院棟 17 階会議室
5	緩和ケアセミナー	どこで療養することが希望ですか? 医療ソーシャルワーカー: 多田	平成 28 年 1 月 14 日 入院棟 17 階会議室
6	緩和ケアセミナー	これからの緩和ケア	平成 28 年 3 月 10 日 入院棟 17 階会議室

4. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容	開催地
1	平成 27 年 7 月 11 日-12 日	緩和ケア研修会	昭和大学
2	平成 27 年 11 月 16 日	第 10 回がん医療研究会	昭和大学病院臨床講堂
3	平成 28 年 2 月 20 日-21 日	緩和ケア研修会	昭和大学

5. 今後の展望

- 緩和ケア外来の充実:急増している化学療法中の患者さんに対する外来の充実、院外からの外来相談の窓口の拡大などを目指す。
よりきめ細かなケアを推進できるように、認定看護師・専門看護師による緩和ケア外来の設置を目指している。
また、チームの認定薬剤師によるオピオイドの服薬指導・薬剤管理なども積極的に行いたいと計画している。
- 緩和ケア教育:院内・外の医療スタッフ向けの研修会・セミナーなどを開催し、緩和医療の質の向上に努める。
- 病診・病病連携の充実:研究会・セミナーなどを通し、連携可能な医療者の輪を拡大し、地域連携をさらに強化・推進する。
- 患者さんおよび御家族に対する緩和ケアの普及・啓発:緩和医療が終末期医療であるという認識を持つ方々に対しても、診断早期からの緩和ケアの必要性などを、院内・外のセミナーなどによりわかりやすく説明できる場を提供する。診断期からの緩和ケアの認識を推進する。

昭和大学病院 中央診療部門

9) 褥瘡ケアセンター

1. 人員構成

褥瘡ケアセンター長	土岐 彰
褥瘡管理者	遠藤 由布
その他	褥瘡ケアチーム 12 名

2. 資格者一覧

日本褥瘡学会 褥瘡認定薬剤師	1 名
皮膚・排泄ケア認定看護師	2 名

3. 業務実績

①褥瘡回診件数

	定期回診	臨時回診
昭和大学病院	47	1
昭和大学附属東病院	35	0

②褥瘡回診新規依頼件数

	平成 27 年度
昭和大学病院	232
昭和大学附属東病院	35

③褥瘡回診延べ患者件数

	平成 27 年度
昭和大学病院	717
昭和大学附属東病院	84

4. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 9 月 13 日	褥瘡ケアセミナー	中央棟 7 階研修室

5. 今後の展望

- 褥瘡発生予防ケアの強化: 摩擦・ずれ防止ケア、スキンケアなどマニュアルに準じて褥瘡予防対策の周知を図る。
- 医療機器関連圧迫創予防の標準化とケアの強化
- 褥瘡(創傷)に関する標準的ケアの強化: 観察・アセスメント(原因分析)・処置方法の選択・ケア選択をマニュアルに準じて実施する。
- 病棟スタッフとの連携を強化し、褥瘡予防、早期改善を図る。
- 高齢化と重症患者の増加に伴い、褥瘡予防を必要とする患者も増加するため適した体圧分散ケア用品の整備を行う。

10) 腫瘍センター

1. 人員構成

センター長	佐々木 康綱
センター師長	塩沢 恵子
看護師	8 名
薬剤師	4 名(レジデント含む)

2. 資格者一覧

がん化学療法認定看護師	1 名
がん指導薬剤師	1 名

3. 業務実績

①診療科別化学療法件数

科 別	件 数
呼吸器内科	73
消化器内科	631
血液内科	954
婦人科	263
頭頸部腫瘍センター	8
泌尿器科	1,787
腫瘍内科	2,558
乳腺外科	4,307
脳神経外科	62
リウマチ内科	774
整形外科	88
合計	11,505

4. 社会・地域貢献活動、研究業績

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 11 月 16 日	第 10 回がん医療研究会	臨床講堂

5. 今後の展望

●抗悪性腫瘍薬の安全な投与の徹底

- がん化学療法マニュアルの見直しをおこなう。
- 抗悪性腫瘍薬処方医へ有害事象発現時に患者さんの診察を行うことと患者さんへの詳細な説明を徹底する。

●抗悪性腫瘍薬の医療従事者への影響の最小化

- 医療者の抗悪性腫瘍薬による被爆を予防するために、腫瘍センター内の汚染状況を調査する。
- 被曝防止のためのデバイスの導入を検討する。

●医科歯科連携事業の推進

- すべての抗悪性腫瘍薬投与予定の患者さんに対して、近隣の歯科医師に紹介し、口腔内の問題点をスクリーニングする。

11) ブレストセンター

1. 人員構成

センター長	中村 清吾
医師	17 名
看護師	5 名
その他	11 名

2. 資格者一覧

専門医	日本外科学会専門医	10 名
	日本乳癌学会専門医	8 名
認定医	日本乳癌学会認定医	2 名
	日本癌治療認定医機構癌治療認定医	5 名
その他	乳癌認定看護師	1 名
	がん薬物療法認定看護師	1 名

3. 業務実績

① 手術件数

	手術名	患者数
1	乳房切除術	236
	内 一期的乳房再建術	111
2	乳房温存術	167
	内 SAVI	7
3	マンモトーム生検	107

② 検査件数

	検査名	患者数
1	マンモグラフィ	3390
2	DEXA	286
3	SPP	160
4	乳房超音波	5216
5	針生検	481

③ 治療機器

マンモグラフィ	2 台
超 音 波	3 台
吸引式針生検	2 台
骨密度測定器	1 台

4. 社会・地域貢献活動、研究業績

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 7 月 2-4 日	第 23 回日本乳癌学会学術総会	東京国際フォーラム

5. 今後の展望

- 乳がん患者の増加:ブレストセンターの開設以来、患者数が増加し、その対応に追われた感が否めないで、今後チーム医療や設備の充実を図りたい。
- 日本において増加の一途をたどる乳癌患者の増加は日本の社会現象として重要な位置を占めている。当院のブレストセンターが日本における乳がん治療の中核を担うべく、努力する。

12) 輸血センター

1. 人員構成

輸血センター長	中牧 剛
臨床検査技師	6 名

2. 資格者一覧

輸血認定技師	2 名
--------	-----

3. 業務実績

①輸血実施状況

赤血球製剤	10905 単位
濃厚血小板製剤	30542 単位
新鮮凍結血漿製剤	5311 単位
自己血	863 単位

②検査件数

検査項目	平成 26 年度
血液型検査	19703 件
不規則性抗体検査	10060 件
間接・直接クームス検査	296 ・ 305 件
HTLV-1 検査	1125 件
血小板抗体検査	46 件
HLA 検査	99 件
LCT 検査	15 件
亜型検査	2 件
クリオ・パイログロブリン等検査	836 件
Ham・Sugar Water Test	2 件

③その他

1	細胞治療関連	末梢血幹細胞採取・保存・移植に協力	9 症例
		臍帯血移植	19 件
		骨髄移植	2 件
		骨髄濃縮	1 件
2	自己血関連	自己血採血・調整・保存・管理	621 件
		自己フィブリン糊の作製	294 件
3	日本臓器移植ネットワーク事業関連	献腎移植希望登録者の検査・血清回収・保存発注業務	36 件
4	安全な輸血への貢献	稀な血液型・Rh(D)陰性・不規則性抗体保持者へのカード発行・配布	毎週
5	輸血後感染症の早期発見・治療に貢献	輸血後感染症追跡調査のための文書発行・配布	毎週
6	輸血検査精度管理のための資料作成	東京都衛生検査所精度管理事業に協力	1 回/年
7	外部精度管理への参加	日本臨床衛生検査精度管理	1 回/年
		イムコア社主催精度管理	8 回/年
8	遡及調査関連	輸血出庫表の保存	5 年間
		輸血前検体の保存	2 年間
		輸血同意書の保存	5 年間

4. 今後の展望

- 輸血管理料Ⅰの加算を得るため、今後とも基準を満たすよう輸血療法委員会を通して適正使用の周知に努める。
- 平成27年度血液製剤廃棄率は0.57%と前年度より0.07%とわずかであるが改善することができた。引き続き適正使用、廃棄血削減へ目指す。
- 適正輸血の推進のために輸血センター専任医師の配置が望まれる。
- 安全な自己血採取のために、自己血採血室に専任医師・看護師の配置が望まれる。
- フローサイトメトリー導入に伴い、表面マーカーなどの外部委託している検査を院内検査に取り込んでいく。

昭和大学病院 中央診療部門

13) 超音波センター

1. 人員構成

センター長	後閑武彦(放射線科教授)
臨床検査技師	14 名
医師	内科・外科・小児科・耳鼻科・泌尿器科など各診療科

2. 資格者一覧

日本超音波医学会認定 超音波指導医	1 名
日本超音波医学会認定 超音波専門医	3 名
日本超音波医学会認定 超音波検査士(循環器)	4 名
日本超音波医学会認定 超音波検査士(消化器)	3 名
日本超音波医学会認定 超音波検査士(体表臓器)	2 名
日本臨床検査同学院認定 二級臨床検査士(循環生理学)	10 名
財団法人実務技能検定協会認定 サービス接遇実務検定 2 級	2 名

3. 業務実績

超音波検査件数(超音波センターにおける超音波検査総件数)

検査項目	平成 26 年度	平成 27 年度
腹部	4, 933	4, 857
腹部カラードプラ・造影	552	469
心臓(経食道を含む)	8, 280	8, 420
乳腺	5, 265	7, 040
体表	2, 341	2, 465
頸動脈	1, 263	1, 662
その他	590	521
総計	23, 224	25, 434

4. 今後の展望

- 院内に複数ある超音波診断装置を各科共通で効率良く利用出来るように配置し、超音波センターでの一元管理を目指す。
- バックアップ機をセンターで所有し、他部署での機器故障等に迅速対応出来る。
- 超音波検査依頼件数は年々増加し、要求される検査範囲也多岐に渡る。これらの要望に応えるために、超音波に関する教育と業務の効率化を進めていく。

昭和大学病院 中央診療部門

14) 内視鏡センター

1. 人員構成

センター長	山村 冬彦
看護師長	三浦 宮子
その他	10 名

2. 資格者一覧

日本消化器内視鏡学会 指導医	7 名
日本消化器内視鏡学会 専門医	8 名
消化器病学会 指導医	8 名
消化器病学会 専門医	4 名
日本消化管学会 専門医	1 名

3. 業務実績

①内視鏡件数

検査項目	平成27年度
上部内視鏡検査	5573 件
大腸内視鏡検査	3930 件
ESD	143 件
消化管止血術	191 件
気管支鏡	235 件

②内視鏡機器

GIF－H290Z
CF－HQ290Z
GIF－Q260J
PCF－Q260JI

4. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 7 月 10 日	第 2 回城南消化器内視鏡研究会	臨床講堂
2	平成 27 年 7 月 24 日	ハンズオンセミナー(上部編)	内視鏡センター
3	平成 27 年 11 月 20 日	ハンズオンセミナー(大腸編)	内視鏡センター

5. 今後の展望

- 早期食道癌、早期胃癌、早期大腸癌の内視鏡治療(ESD、EMR)をさらに充実させる。
- 近隣からの内視鏡検査・治療依頼の増加を目指して努力を継続する。
- 小腸カプセル内視鏡の件数増加に努める。
- 内視鏡センターの検査稼働の効率を高められるようにスタッフで検討を継続していく。

昭和大学病院 診療・患者支援部門

1) 看護部

1. 人員構成

看護部長	城所 扶美子
次長	荒川 千春、吉田 雅子、福地本 晴美、田口 美保、岡 紀子
師長	34 名
その他:係長	68 名

職種別

助産師		看護師		准看護師	保育士	看護補助者	
常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	常勤	職員	委託
44 名	0 名	908 名	12 名	0 名	5 名	12 名	79 名

2. 資格者一覧

①専門看護師

領 域	人数	領 域	人数	領 域	人数
がん看護	5 名	急性・重症患者看護	2 名	小児看護	1 名
母性看護	1 名	精神看護	1 名	感染症看護	1 名

②認定看護師

領 域	人数	領 域	人数	領 域	人数
がん性疼痛	3 名	感染管理	3 名	集中ケア	4 名
緩和ケア	1 名	糖尿病看護	2 名	小児救急看護	1 名
乳がん看護	2 名	摂食・嚥下障害看護	1 名	救急看護	2 名
がん化学療法看護	2 名	脳卒中リハビリテーション看護	1 名	新生児集中ケア	1 名
皮膚・排泄ケア	3 名	透析看護	1 名	慢性呼吸器疾患看護	1 名
手術看護	1 名				

③認定看護管理者

認定看護管理者	3 名
サードレベル修了者	4 名
セカンドレベル修了者	32 名
ファーストレベル修了者	79 名

3. 業務実績

①院内研修開催数

開催件数	申請者数	参加者数	参加率
88 件	3514 名	2967 名	84.0%

②認定看護管理者・私立大学病院研修受け入れ人数

病院名	領域	人数
埼玉看護協会 認定看護管理者教育課程	サードレベル看護管理臨地実習	1 名
順天堂大学医学部附属順天堂医院	私立大学病院人事交流	1 名
帝京大学医学部附属病院		1 名

③認定看護師実習受け入れ人数

学校名	学科・領域	人数
東京女子医科大学 看護学部 認定看護師教育センター	透析看護・手術看護	4 名
公益社団法人日本看護協会 看護研修学校	糖尿病看護	2 名
北里大学看護キャリア開発・研究センター	新生児集中ケア	2 名
目白大学メディカルスタッフ研修センター	脳卒中リハビリテーション看護	3 名
静岡県立静岡がんセンター	乳がん看護	2 名
千葉大学大学院看護学研究科 附属看護実践研究指導センター	乳がん看護	3 名

④専門看護師実習受け入れ人数

学校名	学科・領域	人数
聖マリア学院大学 大学院看護学研究科	母性看護	2 名
日本赤十字北海道看護大学 大学院看護学研究科	がん看護・精神看護	4 名
旭川医科大学	がん看護	2 名
慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科	がん看護	1 名

⑤基礎教育臨地実習受け入れ人数

学校	学部	実習名称	学年	人数
昭和大学	保健医療学部	基礎・成人・老年・母性・小児・応用・助産学	2～4 年	159 名
	医学部・薬学部・歯学部	体験学習	2～3 年	257 名
	医学部・薬学部・歯学部 保健医療学部	学部連携	医/歯/薬 5 年 保健医療 3～4 年	579 名
昭和大学医学部附属看護専門学校		基礎・分野別・総合	1～3 年	458 名
東京医療保健大学		基礎・小児	1、3～4 年	36 名
神奈川県・昭和大学保健医療学部共催 臨地実習指導体験実習		老年・成人・母性領域	—	10 名

⑥その他実習の受け入れ人数

病院名	実習名称	人数
東京都市大学 人間科学部児童学科	保育実習	1 名
青山学院女子短期大学 こども学科研究室	病棟保育	2 名

4. 社会・地域貢献活動

開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
平成 27 年 5 月 12 日	「看護の日」活動	昭和大学病院

5. 今後の展望

- 患者状態に応じた転倒転落予防対策の計画立案・実施を強化し、安全な日常生活を保障する
- 看護ケアの総合である褥瘡予防ケア基準を徹底し、安全な療養環境を提供する
- チームビルディングを強化し、職員が患者ケアに集中できる働きやすい職場にする
- 改定された重症度、医療・看護必要度の監査体制を強化し、評価の精度向上をはかる

2) 薬 局

1. 人員構成

薬局長代行・病院薬剤学教授	佐々木 忠徳
薬局 課長	田中 克巳
薬局 副主幹	白井 敦、小林 智子

2. 資格者一覧

医療薬学会学会認定薬剤師	2 名
日本病院薬剤師会生涯研修認定薬剤師	28 名
日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師	10 名
実務実習認定薬剤師	16 名
がん専門薬剤師	1 名

3. 業務実績

①調剤件数

外来処方せん	合計(日平均)	入院処方せん	合計(日平均)
枚数(枚)	206989(714)	枚数(枚)	134744(370)
件数(件)	595747(2055)	件数(件)	274700(753)
剤数(剤)	17641375(60833)	剤数(剤)	1818303(4982)
院外処方せん発行率	99.3%	注射せん	合計(日平均)
		枚数(枚)	130112(356)

②院内製剤調製件数

項目	合計(年)	項目	合計(年)
内用・外用液剤(本)	626	注射剤(本)	1171
消毒薬(本)	202	点眼剤(本)	19935
軟膏剤(個)	1005	その他無菌(本)	3793
坐剤(個)	30	乾性内用・外用散剤kg	7.1
		乾性錠剤(錠)	19403

③混合調製(中心静脈栄養、入院・外来化学療法)

中心静脈栄養	合計(年)	入院化学療法	合計(年)	外来化学療法	合計(年)
総本数(本)	6441	調製枚数(人)	5042	調製枚数(人)	9327
		調製本数(本)	8112	調製本数(本)	30683

④医薬品情報管理

質疑応答関連	問い合わせ件数(件)	1539
	経過・転帰件数(件)	31
医薬品安全情報報告件数(件)		20
市販直後調査件数(件)		13680
新規医薬品情報提供件数(件)		56

⑤薬務業務

	内服薬	外用薬	注射薬	合計
採用品目	846	304	789	1939
ジェネリック採用薬	235	75	178	488
院外採用薬	416	135	9	560

⑥薬剤管理指導

	算定件数			
実施患者数	430 点	380 点	325 点	退院時指導
9552 人	535 件	4445 件	6013 件	1849 件

⑦治験薬管理(品目数)

前年度繰越	新規受領	返却済み	次年度繰越
24	22	8	38

⑧学生・研修・見学

薬学部 学生	海外留 学生	見学者 件数	研修		
68 人	8 人 (2 大学)	8 件	医薬品医療機器 総合機構 3 名	小児薬物療法 認定薬剤師研修 14 名	日本医療薬学会がん 専門薬剤師研修 1 名

⑨専門・認定取得者

日本病院薬剤師会生涯研修認定	28	日本医療薬学会認定薬剤師	2
日本病院薬剤師会生涯研修履修認定	11	日本医療薬学会指導薬剤師	1
日本病院薬剤師会がん専門薬剤師	1	日本医療薬学会がん指導薬剤師	1
日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師	1	日本アンチドーピング機構スポーツファーマシスト	8
日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師	2	ICD 制度協議会 ICD	0
日本臨床救急医学会救急認定薬剤師	1	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	16
日本医療情報学会医療情報技師	2	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師	10

⑩認定施設

日本医療薬学会認定薬剤師制度による研修施設	日本医療薬学会
日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設	日本医療薬学会
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設	日本医療薬学会
日本薬剤師研修センターによる認定対象研修実施機関	日本薬剤師研修センター
薬局・病院実務研修における研修受入施設	日本薬剤師研修センター

4. 社会・地域貢献活動、研究業績

●社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	2016 年 1 月 14 日(木)	TeamPharmacistSeminar ～さらなるチーム医療の向上を目指して～	昭和大学病院 入院棟 地下 1 階臨床講堂
2	2016 年 3 月 4(金)	院外処方箋発行に関する情報交換会	昭和大学病院 中央棟 7 階研修室

5. 今後の展望

- 入院患者の退院時指導実施率向上をはかり、さらに外来にも着目した新たな薬剤師業務を展開する。そして係る薬剤師の更なる知識や技能の向上を目指す。
- 既存プロトコルの検証を行いつつ、他のプロトコル(例. がん化学療法)を作成する。今後、附属病院で共有できるプロトコルを作成し、一層、チーム医療を推進する。
- 薬学部実務実習において、学生を中心とする教育に薬剤師が主体的に関わり、現場教育を一層充実させる。

昭和大学病院 診療・患者支援部門

3) 放射線室

1. 人員構成

教授(統括部長兼務)	中澤 靖夫
講師(技師長兼務)	佐藤 久弥
その他	56 名

2. 資格者一覧

第 1 種放射線取扱主任者	10 名
マンモグラフィー検診精度管理中央委員会認定	6 名
放射線治療品質管理士認定	1 名
放射線治療専門放射線技師	1 名
医学物理士	2 名
放射線管理士	2 名
MDIC 認定技師	1 名
放射線機器管理士	3 名
Ai 認定診療放射線技師	2 名
日本核医学専門技師	2 名
BLS	7 名
ACLS	4 名
日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	6 名
医療情報技師	2 名
救急撮影認定技師	5 名
肺がん CT 検診認定技師	1 名
X 線 CT 認定技師	4 名
臨床実習指導教員	6 名
医療画像情報精度管理士	2 名

3. 業務実績

①大学病院検査件数

モダリティ	平成 26 年度	平成 27 年度	モダリティ	平成 26 年度	平成 27 年度
一般撮影	112,816	107,533	DR 検査	3,444	3,376
乳房撮影	3,455	4,434	CT 検査	38,349	36,317
ポータブル撮影	38,250	36,615	MRI 検査	23,052	22,696
心臓カテーテル	1,633	1,668	核医学検査	4,215	4,088
DSA 検査	1,238	1,289	放射線治療	15,589	16,094

* 単位(件数)

②研修会開催

1	統括放射線技術部新人研修会	平成 27 年 4 月 3 日	14 名(上原由理亜、小熊美央、広瀬莉菜、清水慶季、木村晴美、茂木志帆、香取薫、國府田純一、杉田大樹、野々垣遥、半田千波、樋口祥吾、濱田裕貴、藤田政来)
2	統括放射線技術部係長研修会	平成 27 年 9 月 12 日	4 名(守屋克之、高橋良昌、高橋寛治、藤澤信宏)
3	統括放射線技術部主査研修会	平成 27 年 7 月 11 日	5 名(今井康人、久保聡、築郁子、尾崎道雄、大澤三和)
4	統括放射線技術部主任補佐研修会	平成 27 年 6 月 20 日	3 名(橘高大介、菊原喜高、井口正啓、山本剛史)

4. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 5 月 ～平成 28 年 3 月	放射線教育への貢献 診療放射線技師臨床実習受け入れ ・北海道医薬専門学校 診療放射線学科 ・帝京大学医療技術学部 診療放射線学科 ・東洋公衆衛生学院 診療放射線学科 ・日本医療科学大学 診療放射線科学科 ・駒澤大学 医療健康科学部 診療放射線技術科学科 ・鹿児島医療技術専門学校 診療放射線技術科学科 ・Yuanpei 大学	学内
2	平成 27 年 4 月 26 日	放射線教育への貢献 第 14 回昭和大学診療放射線技師学術大会	学内

5. 今後の展望

- チーム医療の一員として、病棟・外来と協働し検査・治療がスムーズに行えるよう連携を図る。
- 各部門の放射線検査・治療における読影の補助業務の充実を図り、各診療科に情報提供できるように務める。
- 患者さんが安心して検査・治療を受けられるよう患者さんの要望に応じた放射線検査・治療説明を徹底する。

昭和大学病院 診療・患者支援部門

4) 臨床病理検査室

1. 人員構成

臨床病理検査室室長	瀧本雅文(臨床病理診断科教授)
統括部長 (技師長兼務)	望月照次(総括責任者:昭和大学病院附属東病院、輸血センター、 超音波センター、他系列病院臨床病理検査室を含む)
臨床検査技師	65 名

2. 資格者一覧

日本臨床検査同学院 1 級臨床検査士(血清学)	1 名
日本臨床検査同学院 1 級臨床検査士(微生物学)	1 名
日本検査血液学会認定血液検査技師	2 名
日本臨床衛生検査技師会認定一般検査技師	1 名
日本臨床微生物学会認定臨床微生物検査技師	1 名
日本臨床微生物学会感染制御認定臨床微生物検査技師	1 名
日本心電学会認定心電検査技師	1 名
日本臨床神経生理学会認定技師(脳波分野)	1 名
日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム(NST)専門療法士	1 名

3. 業務実績

① 臨床病理検査室部門別検査件数

検査項目	平成 26 年度	平成 27 年度
生化学・血清 *	5,468,968	5,409,601
血液 *	889,656	855,646
尿一般 *	144,174	138,514
細菌	98,181	99,421
生理	73,810	74,016
病理 * *	35,257	34,935
(解剖)	76	96
外注	249,215	243,888
合計	6,959,337	6,856,117

*:緊急検査項目を含む * *:迅速診断、電子顕微鏡、免疫染色含む

② 緊急検査件数

検査項目	平成 26 年度	平成 27 年度
生化学・血清	33,593,591	3,659,507
血液	527,778	511,630
尿一般	38,738	38,052
病理	762	884
合計	4,160,869	4,210,073

③ 東病院検査件数

検査項目	平成 26 年度	平成 27 年度
合計	5,351	5,042

④ 採血件数

検査項目	平成 26 年度	平成 27 年度
昭和大学病院	144,554	145,245
昭和大学病院附属東病院	26,097	25,035

⑤ 研修会開催

1	統括臨床病理検査部研修会(主査以上の有資格者)	平成 27 年 6 月 6 日～7 日	65 名
2	統括臨床病理検査部研修会(一般技術員)	平成 27 年 11 月 7 日～8 日	99 名

4. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 7 月 18 日	第 34 回日本臨床細胞学会東京都支部総会・学術集会	昭和大学

5. 今後の展望

- 検体検査: 業務委託化が進められているが、検査の迅速化や精度保証が担保されるような運用を協議し実行していく。
- 細菌検査: 平成 28 年度より完全業務委託化され、今後はほとんどの項目が外注化されるが、業務委託者との連携を強化し、従来と同様の検査の質を保ち、院内感染対策に貢献する。
- 病理検査: 検査室内では病理医とのさらなる連携強化により病理診断の精度を確保する。
検査室外では NST 等他部署との連携強化を図る。
- 生理検査: 1) 電子カルテの導入、東病院との統合がスムーズに実行されるよう準備を進める。
2) 検査枠を見直し、効率のよい検査体制を整える。
- 採血室: 他の検査室との連携を強化し、患者の採血待ち時間短縮を図る。
- 東病院検査室: 大学病院との統合準備を行い、新たな検査の習得を進める。
- 医療安全管理: 医療安全管理部門と検査室との連携をとり、検査に対する安全性を高める。

5) 栄養科

1. 人員構成

科長補佐	菅野 丈夫
管理栄養士	5 名
調理補助	1 名

2. 資格者一覧

日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士	2 名
日本病態栄養学会 病態栄養認定管理栄養士	2 名
日本病態栄養学会 NST コーディネーター	1 名
日本病態栄養学会 腎臓病病態栄養専門管理栄養士	1 名
日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士	1 名

3. 業務実績

①給食数

一般常食	195,195 食(35.9%)
一般軟菜	55,066 食(10.1%)
流動食	4,531 食(0.8%)
学童小児食	14,099 食(2.6%)
調乳	28,527 食(5.2%)
非加算治療食	67,415 食(12.4%)
加算治療食	179,192 食(32.9%)
合計	544,025 食(100%)

②栄養指導件数(個人指導)

腎臓病	1,165 件(44.9%)	脾臓病	37 件(1.4%)
糖尿病	605 件(23.3%)	高血圧	30 件(1.2%)
心臓病	382 件(14.7%)	肝臓病	25 件(1.0%)
食物アレルギー	147 件(5.7%)	糖尿病透析予防指導	19 件(0.7%)
脂質異常症	46 件(1.8%)	その他	55 件(2.1%)
消化管疾患	42 件(1.6%)		
肥満	39 件(1.5%)	合計	2,592 件(100%)

栄養指導件数(集団指導)

糖尿病教室	50 件
-------	------

4. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 9 月 27 日	昭和大学病院 NICU 卒業生の会(パンダの会) 「離乳食について」	昭和大学 50 周年記念会館

5. 今後の展望

●患者の栄養管理の充実を図る。

そのために、

- 1.NST や嚥下回診などのチーム医療に積極的に参加するとともに、その充実に貢献する。
- 2.食事内容を改善し患者満足度を向上させるとともに、低栄養・がん・咀嚼嚥下障害などを有する患者の食事の充実を図る。
- 3.栄養管理、食事療法に関する研究活動を活性化させる。

6) 臨床工学室

1. 人員構成

室長 心臓血管外科(教授)	青木 淳
課長	大石 竜
その他	16 名

2. 資格者一覧

透析技術認定士	8 名
3学会合同呼吸療法認定士	7 名
体外循環認定士	4 名
日本アフェシス学会認定技士	3 名
急性血液浄化認定指導者	1 名
第一種 ME 技術実力検定	1 名
臨床 ME 専門認定士	1 名
臨床高気圧酸素治療装置操作技士	1 名

3. 業務実績

①中央機器管理件数

機器管理内容	件数
人工呼吸器（大人）	4703 件
人工呼吸器（小児）	3216 件
機器管理（定期点検）	997 件
機器管理（CE 点検）	1162 件
HBO	104 件
IABP	42 件

②心臓カテーテル検査件数

機器管理内容	件数
IVR（大人）	1108 件
IVR（小児）	3 件
不整脈	148 件
植込み・交換	41 件

③血液浄化治療件数

治療内容			件数
血液透析			354 症例/4313 件
ポータブル透析			246 件
CHDF(持続的血液濾過透析)			87 症例/655 件
アフエリス	PE(血漿交換)		14 症例/85 件
	DFPP(二重膜濾過血漿分離交換法)		3 症例/8 件
	血漿吸着法	LDL 吸着	2 症例/17 件
		免疫吸着	1 症例/6 件
	直接血液吸着	エンドトキシン吸着	46 症例/88 件
	血球成分吸着	GCAP(顆粒球除去療法)	4 症例/35 件
		LCAP(白血球除去療法)	9 症例/73 件
	CART(腹水濾過濃縮再静注法)		5 症例/22 件

④手術件数

術式	件数
人工心肺症例(脳分離含む)	58 件
非人工心肺症例	4 件
PCPS	6 件
TAVI	6 件
術中自己血回収	112 件

⑤院内活動

医療機器安全講習会
人工呼吸器実践講習会

4. 社会・地域貢献活動、研究業績

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 9 月 29 日	第6回フレッシュマンセミナー	昭和大学病院
2	平成 27 年 3 月 24 日	第7回腎透析勉強会	昭和大学病院

5. 今後の展望

- 医療機器の購入から破棄までのライフサイクル全体における効率的かつ経済的なマネジメントを行う。
- 医療機器に関する情報収集を積極的に行い、機器情報発信基地としての機能を有する臨床工学室を目指す。
- 医療機器メーカーと医療現場スタッフの声を参考に、よりよい安全な医療機器の提供に貢献する。

昭和大学病院 診療運営部門

1) 臨床試験支援センター

1. 人員構成

センター長(医師)	小林 真一
副センター長(薬剤師)	白井 敦
その他	事務2名、薬剤師1名、CRC7名

2. 資格者一覧

日本臨床薬理学会認定医・専門医・指導医	1名
日本臨床薬理学会認定CRC	4名
日本臨床試験学会認定GCPエキスパート	1名
日本臨床試験認定GCPパスポート	1名
日本癌治療学会認定CRC	1名
日本医薬品情報学会認定医薬品情報専門薬剤師	1名
認定実務実習指導薬剤師	1名
漢方薬・生薬認定薬剤師	1名
緊急検査士	1名

3. 業務実績

①臨床試験受託件数

カテゴリー	平成27年度
臨床試験(治験)	31件
製造販売後調査	45件
臨床研究	18件

②治験実績件数

カテゴリー	平成27年度
終了報告	9件
実績例数/契約例数(例)	133/149例
実施率(%)	89.3%

4. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成28年3月10日	第3回昭和大学治験セミナー	昭和大学病院臨床講堂

5. 今後の展望

- 昭和大学附属 8 病院における臨床試験業務のさらなる標準化と効率化を進める。
- 多様化する臨床試験に伴い、大学病院に求められる高度な臨床試験を実施すべく、8 病院の連携を強化する。
- 臨床試験支援に必要な人材の確保と育成を進める。
- 第 I 相試験から早期第 II 相試験(POC 試験)までのシームレスな実施

昭和大学病院 診療運営部門

2) 診療録管理室

1. 人員構成

室長	板橋 家頭夫
診療情報管理士	7 名
その他(委託)	46 名

2. 資格者一覧

診療情報管理士	7 名(うち診療情報管理士指導者 1 名)
医療情報技師	1 名

3. 業務実績

① 診療録 閲覧・貸出件数

種別	閲覧・貸出冊数	利用者数
入院診療録	23,392 冊	4,474 名
外来診療録	70,250 冊	7,583 名

② 診療情報提供(カルテ開示)件数

2015 年度	55 件
---------	------

③ 院内がん登録 登録症例数

2014 年症例	2,608 件
----------	---------

4. 今後の展望

- 電子カルテ導入に向けて、現行の紙媒体の診療記録を整備し、スムーズな移行が実現できるよう準備をする。
- チーム医療の一員として診療記録の記載の充実を図る取り組みを行っていく。

3) 医療情報室

1. 人員構成

室長	板橋 家頭夫
課長	井上 宏政
その他	3 名

2. 業務実績

- ・病院情報システム 医事会計システムの更新
- ・病院情報システム 病床数変更に伴うベットマップの変更
- ・病院情報システム 食事せん一括出力機能の追加
- ・電子カルテ用ネットワーク構築

3. 今後の展望

- 今年度は前倒しで、電子カルテ用ネットワーク工事を完了させた。電子カルテ導入時期については、東病院統合時期との係わりが大きく、東病院は電子カルテに更新しない方針であったが、両病院が別システムによる運用の煩雑さが膨大となることや、二重でのシステム稼働費用よりも、東病院を含む電子カルテ更新費用が安価と判断した。さらに電子カルテ導入と東病院統合を同時期に行う案が、職員への負担が少なく費用も安価であることから、東病院統合と同時に電子カルテを導入することが決定した。電子カルテ導入準備にあたり、東病院統合との係わりを視野に入れながら、事業計画の立案や院内準備体制、組織の立ち上げを進めていく必要がある。

昭和大学病院 診療運営部門

4) 管理第一課・管理第二課

1. 人員構成

事務部長	丸地 伸
管理第一課長	佐藤 強
管理第二課長	浅川 悦久
その他	31 名

2. 業務実績（下記注意事項4点）

① ワークショップ開催

内 容	開催年月日
統括部長会ワークショップ(統括部長会主催・多職種) 「病院間異動の意義について」	平成 27 年 6 月 5 日・6 日
病院ワークショップ(病院主催・多職種) 「誰からも信頼される病院にするためには」	平成 27 年 9 月 4 日・5 日
管理課ワークショップ(管理課主催・事務職) 「会議業務の効率化」	平成 27 年 10 月 29 日
管理課・医事課合同ワークショップ(管理課医事課主催・事務職) 「管理課・医事課の情報共有について」	平成 27 年 11 月 12 日

② 院外の勉強会・研修会等

内 容	開催年月日
第 13 回日本臨床医学リスクマネジメント学会学術集会	平成 27 年 5 月 15 日・16 日
第 17 回日本医療マネジメント学会学術総会	平成 27 年 6 月 12 日・13 日
第 65 回日本病院学会	平成 27 年 6 月 18 日・19 日
第 117 回病院庶務研究会	平成 27 年 7 月 24 日
第 118 回病院庶務研究会	平成 27 年 10 月 8 日・9 日
第 112 回用度業務研究会	平成 27 年 10 月 22 日・23 日
平成 27 年度 第 2 回用度業務研究会第 1 分科会	平成 27 年 11 月 20 日
平成 27 年度 第 2 回用度業務研究会第 2 分科会	平成 27 年 11 月 27 日
平成 27 年度 第 2 回用度業務研究会第 3 分科会	平成 27 年 11 月 27 日
第 113 回用度業務研究会	平成 28 年 2 月 5 日
第 119 回病院庶務研究会	平成 28 年 2 月 19 日
全国ボランティアコーディネーター研究会	平成 28 年 3 月 5 日・6 日

3. 社会・地域貢献活動、研究業績

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 11 月 20 日	医療従事者のための特別講演 「医療現場におけるワークライフバランスを考える～小児科医の立場から～」	昭和大学病院臨床講堂
2	平成 27 年 4 月 17 日	平成 27 年度 第 1 回 研究倫理講習会 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針の制定について(DVD 上映会)」	昭和大学病院臨床講堂
3	平成 27 年 5 月 29 日	平成 27 年度 第 2 回 研究倫理講習会 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針の制定について(DVD 上映会)」	昭和大学病院臨床講堂
4	平成 28 年 2 月 4 日	平成 27 年度 第 3 回 研究倫理講習会 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針の要点について」 「臨床研究のモニタリング及び監査の実施と手順書の説明」 「昭和大学 8 病院と臨床薬理研究所における治験への取り組みについて」	昭和大学病院臨床講堂

4. 今後の展望

- 健全な経営のため、適切な予算管理を行い、増収の策定および経費の縮減に努めていく。
- 総合職としてのスキル向上とキャリアパスの充実に向け、事務職としての医療を提供する現場の職員に対し、管理・サポートする方略を検討し、業務等の効率化の一助になる取り組みを実行する。
- 上司・同僚・部下による相互の検証実施や自主点検を徹底し、引き続き業務体制の整理(業務の見直し・改善)による超過勤務時間削減に努めていく。
- 5S 活動を積極的に進め、職場環境の整備に努めていく。

昭和大学病院 診療運営部門

5) 医事第一課・医事第二課

1. 人員構成

事務部長	丸地 伸
医事第一課長・医事第二課長	小川 秀樹
職員数	109 名(内 委託職員 36 名)

2. 業務実績

① 保険診療講習会

開催年月日	内 容	開催地
平成 27 年 12 月 7 日	DPCについて 講師:松平 真悟 (昭和大学横浜市北部病院 消化器センター助教)	昭和大学上條講堂
平成 28 年 2 月 15 日	特定機能病院における保険診療の在り方 講師:内藤 智雄 (厚生労働省 関東信越厚生局東京事務所 指導医療官)	昭和大学上條講堂

② 院外の勉強会・研修会等

内 容	開催年月日
医事業務研修会(精度の高いレセプトの作成～ロスのないDPCコーディング)	平成 27 年 4 月 17 日
日本医療マネジメント学会学術総会	平成 27 年 6 月 12、13 日
私立医科大学医療事務研究会	平成 27 年 6 月 17～19 日 平成 27 年 10 月 14～16 日
労災診療費算定事務研修会	平成 26 年 10 月 2 日
医事業務研修会(キカイ化査定におけるレセプト請求)	平成 27 年 10 月 16 日
自賠責保険研修会	平成 27 年 11 月 5 日

③ ワークショップ開催

内 容	開催年月日
保険証の登録誤りを減らすためには	平成 27 年 10 月 21 日
管理課・医事課の情報共有について	平成 27 年 11 月 12 日

3. 社会・地域貢献活動、研究業績

●社会・地域貢献活動

開催年月日	内 容	開催地
平成 27 年 10 月 31 日	昭和大学クリニカルセミナー	シェラトン都ホテル東京

●研究業績

学会等発表

発表者氏名	題 名	学会名、開催地	発表年月日
齋藤 朋子	弁護士による債権回収業務 (未収金回収)とその効果について	第 17 回日本医療マネジメント 学会学術総会	平成 27 年 6 月 12、13 日

4. 今後の展望

- 各担当係の課題を明確にし、統計の分析・対策・改善を実施し、医療収入予算の達成に努める。
- 診療報酬請求知識習得のための研修会を実施し、診療報酬請求の質的向上に努める。
- 課内勉強会の充実及び、附属病院間勉強会・院外勉強会へ積極的に参加し、高い専門知識を習得して医事専門性を発揮する
- 目標管理体制を通じ、業務の洗い出しや定期的な進捗状況の確認を行い、業務効率化・業務内容の質向上を実践する。

昭和大学病院 医療安全管理部門

1) 医療安全管理部門

1. 理念・目標

1. 重大な事故を予防するため、患者・医療者が協働し、確認行動を徹底します。
2. 安全管理に対する組織的取り組みを強化するため、報告の徹底を図り、早期の対策を講じます。

2. 人員構成

医療安全管理部門長(副院長・消化器・一般外科教授)	村上 雅彦
副部門長(事務部長)	丸地 伸
医療安全管理者(看護師長)	石川 恵美子
医療安全管理者(看護係長)	服部 夕子
医療機器安全管理責任者(臨床工学室課長)	大石 竜
医薬品安全管理責任者(薬剤師)	柏原 由佳
循環器内科医師	浅野 拓
消化器・一般外科医師	青木 武士
消化器内科医師	野本 朋宏
救急医学科医師	中村 俊介
看護師(看護部次長)	吉田 雅子
診療放射線技師(技師長)	佐藤 久弥
臨床検査技師(係長)	加賀山 朋枝
患者相談窓口担当(総合相談センター 看護師長)	石原 実千代
管理第二課(課長)	浅川 悦久
医療安全管理部門担当事務	田丸 直樹
医療安全管理部門担当事務	中川 梓

3. 業務実績

①アクシデント・インシデント件数(合併症を含む)

	インシデント件数	アクシデント件数
誤薬(内服・外用)	1,080件	2件
誤注射・輸血	969件	0件
転倒・転落	562件	19件
チューブトラブル	915件	1件
検査・画像	752件	7件
手術・ME	404件	57件
食事・その他	1,193件	19件
合計	5,875件	105件

②インシデントレポート職種別報告件数(アクシデントは除く)

職 種	平成26年度	平成27年度
医師(研修医含む)	290件	442件
看護師	4,383件	4,819件
その他の職種	398件	614件
合計	5,071件	5,875件

③平成27年度医療安全配信の回覧・重要回覧の主な内容

発行日	内容	回覧／重要回覧
4月9日	コードブルー対応フローの一部改訂 及び 救急カート基本常備薬・医材物品の更新	27-1
5月8日	ヘパリン製剤の名称統一に伴う注意喚起	
7月1日	医療安全管理対策マニュアルの一部改訂	27-2
7月1日	医薬品に関する手順書の一部改訂	27-3
7月28日	自己注射薬の運用方法	
8月31日	リスペリドン内服液のオーダー方法変更	
10月9日	医療安全管理対策マニュアルの一部改訂	27-4
10月16日	医療安全管理対策マニュアルの一部改訂	27-5
12月12日	内視鏡外科手術における標準手術時間・出血量に関する管理体制	27-6
平成28年 3月18日	注射用カリウム製剤の運用	27-7
平成28年 3月29日	ホルダー心電図の検査申込方法	27-8

④医療安全管理部門主催講習会

1)全職員対象の医療安全対策講習会

	日時	主な内容	出席者 人数
第1回	4月20日(月) 17:15～18:15	『病院長からのメッセージ』 病院長 有賀 徹	815名
第2回	5月12日(火) 1部 17:15～18:15 2部 18:25～19:25	『H27年度版ポケットマニュアル活用法』 昭和大学病院医療安全管理者 石川 恵美子 救急医学科 海老原 直樹 感染管理者(1部) 中根 香織 東病院感染管理者(2部) 秋間 悦子	821名
第3回	7月29日(水) 18:00～19:00	『結核のあれこれ、何それ?』 感染症内科 小司 久志 『当院におけるカルバペネム耐性腸内細菌アウトブレイクに対 する現状と対応』 小児科 中野 有也 『医療機器のインシデント事例とその対策』 臨床工学技士 神崎 俊治	539名
第4回	9月16日(水) 1部 17:15～18:15 2部 18:25～19:25	『医薬品の安全管理』 医療安全薬品管理者 柏原 由佳 『クロストリジウム・ディフィシル環境整備について』 東病院感染管理者 秋間 悦子 『抗菌薬の使用状況』 東薬局(感染管理担当) 吉川 雅之	529名

トピックス	9月30日(水) 18:00～19:00	『医療事故調査制度』 病院長 有賀 徹 『2015 年前期 手指衛生遵守率の報告』 感染管理者 中根 香織 東病院感染管理者 秋間 悦子	383 名
第 5 回	11 月 12 日(木) 18:00～19:00	『苦情対応について』 帝京大学医学部附属病院医療サービス課 患者相談室 内田 れい子 『季節性インフルエンザと感染性胃腸炎について』 感染症内科 二木 芳人	390 名
第 6 回	平成 28 年 1 月 29 日(金) 18:00～19:00	『院内感染対策について多剤耐性アシネトバクター・AST活動等～』 感染症内科 詫間 隆博 『酸素ボンベの取り扱いと点検について』 株式会社千代田 高澤 正樹 『個人情報の取り扱いと漏洩事例について』 管理第二課 田丸 直樹	294 名

2)院内職員研修

開催日	対象	主な内容
4月1日	新入職者	『医療安全管理』について
4月2日	臨床研修医	『医療安全管理』について
4月8日	新人看護師	『安全管理の知識』
4月9日	既卒看護師	『安全管理』について
4月21日	新人看護師	『転倒転落予防対策』『危険予知トレーニング』
4月10日、14日	事務新人	『医療安全』について
6月1日	看護部研修	『危険予知トレーニング』
7月15日	看護部研修	『KYT と転倒転落の実践』
7月24日	看護部研修	『患者リスクアセスメント～チューブトラブルを防ぐ』
8月3日	看護部研修	『患者リスクアセスメント～不穏患者の対応』
7月27日	看護部研修	『点滴管理～状態に合わせた固定方法について』
9月17日	看護部研修	患者さん等による迷惑行為とその対応(暴言・暴力)
9月29日	看護部研修	『SBAR を用いた報告の実践』
10月1日	看護部研修	医療事故再発防止につなげる～インシデント・アクシデント事例の分析
10月14日	看護部研修	『事例を通して考える、自部署の安全管理』
10月2日	看護部研修	『事例を通して考える、自部署の薬剤管理』
6月23日	委託職員	『医療安全：活用しようポケットマニュアル』
12月	委託職員	『医療安全ヒヤリ・ハット』
毎月	看護部復職者研修	昭和大学病院の安全管理

3)CVC インストラクター研修

開催日	診療科
5月20日	小児科・消化器内科・乳腺外科・糖尿病代謝内科・放射線科・耳鼻咽喉科・産婦人科・皮膚科・循環器内科 (19名)
7月15日	循環器内科・救急医学科・糖尿病代謝内科・リウマチ膠原(13名)
7月22日	腎臓内科(5名)
10月21日	心臓血管外科・麻酔科・神経内科・救急医学科 (4名)
2月17日	小児外科・救急医学科・消化器外科・呼吸器内科・脳神経外科・小児科(12名)

4)人工呼吸器実践講習会

開催日	対象部署／診療科	参加人数
6月18日	呼吸器内科医師・研修医	医師3名 研修医4名
10月15日	ER・ICU・HCU・救急医学科	医師2名 看護師5名
12月10日	ER・ICU・HCU・救急医学科	医師2名 看護師5名
10月9日	CCU・HCU・ICU	看護師7名
1月14日	CCU・HCU・ICU	看護師7名
2月18日	CCU・HCU・ICU ER	看護師8名

5)BLS講習会

開催日	対象部署・職種	参加人数
5月21日	看護師	看護師 17名
6月10日	看護師(復職者)	看護師 6名
6月11日	看護師	看護師 11名
6月18日	看護師(復職者)	看護師 10名
6月24日	看護師	看護師 6名
6月25日	看護師	看護師 13名
7月8日	看護師	看護師 5名
7月9日	看護師	看護師 13名
7月16日	看護師(復職者)	看護師 5名
7月23日	看護師	看護師 11名
8月12日	看護師(復職者)	看護師 4名
8月13日	看護師	看護師 15名
8月26日	看護師	看護師 4名
8月27日	看護師	看護師 8名
9月10日	看護師・事務	看護師10名 事務3名
9月17日	看護師(復職者)	看護師 2名
9月24日	看護師	看護師 11名
10月8日	看護師・事務・臨床検査技師	看護師4名 臨床検査技師2名 事務2名
10月15日	看護師(復職者)・臨床検査技師	看護師5名 臨床検査技師3名
10月22日	看護師・事務・臨床検査技師	看護師7名 臨床検査技師2名 事務2名
11月12日	看護師(学内異動者・既卒者)	看護師10名
11月26日	看護師(学内異動者・既卒者)	看護師16名

⑤医療安全推進週間

平成27年度は11月25日～12月1日の1週間を医療安全推進週間と定め、職員を対象に自部署での医療安全に関する取り組みをスライド4枚程度にまとめて「自部署の安全自慢」として中央棟、入院棟に掲示した。また、医療安全標語を個人・部署に募集し、部署自慢同様に、職員及び患者の投票により最優秀賞を決定し、病院長、事務部長、医療安全管理部門長、看護部長がそれぞれ優秀と認めた部署を表彰した。患者さんには安全メッセージ入りのポケットティッシュを配布した。

職員に対しては「SBAR」と「Speak up」の重要性を携帯できるカードを全職員に配布した。

4. 平成27年度を振り返って

①確認行動の徹底	目標の設定が「確認行動」全般を指し、強化すべき対策の視点が曖昧となっていました。結果、患者誤認事例は昨年度160件に対し、6.4%増加した。医療安全としての課題としては、患者誤認、部位間違いが増加し、「照合確認」の不徹底、手術室以外でのタイムアウトの不徹底が問題である。また、ダブルチェックの形骸化もあり、有効に機能していないことから、来年度は課題を焦点化し取り組む必要がある。
②報告の徹底	安全文化を醸成するためには、報告文化を定着させる必要があり、年度の初めから、すべての講習会、研修、委員会にて「報告文化」の重要性を強調した。特に各部署のセーフティマネジャーの役割を向上することが重要である。今年度のセーフティマネジャーの自己評価、他者評価の平均点は昨年度6.9から7.4に上昇した。その結果として、病院全体の報告数は約1000件増加、医師・研修医の報告数は5.6%から7.1%に増加した。今後の課題としては、現状維持と診療科による報告数に差異があるため、さらに報告の必要性を強調していく必要がある。

5. 今後の課題と展望

●転倒転落予防対策を多職種で検討し、有害事象を減らします。 転倒転落に伴う有害事象が19件発生している。高齢者の増加、在院日数の短縮から、既存の予防対策を他職種で検討し、予防対策を図る。 ●侵襲性の高い治療・処置時のタイムアウトを徹底し、部位間違いを予防します。 左右の部位間違い事例から、手術室以外でのタイムアウトをシステム化する必要がある。 ●患者認証プロセス「最終行為直前」の確認を徹底し、患者誤認を減らします。 患者確認に関する知識はあるが、行動として習慣化されないことによって、患者誤認事例が増加している。特に最終行為直前の確認と照合が行えていない。患者誤認は医療安全上、重大な事例につながる可能性と個人情報の問題が関連しているため、習慣化できるように周知徹底する。
--

昭和大学病院 感染管理部門

1) 感染管理部門

1. 人員構成

感染管理部門長(感染症専門医)	二木 芳人	教授(大学院保健医療学 臨床検査専門医)	福地 邦彦
感染管理副部門長(感染症専門医)	詫間 隆博	クオリティマネジメント室長	大嶽 浩司
次長(看護師)	荒川 千春	感染管理者(感染症看護専門看護師)	中根 香織
薬剤師	内藤 結花	感染制御認定臨床微生物検査技師	宇賀神 和久
准教授(感染制御薬学)	石野 敬子	感染制御専門薬剤師	前田 真之

2. 資格者一覧

日本感染症学会専門医	2 名
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医	2 名
インфекションコントロールドクター(ICD)	2 名
臨床検査専門医	1 名
感染症看護専門看護師	1 名
感染制御専門薬剤師	1 名
日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師	2 名
感染制御認定臨床微生物検査技師	1 名

3. 業務実績

①新規 MRSA 検出件数

項 目	件 数・検出率
院内発生新規 MRSA	157 件(昨年 122 件)
持ち込み新規 MRSA(入院後 48 時間以内に検出)	173 件(昨年 123 件)
MRSA 検出率(新規 MRSA/延べ入院患者数×1,000)	0.64/1000days(昨年 0.48)

②針刺し切創・血液曝露事例発生件数

項 目	件 数
針刺し切創件数	56 件うち未使用針 13 件(昨年 58 件)
血液・体液曝露件数	15 件(昨年 15 件)
針刺し切創事例のうちリキップによる事例	4 件(昨年 4 件)
針刺し切創事例のうち手術室事例	13 件(昨年 11 件)

③ICT(環境)ラウンド件数

場 所	回 数
病 棟(中央棟, 入院棟)	40 回
外 来・検査部門・中材・解剖・歯科	13 回
中央部門(薬剤部,検査部,栄養科,ME 室,リハビリ,食堂)	6 回

④抗菌薬適正使用ラウンド・AST(抗菌薬適正使用支援チーム)ラウンド件数

抗菌薬適正使用ラウンド 中央棟,入院棟	48 件
AST ラウンド(血液培養陽性例)	612 件

⑤医療安全・感染対策講習会開催

	テーマ	開催日	人 数
1	病院長からのメッセージ	平成 27 年 4 月 20 日	815 名
2	H27年度版ポケットマニュアル活用法	5 月 12 日	821 名
3	・結核のあれこれ、何それ? ・当院におけるカルバペネム耐性腸内細菌アウトブレイクに対する現状と対応	7 月 29 日	539 名
4	・クロストリジウム・ディフィシルと環境整備について ・抗菌薬の使用状況	9 月 16 日	529 名
5	2015 年前期手指衛生遵守率の報告	9 月 30 日	383 名
6	季節性インフルエンザと感染性胃腸炎について	11 月 12 日	390 名
7	院内感染対策について 多剤耐性アシネトバクター・AST活動等～	平成 28 年 1 月 29 日	294 名

4. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 5 月 22 日	第 28 回 昭和大学 Infection Control Forum	昭和大学病院
2	平成 27 年 6 月 12 日	平成 27 年度 第 1 回 感染防止対策地域連携カンファレンス	昭和大学病院
3	平成 27 年 6 月 18 日	抗菌薬スキルアップセミナー アドバンスト 1	昭和大学病院
4	平成 27 年 6 月 26 日	抗菌薬スキルアップセミナー アドバンスト 2	昭和大学病院
5	平成 27 年 8 月 26 日	平成 27 年度 第 2 回 感染防止対策地域連携カンファレンス	昭和大学病院
6	平成 27 年 11 月 13 日	平成 27 年度 第 3 回 感染防止対策地域連携カンファレンス	昭和大学 江東豊洲病院
7	平成 28 年 1 月 27 日	平成 27 年度 第 4 回 感染防止対策地域連携カンファレンス	昭和大学附属 烏山病院

5. 今後の展望

- 手指衛生の5つのタイミングの遵守率は向上しているが、1患者あたりの手指消毒薬使用回数が増加していないため、適切な量を使用し使用回数を増加させる必要がある。持込み MRSA 件数が増加し、院内発生 MRSA が増加しているため、手指衛生と接触予防策の強化が必要である。
- 一部の診療科以外では血液培養 2 セット採取率は向上したと考えられるが、広域抗菌薬(カルバペネムやタゾバクタム・ピペラシリン)使用前の培養提出率が少なく、今後は広域抗菌薬使用前の培養採取の向上を図っていく。

昭和大学病院 ベッドコントロール管理室

1) ベッドコントロール管理室

1. 人員構成

室長	板橋 家頭夫
看護次長	吉田 雅子
その他	4 名

2. 業務実績

新入院患者数	19,174 人
緊急入院患者数	6,538 人
平均在院日数	11.5 日
病床利用率(全体)	81.6%
病床利用率(一般病棟)	86.1%

病棟工事を行い、特殊病床を減床し、一般病床を増床した。

3. 今後の展望

- 病床稼働率 90%以上、新規入院患者数 1,700 人/月を目標とする。
- 最適なベットコントロールを行うために、疾患や医療機器についての知識を深める。

昭和大学病院 総合相談センター

1) 総合相談センター

1. 人員構成

センター長(医師)		板橋家頭夫
副センター長(医師)		樋口比登実
専任スタッフ	事務員	立川純恵 高木菜穂
	医療連携担当	磯飛雄一
	総合相談センター担当看護師長	石原実千代
	退院調整看護師	松林幸子、伊藤浩、板垣友子
	患者相談担当看護師	大田優子
	緩和ケア担当看護師	脇谷美由紀、米村久美子
	ソーシャルワーカー	中澤恒子、多田弘美、小川何奈 鉾丸俊一、山田早貴、岩崎敏美
兼任スタッフ	薬相談担当	川手礼子
	栄養相談担当	菅野丈夫
	医療連携担当	山本茂
	諸法担当	脇坂美穂、小幡由美
	ベッド調整担当	伊藤亜紀子

2. 資格者一覧

認定医療対話推進者研修 修了	大田優子
がん性疼痛看護認定看護師	脇谷美由紀 米村久美子 松林幸子
がん相談員基礎研修1～3 修了	松林幸子 大田優子 多田弘美 小川何奈
がん相談員基礎研修1～2 修了	板垣友子 中澤恒子
社会福祉士	中澤恒子 多田弘美 小川何奈 鉾丸俊一 山田早貴 岩崎敏美
精神保健福祉士	中澤恒子 多田弘美 小川何奈 鉾丸俊一 岩崎敏美
児童福祉司	多田弘美

3. 業務実績

① 平成27年度 大学病院総合相談センター 相談件数 表1

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入院患者ケース数	209	227	238	252	235	190	235	220	217	240	269	272	2,804
外来・直接来所患者ケース数	180	171	189	164	135	135	104	153	174	107	211	114	1,837
がん相談患者ケース数	211	192	238	219	241	207	188	209	236	200	206	204	2,551
総数	600	590	665	635	611	532	527	582	627	547	686	590	7,192

②平成27年度 東病院総合相談センター 相談件数 表2

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入院患者ケース数	68	59	62	64	75	61	70	67	61	49	56	63	755
外来・直接来所患者ケース数	19	33	36	25	31	19	17	14	23	15	31	17	280
がん相談患者ケース数	0	2	2	3	2	3	0	1	1	2	3	3	22
総数	87	94	100	92	108	83	87	82	85	66	90	83	1,057

4. 社会・地域貢献活動

院内

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 6 月 24 日	活用しよう！退院調整システム(伊藤浩)	昭和大学病院
2	平成 27 年 8 月 28 日 8 月 3 日	明日からできる！退院調整看護師との連携 (伊藤浩 板垣友子)	昭和大学病院
3	平成 27 年 9 月 4 日 10 月 30 日	事例を通して考える退院調整 (伊藤浩 板垣友子 松林幸子)	昭和大学病院
4	平成 27 年 8 月 13 日	ソーシャルワーカーの役割 社会保障制度・資源について(中澤恒子)	昭和大学病院
5	平成 27 年 4 月～ 平成 27 年 3 月 年 10 回	口唇裂・口蓋裂父母教室 口唇裂・口蓋裂の患者の保護者対象に ソーシャルワーカーが社会資源について 講義 (多田弘美)	昭和大学病院
6	平成 27 年 4 月～ 平成 28 年 3 月 年 2 回	医師に対する緩和研修プログラム(PEACE) 昭和大学病院 (松林幸子 小川何奈)	昭和大学病院
7	平成 27 年 7 月 5 日	医師に対する緩和研修プログラム(PEACE) 昭和大学藤が丘病院 (中澤恒子)	昭和大学藤が丘病院
8	平成 27 年度	昭和大学緩和医療研究会世話人(松林幸子)	昭和大学
9	平成 27 年度 年 12 回	昭和大学在宅チーム医療教育推進委員会 委員 (中澤恒子)	昭和大学
10	平成 27 年 4 月～ 平成 28 年 3 月 年 2 回	看護キャリア開発・研究センター ELNEC-J(松林幸子)	昭和大学病院 昭和大学北部病院

院外

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年度	城南緩和ケア研究会世話人(松林幸子)	品川区 (NTT東日本関東病院)
2	平成 27 年 4 月～ 平成 28 年 3 月 年 10 回	東京都難病医療相談会 相談員 (中澤恒子 小川何奈)	東京都医師会館
3	平成 27 年度	品川区虐待防止ネットワーク推進協議会委員 (中澤恒子)	品川区

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
4	平成 27 年度	品川区地域医療連携会議検討部会委員 (石原実千代 中澤恒子)	品川区
5	平成 27 年度	目黒区高次脳機能障害者支援ネットワーク 会議委員 (中澤恒子)	目黒区
6	平成 27 年度	東京都神経難病医療ネットワーク事業拠点 病院 相談連絡員 (中澤恒子)	東京都

5. 今後の展望

- 院内の退院支援システムの再構築に取り組んできましたが、今後はさらに院内の退院支援体制を整備するとともに、患者・家族に対し、シームレスな医療・ケアを提供するために、地域の関係機関との連携を強化します。
- 総合相談センター内の記録やマニュアルを整備するとともに、変化している地域関係機関の機能を再確認し、情報の更新を行い、業務の効率化を図ります。

Ⅲ 各部門活動狀況

1 昭和大学病院附属東病院

昭和大学病院附属東病院 診療部門

1) 糖尿病・代謝・内分泌内科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：平野 勉

医局長：山本 剛史

病棟医長：小原 信

(2) 医師数

教授	1 名	講師	2 名	助教(員外)	9 名
准教授	0 名	助教	5 名	大学院生	2 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本糖尿病学会指導医	4 名
	日本内分泌学会指導医	1 名
専門医	日本糖尿病学会専門医	8 名
	日本内分泌学会専門医	1 名
	日本動脈硬化学会専門医	1 名
	日本老年医学会専門医	1 名
認定医	日本内科学会認定医	12 名
その他	日本生活習慣病学会管理指導医	1 名

(4) 主な診療実績

入院患者診療実績

疾患名(入院)	患者数
2 型糖尿病	317
1 型糖尿病	35
糖尿病合併症(感染症など含む)	31
低血糖症	6
下垂体疾患	8
甲状腺疾患	14
副甲状腺疾患	4
原発性アルドステロン症	20
原発性アルドステロン症以外の副腎疾患	11
低ナトリウム血症	5
その他	4
合計	455

2. 高度医療への取り組み

①SAP 療法の導入	CSII(インスリンポンプ療法)だけでなく、CSII に real time 持続血糖モニター検査 (CGM)を装備した SAP(Sensor Augmented Pump)を新たに導入した。 CSII から SAP 療法への切り替えについても患者の利便性を重視し、入院することなく外来で導入可能な体制を整えた。
②small dense LDL- コレステロールと HDL 亜分画コレステロール測定キットの開発と臨床応用	LDL 亜分画のうち、虚血性心疾患で増加し、動脈硬化惹起性が明らかにされている small dense(sd)LDL-コレステロールの測定方法を確立した。各種薬剤が sdLDL におよぼす効果やイベントに及ぼす影響を検討し、臨床応用を行っている。 さらに HDL 亜分画のコレステロールの測定方法を確立し、その臨床応用についても教室で行っている。
③持続血糖モニターの臨床応用	低血糖や血糖変動が心血管イベントを増加させることが明らかにされたことから検査需要が増加し、予約が困難であった CGM の台数を増やした。 これにより入院患者だけでなく、①水曜日～土曜日、②土曜日～火曜日のいずれにおいても外来で CGM 検査が実施可能となった。
④血管内皮機能検査の導入	糖尿病や生活習慣病により低下する血管内皮機能をモニターする ENDOPAT を導入し、外来での施行が可能となった。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 11 月 12 日	糖尿病デーイベント	昭和大学東病院 1、2 階
2	平成 28 年 2 月 6 日	1 型糖尿病患者会「青空の会」総会	昭和大学病院中央棟 7 階
3	毎月第 2 週土曜日 11 時	ヘルシースクール	昭和大学病院中央棟 7 階
4	毎月第 2 水曜日 15 時	糖尿病教室	昭和大学病院中央棟 7 階

4. 今後の展望

- 低血糖を起こしにくい薬剤や週一回製剤の登場により、糖尿病を含む生活習慣病の治療においてはさらにプライマリケアの重要性が高まっている。コントロール不良患者に対して専門医による適切な治療を選択したのち、プライマリケアの現場である近隣医療施設と連携して診療していけるようなシステムを構築していきたいと考えている。
- PCSK9 阻害薬により家族性高コレステロール血症患者の脂質コントロールがより厳格にできるようになった。冠動脈疾患のハイリスクであるこの疾患に対して脂質低下療法を行うことによる日本人の新しいエビデンスを発信していきたいと考えている。
- 甲状腺疾患や副腎疾患などの意外に罹病率が高い内分泌疾患に対して、積極的に負荷試験をおこない、診断が確定すれば外科と連携を取りながら治療をおこなっている。症例数も徐々に増加しており、今後は当院からの内分泌専門医の有資格者が増えていくことが予想される。

2) 神経内科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長: 小野賢二郎

医局長: 矢野 怜

病棟医長: 黒田 岳志

(2) 医師数

教授	2 名	講師	2 名	助教(員外)	8 名
准教授	1 名	助教	3 名	大学院生	3 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本神経学会指導医	4 名
専門医	神経内科専門医	12 名
	日本脳卒中学会専門医	2 名
	日本頭痛学会	2 名
	日本認知症学会	2 名
認定医	日本内科認定医	14 名

(4) 主な診療実績

	疾患名(入院)	患者数
1	脳血管障害 (脳梗塞、脳出血など)	228
2	けいれん／てんかん	84
3	パーキンソン病／ レヴィ小体型認知症	84
4	脱髄性疾患(多発性硬化 症、視神経脊髄炎など)	24
5	アルツハイマー型認知症	20
6	髄膜炎、脳炎	21
7	重症筋無力症	15
8	多系統萎縮症	16
9	末梢神経障害(ギランバ ー症候群、CIDP など)	40
10	運動ニューロン疾患	3

	主な検査・処置名 (外来・入院問わず)	患者数
1	頸動脈エコー	300
2	筋電図(末梢神経伝導速 度、針筋電図)	100
3	経食道心エコー	50
4	筋生検	2

2. 高度医療への取り組み

①rt-PA 静注療法/血管内治療	遺伝子組み換え組織プラスミノゲンアクチベーター(rt-PA)の静脈内投与は発症から 4.5 時間以内に治療可能な脳梗塞に対し有効とされている。速やかな脳神経外科との協力の上、適応患者に速やかに投与でき、必要に応じ血管内治療まで対応できる体制が整えられている。一方、加療開始までのさらなる時間短縮を目指し各スタッフと検証を繰り返している。
②神経変性疾患	小野教授の専門分野である認知症に加えパーキンソン病をはじめとした神経変性疾患への取り組みに力を注いでいる。認知症外来を充実させ臨床心理学的な検査や、頭部 MRI や脳血流シンチグラフィーなどの画像・核医学検査に加え、ApoE や各種脳脊髄液バイオマーカーを積極的に活用し、精度の高い世界レベルの診断を心がけている。また神経疾患の臨床及び基礎研究も発展させていきたいと考えている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 4 月 24 日	Parkinson's Disease Seminar	東京
2	平成 27 年 7 月 24 日	認知症カンファレンス	東京
3	平成 27 年 9 月 28 日	認知症クリニカルサミット「城南地区の認知症」	東京
4	平成 27 年 10 月 27 日	品川デメンシアコンgres	東京
5	平成 27 年 12 月 8 日	昭和大学学士会支援セミナー	東京
6	平成 27 年 7 月 24 日	第 9 回脳・心・腎 Joint Forum	東京
7	平成 28 年 1 月 29 日	Happy Face セミナー in 城南	東京
8	平成 28 年 2 月 10 日	世田谷認知症ネットワーク研究会	東京
9	平成 28 年 3 月 16 日	昭和大学学士会支援セミナー	東京
10	平成 28 年 3 月 25 日	城南パーキンソン病セミナー	東京

4. 今後の展望

- 脳血管障害は当科の入院患者でも最も多い疾患である。引き続き、適切で迅速な治療と再発予防に力を入れていく。
- 高齢化社会に伴い、認知症患者が増加している。認知症外来をさらに充実させるとともに、在宅医療を含めた包括医療を地域の先生方と一層の連携深めて行っていきたい。
- 高齢化社会に伴い、てんかん患者が増加している。ビデオ脳波モニタリングを活用するなど、いっそうのてんかん診療の向上を目指していきたい。

昭和大学病院附属東病院 診療部門

3) 精神・神経科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：岩波 明

医局長：岡島 由佳

(2) 医師数

教授	1 名	講師	0 名	助教(員外)	2 名
准教授	2 名	助教	1 名	大学院生	0 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本精神神経学会指導医	3 名
専門医	日本精神神経学会専門医	4 名
その他	精神保健指定医	5 名

(4) 主な診療実績

	外来患者数	患者数
1	外来患者数(初診)	716
2	外来患者数(再診)	34274
3	外来患者数(合計)	34990

	主な検査	患者数
1	心理検査(WAIS-III)	51
2	心理検査(WMS-R)	25

2. 高度医療への取り組み

①専門外来を設置し、より専門的な治療を目指している	パニック障害外来、物忘れ／認知症外来、アスペルガークリニック、PTSD 外来を開設し、より専門医療に特化した外来を心がけている。
②検査の充実	頭部 MRI、CT、脳波、血液検査などの器質的・身体的検査や心理検査などを組み合わせ、多角的視点から診断確定、治療方針の決定を行なうことを目指している。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 9 月 26 日	第 3 回成人発達障害支援研究会	昭和大学 上條講堂
2	平成 27 年 11 月 7 日	昭和大学附属烏山病院公開講座	昭和大学附属烏山病院
3	平成 27 年 11 月 7 日	東京都精神科医療地域連携事業公開講演会	昭和大学附属烏山病院

4. 今後の展望

- 専門外来をさらに充実させ、精神神経科領域の多くの疾患に対して専門治療を受けることが出来る環境を整える。
- 研究会などを定期的に行い、一般外来においても最新の知識と十分な経験に基づいた治療を受けられるよう、外来全体の質の向上をはかる。
- 昭和大学附属烏山病院をはじめとした関連病院と協力し、外来治療と入院治療の円滑な連携をはかる。
- 近隣のクリニックなどで治療中の精神的な問題を抱える患者について、患者およびその主治医も含めての相談窓口となることが出来るよう連携を心がける。

4) 眼 科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長： 高橋 春男

医局長： 恩田 秀寿

病棟医長： 小菅 正太郎

(2) 医師数

教授	1 名	講師	2 名	助教(員外)	6 名
准教授	2 名	助教	3 名	大学院生	1 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本眼科学会認定指導医	3 名
専門医 各学会認定医	日本眼科学会認定専門医	7 名
	日本眼科手術学会光線力学的治療認定医	3 名
	ロービジョン認定医	2 名
その他	トラベクトームインストラクター	2 名
	水晶体嚢拡張リング	6 名
	有水晶体眼内レンズ	1 名
	ボツリヌス毒素	4 名

(4) 主な診療実績

	手術	件数
1	白内障	1,877
2	硝子体疾患(内:硝子体注射)	1,509(1,107)
3	緑内障	93
4	眼窩疾患	85
5	眼瞼疾患	75
6	涙器疾患	23
7	斜視	19
8	結膜疾患	11
9	強角膜	10

2. 高度医療への取り組み

①トラベクトームを使用した緑内障手術	シュレム氏管をトラベクトームで電氣的に焼灼し房水流出を減らす低侵襲な緑内障を行っている。
②緑内障チューブシャント手術	複数回の濾過手術によっても眼圧下降が得られない難治性緑内障に対し行っている。
③広角眼内観察システムを使用した小切開硝子体手術(MIVS)	接眼レンズを使用せずに眼底を隅々まで観察しながら硝子体手術が可能である。また 27G トロカールを使用し強膜自己閉鎖が可能な小切開手術を行っている。
④有水晶体眼内レンズ(ICL)を用いた屈折矯正手術	強度近視眼や角膜が薄いために LASIK 手術が適応でない症例に対し行っている。
⑤ブローアウトバルーンを用いた眼窩底骨折整復術	上顎洞内でバルーンを膨らませることで、骨折した眼窩骨をそのまま利用できる手術を行っている。
⑥ナビゲーションシステム	ナビゲーションシステムを使用し、確実な眼窩内手術、視神経管開放術を行っている。
⑦涙道内視鏡	SIG (Seath guided intubation)により涙道内への確実なチューブ留置が可能である。
⑧未熟児網膜症	小児科、産婦人科と連携し未熟児網膜症の診察、レーザー治療を行っている。
⑨生物学製剤	加齢黄斑変性に対する VEGF 阻害薬硝子体注入や眼ベージェットに対する抗ヒト TNF α 抗体の全身投与を行っている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 4 月 22 日	第 4 回昭和大学眼科学術研究会	臨床講堂
2	平成 27 年 8 月 29 日	第 3 回 SOC	臨床講堂
3	平成 27 年 10 月 14 日	第 5 回昭和大学眼科学術研究会	臨床講堂
4	平成 28 年 3 月 5 日	第 3 回 SOM	目黒雅叙園

4. 今後の展望

- 眼科機器の発展はめざましい。積極的な機器申請を行い、最先端の診断並びに手術を実践していく。
- 昨今、手術の安全性が高まり、白内障のみならず硝子体などのクリニクでの日帰り手術が徐々に可能となってきた。大学病院眼科としても、患者のニーズに応じて、入院、日帰り手術の導入などの変革を行っていく。
- 眼窩底骨折手術などの眼窩手術が本邦でも最も多い施設である。今後も全国からの紹介患者を積極的に受け入れる。

5) 皮膚科

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：末木 博彦

医局長：大歳 晋平

病棟医長：岩井 信策

(2) 医師数

教授	1 名	講師	2 名(非常勤 8 名)	助教(員外)	5 名
准教授	2 名	助教	1 名	大学院生	4 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	研修医指導医	1 名
専門医	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医	5 名 (非常勤 8 名)
認定医	日本がん治療認定医機構 暫定教育医認定医	1 名

(4) 主な診療実績

	主な検査・処置	件数
1	皮膚腫瘍切除術・皮膚生検	1122
2	ナローバンド UVB 療法	2411
3	真菌鏡検	1188
4	ダーモスコピー	725
5	局所免疫療法(SADBE 療法)	547
6	陥入爪治療(手術、ワイヤー法など)	160
7	皮膚切開術	89
8	パッチテスト・皮内テスト	82
9	Q スイッチルビーレーザー療法	75
10	塩酸ブレオマイシン局注療法	57

	入院診療の内訳	件数
1	蜂窩織炎・丹毒	66
2	带状疱疹	50
3	皮膚良性腫瘍(手術)	47
4	自己免疫性水疱症	26
5	薬疹・中毒疹	24
6	乾癬	24
7	皮膚悪性腫瘍(化学療法含む)	20
8	アトピー性皮膚炎	10
9	血管炎・紫斑病	7
10	急性蕁麻疹	5

2. 高度医療への取り組み

重症薬疹	重症型薬疹(Stevens-Johnson 症候群、中毒性表皮壊死症、薬剤過敏性症候群)患者への集約的治療
乾癬	尋常性乾癬重症例、膿疱性乾癬、関節症性乾癬患者への生物学的製剤療法の導入
円形脱毛症	局所免疫療法(SADBE 療法)
難治性尋常性疣贅	塩酸プレオマイシン局注療法
難治性皮膚潰瘍	入院による陰圧閉鎖療法

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 5 月 16 日	第 17 回昭和大学皮膚科懇話会	東京カンファレンスセンター品川
2	平成 27 年 11 月 28 日	第 18 回昭和大学皮膚科懇話会	AP 品川アネックス

4. 今後の展望

- 近隣の医療機関との連携の強化を強化する。(懇話会の定期開催、紹介率・逆紹介率の向上)
- 高度医療を要する患者の積極的受け入れ
- 入院手術件数を増やす(特に悪性腫瘍)

昭和大学病院附属東病院 診療部門

6) 麻酔科（ペインクリニック）

1. 診療体制と実績

(1)

診療科長：大嶽 浩司

医局長：中川 元文

病棟医長：信太 賢治

(2) 医師数

教授	1 名	講師	3 名	助教(員外)	1 名
准教授	2 名	助教	14 名	大学院生	1 名

(3) 指導医及び専門医・認定医

指導医	日本麻酔科学会麻酔科指導医	5 名
専門医	日本麻酔科学会麻酔科専門医	5 名
	日本ペインクリニック学会専門医	8 名
	日本歯科麻酔科学会専門医	1 名
	日本集中治療学会集中治療専門医	2 名
	日本呼吸療法医学会専門医	1 名
	東洋医学会漢方専門医	1 名
認定医	日本麻酔科学会麻酔科認定医	6 名

(4) 主な診療実績

	入院治療	患者数
1	脊髄刺激療法	4

	外来治療・検査他	患者数
1	星状神経節ブロック	1800
2	硬膜外ブロック	1000
3	仙骨硬膜外ブロック	3100
4	X 線透視下ブロック	150
5	超音波ガイド下ブロック	480
6	光線療法	4000
7	神経電気検査(顔面神経)	350

2. 高度医療への取り組み

①脊髄刺激療法	薬物療法・神経ブロック療法などに治療抵抗性の難治性疼痛に対して、脊髄に電極を植え込む方法。痛みの原因が神経障害性痛であり痛みの範囲が比較的限局している場合や四肢の末梢血管障害に適応となる。適応疾患は、脊髄手術後の痛み、複合性局所疼痛症候群、末梢血管障害（ASO、バージャー病）、脊柱管狭窄症、帯状疱疹後神経痛、腕神経叢引き抜きなど。
②パルス高周波治療	神経ブロック時に、神経に影響を与えずに鎮痛効果を得る方法として、積極的にパルス高周波法を取り入れている。特に頸椎椎間関節症に対する超音波ガイド下後枝内側枝パルス高周波治療についての研究を行っている。

3. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 28 年 2 月 15 日	第 1 回痛み治療を考える会	昭和大学病院
2	平成 27 年 10 月 31 日	昭和ペインシンポジウム	目黒雅叙園

4. 今後の展望

●薬物療法

近年、慢性痛に対する様々なオピオイド治療薬が使用可能となり、難治性疼痛に苦しむ患者には朗報である。一方で、オピオイド薬の様々な問題点（不適切使用、乱用など）が指摘されている。当外来では、ペインクリニック学会の薬物療法ガイドラインに準じて、個々の患者に適した薬物療法を実践しており、今後も最適な薬物療法を研究していく予定である。

●東洋医学

東洋医学を専門とする「福田悟先生」の診察を開始した。西洋医学では改善が認められない患者に対して、積極的に東洋医学的な診察および治療（漢方薬・鍼）を取り入れ、成果を上げてきた。今後も東洋医学的手法を用いて、様々な痛みに対応していく予定である。

●インターベンショナル治療

従来の神経ブロック療法に限らず、高周波熱凝固法、パルス高周波法、脊髄刺激療法、Racz カテーテルによる硬膜外腔癒着剥離術など様々なインターベンショナル治療を用いて、難治性疼痛に対する治療を実践していく予定である。

1) 手術室

1. 人員構成

所属長(東病院 院長)	河村 満
師長	1 名
係長	2 名
看護師	13 名
中央材料室	3 名

2. 資格者一覧

感染管理認定看護師	1 名
-----------	-----

3. 業務実績

手術件数	平成 27 年度
眼科	3558 件
白内障手術	1825 件
その他	1733 件
皮膚科	114 件
合計	3672 件

4. 今後の展望

- 外来・病棟・手術室との連携システムの構築
- 術前外来の充実化
- 手術室回転率

昭和大学病院附属東病院 診療・患者支援部門

2) 薬 局

1. 人員構成

薬局長(代行)	佐々木 忠徳
その他	5 名

2. 資格者一覧

日本病院薬剤師会 生涯研修認定	5 名
日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定	2 名
日本病院薬剤師会 認定指導薬剤師	2 名
日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師	1 名
日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師	3 名
日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	3 名
日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト	1 名
日本腎臓病薬物療法学会 腎臓病薬物療法認定薬剤師	1 名
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	1 名
日本褥瘡学会 認定褥瘡薬剤師	1 名
日本リウマチ財団 リウマチ財団登録薬剤師	2 名

3. 業務実績

①処方箋薬業務(月平均)(前年度比)

外来処方箋枚数	286 枚(23.8 枚)(321.3%)
入院処方箋枚数	24,890 枚(2,074.1 枚)(99.0%)
入院処方箋疑義照会件数	159 件(13.3 件)(91.9%)
入院処方箋疑義照会率(件数/処方箋枚数)	0.6%
院外処方箋発行率	99.8%
院外処方箋疑義照会件数	2,200 件(183.3 件)(90.1%)
院外処方箋疑義照会后オーダ修正件数	1,170 件(160.1 件)

②医薬品情報管理業務(月平均)(前年度比)

医薬品情報提供(問い合わせ)件数	126 件(10.5 件)(75.4%)
------------------	----------------------

③薬剤管理指導業務(月平均)(前年度比)

介入患者数	5,685 人(473.8 人)(111.9%)
介入率(介入患者数/全入院患者数)	84.2%
薬剤管理指導人数	3,199 人(266.6 人)(137.9%)
退院指導人数	2,942 人(245.2 人)(2015 年 1 月～)
薬剤管理指導 325 点	2,048 件(170.7 件)(147.9%)
380 点	1,759 件(146.6 件)(128.7%)
退院時薬剤情報管理指導 90 点	2,179 件(181.6 件)(189.8%)
入院患者持参薬確認件数	4,180 件(348.3 件)(100.2%)

④治験薬管理(品目数)

	品目数			
診療科名	前年度繰越	新規受領	返却済み	管理中
糖尿病・代謝・内分泌内科	0	1	1	0
皮膚科	2	2	1	3
リウマチ・膠原病内科	1	1	0	2
精神神経科	1	0	0	1
麻酔科	1	0	0	1
合 計	5	4	2	7

⑤学会・病院薬剤師会委員活動等

日本腎臓病薬物療法学会評議員	1 名
私立医科大学協会感染対策協議会薬剤師専門職部会	1 名
東京腎と薬剤研究会世話人	1 名
東京都病院薬剤師会 輸液・栄養領域薬剤師養成特別委員	1 名
東京都病院薬剤師会 褥瘡領域薬剤師養成特別委員	1 名
学校薬剤師	1 名

4. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 28 年 1 月 14 日	第 1 回 Team Pharmacist Seminar 糖尿病治療	昭和大学病院

5. 今後の展望

●病棟業務関連の算定料増加(薬剤師業務の定量的評価)

薬剤管理指導料、退院時薬剤情報管理指導料、薬剤総合評価調整加算算定料の合計で評価

●ポリファーマシーへの介入(薬剤師業務の定量的評価)

チェックリスト活用し、処方薬減少

●キャリアパスの策定、認定・専門の取得・更新(薬剤師教育(卒前、卒後)の拡充)

抗菌化学療法認定薬剤師の認定取得、日本褥瘡学会認定師の認定取得、認定取得・更新のための出張年間予定の作成、認定取得・更新に必要な学会・セミナーに参加・受講

4) 放射線室

1. 人員構成

教授(統括部長兼務)	中澤 靖夫
講師(技師長兼務)	佐藤 久弥
主査(診療放射線技師)	今井 康人
その他	1 名

2. 資格者一覧

放射線管理士	1 名
MDIC 認定技師	1 名
放射線機器管理士	1 名

3. 業務実績

①東病院検査件数

モダリティ	平成 26 年度	平成 27 年度
一般撮影	7,302	6,752
ポータブル撮影	1,561	1,345
DR 検査	164	159
CT 検査	5,065	4,382

* 単位(件数)

4. 今後の展望

- チーム医療の一員として、病棟・外来と協働し検査・治療がスムーズに行えるよう連携を図る。
- 読影の補助業務の充実を図り、各診療科に情報提供できるように務める。
- 患者さんが安心して検査・治療を受けられるよう患者さんの要望に応じた放射線検査・治療説明を徹底する。

昭和大学病院附属東病院 診療・患者支援部門

5) 栄養科

1. 人員構成

栄養科長補佐	菅野 丈夫
係長	中田 美江
栄養士	4 名
調理師	2 名

2. 資格者一覧

日本病態栄養学会 病態栄養認定管理栄養士	1 名
日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士	1 名
日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士	1 名
日本心臓リハビリテーション学会 心臓リハビリテーション指導士	1 名
厚生労働大臣 給食用特殊料理専門調理師	1 名
厚生労働大臣 調理技能士	1 名

3. 業務実績

①給食数

一般常食	55,375 食(41.8%)
一般軟菜	10,261 食(7.8%)
流動食	32 食(0.02%)
学童小児食	304 食(0.2%)
非加算治療食	19,395 食(14.7%)
加算治療食	47,064 食(35.5%)
合計	132,431 食(100%)

②栄養指導件数（個人指導）

糖尿病	597 件(78.5%)
腎臓病	102 件(13.4%)
糖尿病透析予防指導	28 件(3.7%)
脂質異常症	17 件(2.2%)
心臓病・高血圧	7 件(0.9%)
その他	10 件(1.3%)
合計	761 件(100%)

③栄養指導件数(集団指導)

糖尿病教育入院	218 件
---------	-------

4. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容	開催地
1	平成 27 年 11 月 12 日	世界糖尿病デー	昭和大学病院附属東病院

5. 今後の展望

- NST 回診を元に低栄養患者の食事形態や食事内容を見直し、栄養状態の改善に努める。
- チーム医療に必要な技術・知識を習得し、水準の高い栄養業務を担い、管理栄養士の病棟配置を目指す。
- より良い患者給食の提供を考え、献立内容の見直しを行い、患者満足度とサービスの向上をはかる。

昭和大学病院附属東病院 診療運営部門

2) 管理課

1. 人員構成

事務部長	丸地 伸
課長	市川 三津子
その他	23 名

2. 業務実績

①ワークショップ開催

	テーマ	主催/参加者	開催月日	開催場所
1	地域に信頼される病院 患者に信頼される病院	病院/多職種	平成 27 年 9 月 4 日(金)～5 日(土)	TKP 品川カンファレンスセンター

②保険診療講習会

	開催月日	講師	開催場所
1	平成 27 年 12 月 7 日(月)	昭和大学横浜市北部病院消化器センター 助教 松平 信悟	入院棟臨床講堂
2	平成 28 年 2 月 15 日(月)	関東信越厚生局東京事務所 指導医療官 内藤 智雄	入院棟臨床講堂

③人権啓発講習会

	開催月日	開催場所	対象者
1	平成 27 年 7 月 16 日(木)	中央棟 7 階会議室	病院管理者層
2	平成 28 年 1 月 6 日(水)	入院棟臨床講堂	病院職員
3	平成 28 年 1 月 12 日(火)	入院棟臨床講堂	病院職員

④院内イベント(ボランティアによるコンサート)

	開催月日	開催場所	出演者	演目	参加人数
1	平成 27 年 6 月 26 日(金)	E3 デイルーム	王 曉東	中国琵琶弾き語り	27 名
2	平成 27 年 8 月 21 日(金)	E3 デイルーム	アンサンブル☆ ミルキーウェイ	弦楽四重奏	35 名
3	平成 27 年 10 月 23 日(金)	E3 デイルーム	ZUCCO	ギター演奏	40 名
4	平成 27 年 12 月 18 日(金)	E3 デイルーム	グループ・メリーゴーランド	オカリナ(コカリナ) ギター演奏	46 名
5	平成 28 年 2 月 19 日(金)	E3 デイルーム	榊 紫、他	バイオリン、シンセサイザー演奏	45 名

3. 社会・地域貢献活動、研究業績

	開催年月日	内容	開催地
1	平成 27 年 10 月 31 日(土)	クリニカルセミナー	シェラトン都ホテル東京
2	平成 27 年 11 月 12 日(木)	「世界糖尿病デー」イベント	東病院

4. 今後の展望

- 昭和大学病院・附属東病院の統合整備に向けて、課題解決を図る。
- 各診療科および看護部、検査部門等の情報共有・協力体制等を強化し、新入院患者向上・手術件数向上を図る。
- 環境の整備に努め、医療の現場を支援し、病院の活性化を図る。
- 全病院職員(委託・派遣含む)の連携を強化し、患者サービスの充実と円滑な病院運営を図る。

昭和大学病院附属東病院 医療安全管理部門

1) 医療安全管理部門

1. 理念・目標

1. 重大な事故を予防するため、患者・医療者が協働し、確認行動を徹底します。
2. 安全管理に対する組織的取り組みを強化するため、報告の徹底を図り、早期の対策を講じます。

2. 人員構成

医療安全管理部門長(病院長)	河村 満
副部門長(管理課長)	市川 三津子
医療安全管理者(看護師長)	彦山 弘子
医薬品安全管理責任者(薬剤師)	嶋村 弘史
医療機器安全管理責任者(診療放射線技師)	今井 康人

3. 業務実績

①アクシデント・インシデント件数(合併症を含む)

	インシデント件数	アクシデント件数
誤薬(内服・外用)	357件	2件
誤注射・輸血	96件	0件
転倒・転落	129件	3件
チューブトラブル	80件	0件
検査・画像	95件	0件
手術・ME	56件	1件
食事・その他	228件	1件
合計	1041件	7件

②インシデントレポート職種別報告件数(アクシデントは除く)

職 種	平成26年度	平成27年度
医師(研修医含む)	60件	100件
看護師	795件	852件
その他の職種	85件	89件
合計	940件	1041件

③平成27年度医療安全配信の回覧・重要回覧の主な内容

発行日	内容	回覧／ 重要回覧
4月9日	コードブルー対応フローの一部改訂 及び 救急カート基本常備薬・医材物品の更新	27-1
5月8日	ヘパリン製剤の名称統一に伴う注意喚起	
7月1日	医療安全管理対策マニュアルの一部改訂	27-2
7月1日	医薬品に関する手順書の一部改訂	27-3
7月28日	自己注射薬の運用方法	
8月31日	リスペリドン内服液のオーダー方法変更	
10月9日	医療安全管理対策マニュアルの一部改訂	27-4
10月16日	医療安全管理対策マニュアルの一部改訂	27-5
12月12日	内視鏡外科手術における標準手術時間・出血量に関する管理体制	27-6
平成28年 3月18日	注射用カリウム製剤の運用	27-7
平成28年 3月29日	ホルダー心電図の検査申込方法	27-8

④医療安全管理部門主催講習会

1)全職員対象の医療安全対策講習会

	日時	主な内容	出席者 人数
第1回	4月20日(月) 17:15～18:15	『病院長からのメッセージ』 昭和大学病院長 有賀 徹	100名
第2回	5月12日(火) 1部 17:15～18:15 2部 18:25～19:25	『H27年度版ポケットマニュアル活用法』 昭和大学病院医療安全管理者 石川 恵美子 救急医学科 海老原 直樹 昭和大学病院感染管理者(1部) 中根 香織 感染管理者(2部) 秋間 悦子	129名

	日時	主な内容	出席者 人数
第 3 回	7 月 29 日(水) 18:00～19:00	『結核のあれこれ、何それ?』 感染症内科 小司 久志 『当院におけるカルバペネム耐性腸内細菌アウトブレイクに対する現状と対応』 小児科 中野 有也 『医療機器のインシデント事例とその対策』 臨床工学技士 神崎 俊治	81 名
第 4 回	9 月 16 日(水) 1 部 17:15～18:15 2 部 18:25～19:25	『医薬品の安全管理』 医療安全薬品管理者 柏原 由佳 『クロストリジウム・ディフィシル環境整備について』 感染管理者 秋間 悦子 『抗菌薬の使用状況』 薬局(感染管理担当) 吉川 雅之	84 名
トピックス	9 月 30 日(水) 18:00～19:00	『医療事故調査制度』 昭和大学病院長 有賀 徹 『2015 年前期 手指衛生遵守率の報告』 昭和大学病院感染管理者 中根 香織 感染管理者 秋間 悦子	47 名
第 5 回	11 月 12 日(木) 18:00～19:00	『苦情対応について』 帝京大学医学部附属病院医療サービス課 患者相談室 内田 れい子 『季節性インフルエンザと感染性胃腸炎について』 感染症内科 二木 芳人	60 名
第 6 回	平成 28 年 1 月 29 日(金) 18:00～19:00	『院内感染対策について多剤耐性アシネトバクター・AST活動等～』 感染症内科 詫間 隆博 『酸素ボンベの取り扱いと点検について』 株式会社千代田 高澤 正樹 『個人情報の取り扱いと漏洩事例について』 昭和大学病院管理第 田丸 直樹	62 名

2)院内職員研修

開催日	対象	主な内容
4月1日	新入職者	『医療安全管理』について
4月2日	臨床研修医	『医療安全管理』について
4月8日	新人看護師	『安全管理の知識』
4月9日	既卒看護師	『安全管理』について

開催日	対象	主な内容
4月21日	新人看護師	『転倒転落予防対策』『危険予知トレーニング』
4月(2回)	事務新人	『医療安全』について
6月1日	看護部研修	『危険予知トレーニング』
7月15日	看護部研修	『KYT と転倒転落の実際』
7月24日	看護部研修	『患者リスクアセスメント～チューブトラブルを防ぐ』
8月3日	看護部研修	『患者リスクアセスメント～不穏患者の対応』
7月27日	看護部研修	『点滴管理～状態に合わせた固定方法について』
9月17日	看護部研修	患者さん等による迷惑行為とその対応(暴言・暴力)
9月29日	看護部研修	『SBAR を用いた報告の実際』
10月1日	看護部研修	医療事故再発防止につなげる～インシデント・アクシデント事例の分析
10月14日	看護部研修	『事例を通して考える、自部署の安全管理』
10月2日	看護部研修	『事例を通して考える、自部署の薬剤管理』
6月23日	委託職員	『医療安全:活用しようポケットマニュアル』
12月	委託職員	『医療安全ヒヤリ・ハット』
毎月	看護部復職者	昭和大学病院の安全管理

3)CVC インストラクター研修

開催日	診療科
5月20日	小児科・消化器内科・乳腺外科・糖尿病代謝内科・放射線科・耳鼻咽喉科・産婦人科・皮膚科・循環器内科 (19名)
7月15日	循環器内科・救急医学科・糖尿病代謝内科・リウマチ膠原(13名)
7月22日	腎臓内科(5名)
10月21日	心臓血管外科・麻酔科・神経内科・救急医学科 (4名)

4)BLS講習会

開催日	対象部署・職種	参加人数
5月21日	看護師	看護師 17名
6月10日	看護師(復職者)	看護師 6名
6月11日	看護師	看護師 11名
6月18日	看護師(復職者)	看護師 10名
6月24日	看護師	看護師 6名
6月25日	看護師	看護師 13名
7月8日	看護師	看護師 5名
7月9日	看護師	看護師 13名
7月16日	看護師(復職者)	看護師 5名
7月23日	看護師	看護師 11名
8月12日	看護師(復職者)	看護師 4名
8月13日	看護師	看護師 15名

開催日	対象部署・職種	参加人数
8月26日	看護師	看護師 4名
8月27日	看護師	看護師 8名
9月10日	看護師・事務	看護師10名 事務3名
9月17日	看護師(復職者)	看護師 2名
9月24日	看護師	看護師 11名
10月8日	看護師・事務・臨床検査技師	看護師4名 臨床検査技師2名 事務2名
10月15日	看護師(復職者)・臨床検査技師	看護師5名 臨床検査技師3名
10月22日	看護師・事務・臨床検査技師	看護師7名 臨床検査技師2名 事務2名
11月12日	看護師(学内異動者・既卒者)	看護師 10名
11月26日	看護師(学内異動者・既卒者)	看護師 16名

⑤医療安全推進週間

平成27年度は11月25日～12月1日の1週間を医療安全推進週間と定め、職員を対象に『安全活動自慢大会』を開催した。自部署での医療安全に関する取り組みをスライド4枚程度にまとめ、外来に展示した。また、「安全標語」の個人投票も募集を行った。職員及び患者の投票により最優秀賞を決定し、病院長、事務部長、医療安全管理部門長、看護部長がそれぞれ優秀と認めた部署を表彰した。患者さんには安全メッセージ入りのポケットティッシュを配布した。職員に対してはコミュニケーションスキルアップの目的で「SBAR」と「Speak up」の重要性を携帯できるカードを全職員に配布した。

4. 今後の展望

●転倒転落予防対策を多職種と検討して有害事象を減らす。

アクシデントは前年度と同数で3件の発生であったが、3a以下のインシデント発生率の増加が見られる。後期高齢者の増加と病態に関連した原因もあるが、今後、事例の分析を多職種で行い、未然予防や再発予防に取り組むシステム作りが必要である。

●浸襲生の高い治療・処置時のタイムアウトを徹底し、部位の間違いを予防する。

検査・手術において、部位の間違いなど、アクシデント事例の2件発生もあり、他職種で協働し「タイムアウト」の周知徹底を強化する必要がある。

●患者認証プロセス「最終行為直前」の照合確認を徹底し、患者誤認を減らす。

他職種において、患者確認、書類等の照合間違いの事例が前年の2倍に増加した為、マニュアルの内容を強化徹底すると共に重大な事故につながる危険性が高いため、医療において、安全文化の醸成は、患者の安全と安心を守るという面で必須である。組織のガバナンスを強化し、各部門のセフティーマネージャーを中心にシステム作りを構築する。

昭和大学病院附属東病院 感染管理部門

1) 感染管理部門

1. 人員構成

感染管理部門長(感染症専門医)	二木 芳人	クオリティマネジメント室長	大嶽 浩司
感染管理副部門長(感染症専門医)	詫間 隆博	講師(糖尿病内分泌代謝内科)	福井 智康
次長(看護師)	荒川 千春	感染管理者(感染管理認定看護師)	秋間 悦子
薬剤師	吉川 雅之	臨床検査技師	清野 桂子

2. 資格者一覧

日本感染症学会専門医	2 名
日本化学療法学会抗菌化学療法指導医	2 名
インфекションコントロールドクター(ICD)	2 名
感染管理認定看護師	1 名
感染制御認定薬剤師	1 名
日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師	1 名

3. 業務実績

①新規 MRSA 検出件数

項 目	件 数・検出率
院内発生新規 MRSA	22 件(昨年 15 件)
持ち込み新規 MRSA(入院後 48 時間以内に検出)	12 件(昨年 8 件)
MRSA 検出率(新規 MRSA/延べ入院患者数×1,000)	0.41/1000days(昨年 0.27)

②針刺し切創・血液曝露事例発生件数

項 目	件 数
針刺し切創件数	8 件うち未使用針 3 件(昨年 10 件)
血液・体液曝露件数	2 件(昨年 1 件)
針刺し切創事例のうちリキャップによる事例	1 件(昨年 0 件)
針刺し切創事例のうち手術室事例	4 件(昨年 5 件)

③ICT(環境)ラウンド件数

場 所	回 数
病 棟	20 回
外 来・中材・手術室	9 回
中央部門(薬局,検査室,栄養科,食堂)	9 回

④抗菌薬適正使用ラウンド・AST(抗菌薬適正使用支援チーム)ラウンド件数

抗菌薬適正使用ラウンド	37 件
AST ラウンド(血液培養陽性例)	70 件

⑤医療安全・感染対策講習会開催

	テーマ	開催日	人 数
1	病院長からのメッセージ	平成 27 年 4 月 20 日	100 名
2	H27 年度版ポケットマニュアル活用法	5 月 12 日	129 名
3	・結核のあれこれ、何それ? ・当院におけるカルバペネム耐性腸内細菌アウトブレイクに対する現状と対応	7 月 29 日	81 名
4	・クロストリジウム・ディフィシルと環境整備について ・抗菌薬の使用状況	9 月 16 日	84 名
5	2015 年前期手指衛生遵守率の報告	9 月 30 日	47 名
6	季節性インフルエンザと感染性胃腸炎について	11 月 12 日	60 名
7	院内感染対策について 多剤耐性アシネトバクター・AST活動等～	平成 28 年 1 月 29 日	62 名

4. 社会・地域貢献活動

	開催年月日	内容(学会・セミナー等)	開催地
1	平成 27 年 5 月 22 日	第 28 回 昭和大学 Infection Control Forum	昭和大学病院
2	平成 27 年 6 月 18 日	抗菌薬スキルアップセミナー アドバンスト 1	昭和大学病院
3	平成 27 年 6 月 26 日	抗菌薬スキルアップセミナー アドバンスト 2	昭和大学病院

5. 今後の展望

- 手指衛生の5つのタイミングの遵守率は向上しているが、1 患者あたりの手指消毒薬使用回数が増加していないため、適切な量を使用し使用回数を増加させる必要がある。持込み MRSA 件数が増加し、院内発生 MRSA が増加しているため、手指衛生と接触予防策の強化が必要である。
- 今後は広域抗菌薬使用前の培養採取を徹底させていく。

病院年報委員会 名簿

委員長	大 嶽 浩 司	(副院長／麻酔科)
委 員	矢 野 怜	(神経内科)
委 員	野 本 朋 宏	(消化器内科)
委 員	渡 辺 誠	(消化器・一般外科)
委 員	森 田 順	(泌尿器科)
委 員	小 林 宏 栄	(看護部)
委 員	田 中 克 己	(薬局)
委 員	白 井 敦	(薬局)
委 員	佐 藤 久 弥	(放射線室)
委 員	家 泉 桂 一	(臨床病理検査室)
委 員	吉 田 勝 彦	(臨床病理検査室)
委 員	間 部 亮 仁	(管理課)
委 員	早 川 友 賀	(管理課)
委 員	結 城 祐 磨	(管理課)
委 員	市 川 三津子	(東病院管理課)
委 員	田 丸 直 樹	(クオリティマネジメント課)
委 員	荒 川 博 美	(医事課)
委 員	檜 野 雅 実	(医療推進課)

平成27年度 病院年報

平成28年12月発行

編 集	病院年報委員会
発 行	昭和大学病院 〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8 昭和大学病院附属東病院 〒142-0054 東京都品川区西中延2-14-19
印 刷	(有) 創文社
